ISSN 0918－1946

調査年報21

平成20年度

財団法人　北海道埋蔵文化財センター

調 査 年 報 21

平 成 20 年 度

財団法人　北海道埋蔵文化財センター

調 査 年 報 21

平 成 20 年 度

財団法人　北海道埋蔵文化財センター

西斜面魚骨層検出状況

西斜面魚骨層土層断面

続縄文時代土坑墓（Ｐ－５）遺物出土状況

縄文時代晩期土坑墓（Ｐ－４）遺物出土状況

アイヌ文化期平地住居跡（UH－43）・炉跡土層断面

鉄斧出土状況（UH－43）（上段写真○印が出土位置）

森町石倉１遺跡　赤彩切断壺形ミニチュア土器出土状況

千歳市梅川４遺跡　板状岩偶出土状況

目　　次

口絵
目次
北海道史略年表
平成20年度の調査
1　調査の概要 …… 1
2　調査遺跡 …… 4
千歳市オルイカ２遺跡 …… 4
千歳市キウス５遺跡 …… 6
千歳市アンカリトー７遺跡 …… 8
千歳市アンカリトー９遺跡 …… 12
千歳市祝梅川上田遺跡 …… 14
千歳市祝梅川小野遺跡 …… 18
千歳市梅川１遺跡 …… 23
千歳市梅川４遺跡 …… 24
白老町虎杖浜２遺跡 …… 28
白老町ポンアヨロ４遺跡 …… 30
森町石倉１遺跡 …… 32
北斗市館野２遺跡 …… 36
北斗市館野遺跡 …… 41
北斗市館野６遺跡 …… 42
北斗市矢不来８遺跡 …… 45
北斗市矢不来10遺跡 …… 45
北斗市矢不来９遺跡 …… 46
恵庭市西島松５遺跡 …… 48
遠軽町旧白滝３遺跡 …… 50
釧路町天寧１遺跡 …… 58
下川町サンル４線遺跡 …… 62
3　自然科学的分析 …… 64
釧路町天寧１遺跡の放射性炭素年代測定結果について …… 64
4　現地研修会の記録 …… 66
5　協力活動及び研修 …… 68
6　平成20年度刊行予定報告書 …… 72
7　組織・機構 …… 73
8　職員 …… 74

北海道史略年表

本州の時代区分	年代（西暦）	北海道の時代区分	平成20年度調査遺跡の主な時期
明治～平成	A.D.1900	（近代、現代）	
江戸時代		近世：アイヌ文化期	矢不来９、館野６
室町時代		中世：アイヌ文化期	祝梅川小野、梅川１、梅川４ 祝梅川上田、祝梅川小野
鎌倉時代	A.D.1200		祝梅川上田、アンカリトー７
平安時代		擦文文化期	祝梅川上田
	A.D.800	オホーツク文化期	キウス５ 祝梅川小野
奈良時代			天寧１
古墳時代	A.D.400	続縄文時代	
弥生時代	B.C.300		石倉１
縄文時代 晩期	B.C.1000	縄文時代 晩期	祝梅川小野、梅川１、天寧１
縄文時代 後期	B.C.2000	縄文時代 後期	祝梅川小野 石倉１
縄文時代 中期	B.C.3000	縄文時代 中期	矢不来９、祝梅川小野、梅川４、サンル４線 館野２、館野６
縄文時代 前期	B.C.4000	縄文時代 前期	館野６、祝梅川小野 虎杖浜２、祝梅川小野
縄文時代 早期	B.C.7000	縄文時代 早期	虎杖浜２ 館野６
縄文時代 草創期	B.C.12000	縄文時代 草創期	旧白滝３ ↕ アンカリトー７ 祝梅川上田
旧石器時代	B.C.20000	旧石器時代	旧白滝３
	B.C.30000		

平成20年度の調査

1　調査の概要

今年度は道内７市町に所在する19遺跡で発掘調査を実施した。このうち14遺跡は先年からの継続調査である。このほか、４遺跡の整理作業を継続して行った。

発掘調査を工事原因別に見ると、国土交通省北海道開発局の各開発建設部が実施する工事に伴う調査が17遺跡で、道路工事及びダムを含む河川工事に伴うものである。東日本高速道路株式会社が建設する道路工事、釧路町が実施する町道工事に伴うものはそれぞれ１遺跡である。北海道（土木現業所）が行う工事に伴う２遺跡は、前年度までに発掘を終えたものであり整理作業、報告書の作成を行った。

以下、調査の成果を時代、時期順に略述する。縄文時代の遺跡では複数の時期の遺物が出土することが多いが、ここでは顕著なものを重点的に述べる。なお、文中で遺構などの末尾に括弧つきで示した数字は員数である。

旧石器時代　旧白滝３遺跡では、層位的な上下関係を確認できる石器群を検出した。石器群は遺物集中範囲ごとに平面的に分離することができ、しかもいくつかの時期の重複を確認できる。石器群は台形様石器石器群、細石刃核石器群（峠下・札滑型？）、舟底形石器石器群、広郷型細石刃核石器群、有舌尖頭器石器群、小型舟底型石器群に分けられる。

アンカリトー７遺跡では、広郷型細石刃核を含む石器集中を検出している。オルイカ２遺跡、祝梅川上田遺跡では細石器石器群を検出している。アンカリトー９遺跡ではラウンドスクレイパーが出土している。

縄文時代　早期　館野６遺跡では貝殻文土器を伴う土坑、フラスコ状土坑(1)を検出している。ポンアヨロ４遺跡では焼土(2)を検出し、中茶路式土器が出土している。

前期　虎杖浜２遺跡で出土した土器は、春日町式、静内中野式であり、同時期とみなされる格子目状の押型文土器もある。館野６遺跡では竪穴住居跡(17)、土坑（42)、焼土（62）などの遺構を検出しているが、これらは前期後半のものと中期前半のものがある。ここの調査範囲には幅30mほどの陥没地形があり、地すべり断層に由来する地形とみなされる。断層に関連する地表変動には、前期の竪穴住居跡の床面を横切っているズレもある。

祝梅川小野遺跡では、植苗式土器の時期の竪穴住居跡(2)、土坑を検出している。坑底面に厚さ１～２㎝の灰白色物質が敷かれている土坑もあった。ほかに綱文式、円筒土器下層式、大麻Ｖ式などの土器も出土している。

中期　館野２遺跡のＣ地区では、円筒土器上層式、サイベ沢Ⅶ式土器、見晴町式土器、大安在Ｂ式土器などの時期の竪穴住居跡（47)、土坑（121)、焼土（70)、集石(6)などが密集した状況で検出している。土坑には、墓とみなされるもの、フラスコ状のもの、埋設土器を伴うものがある。数十万点と予測される遺物の中には、土偶、シャチ形土製品（？)、石棒、石刀形石製品、玉などもある。館野６遺跡で検出された竪穴住居跡は、土器型式でみると円筒土器上層式、サイベ沢Ⅶ式、見晴町式などの時期である。石倉１遺跡ではサイベ沢Ⅶ式土器、見晴町式土器が出土している。

祝梅川小野遺跡では、円筒土器上層式、天神山式、北筒式などの土器が出土している。梅川４遺跡では橄欖岩製の板状岩偶（長さ6.7㎝、口絵４）が出土している。これの詳細な時期は決められないが、周囲から出土している土器は、中期のものである。アンカリトー７遺跡の焼土(3)は、中期のものであろう。

矢不来９遺跡では竪穴住居跡(2)、土坑(6)、焼土（30）を検出している。この住居跡は、６か所の柱

穴が明瞭である。

サンル４線遺跡では珪化岩の礫、石核、剥片、砕片が多量に出土している。時期を推定できる考古学的資料は得られていないが過年度の調査により中期のものと考えられる。石核・剥片の接合状況は、ここが剥片剥離・石器製作の場だったことを示している。

後期　石倉１遺跡では、竪穴住居跡(4)、水場遺構(1)などを検出し、土器は天祐寺式、涌元１式、涌元２式，トリサキ式、大津式、手稲式などが出土している。祝梅川小野遺跡では、手稲式土器の時期の竪穴住居跡(2)を検出し、タプコプ式土器、ウサクマイＣ式土器、ホッケマ式土器、堂林式土器、御殿山式土器などが出土している。

晩期　祝梅川小野遺跡ではタンネトウＬ式土器の時期の土坑(18)を検出している。これらの土坑は隣接する梅川４遺跡から続く遺構群である。ここでは美々３式土器があり、さらに樽前ｃ降下火山灰の上下の層から、タンネトウＬ式土器が出土している。梅川１遺跡では、タンネトウＬ式土器の時期の焼土(8)が検出されている。オルイカ２遺跡ではタンネトウＬ式土器が出土している。

天寧１遺跡の竪穴住居跡(4)、土坑(14)、土坑墓(12)、焼土(13)、集石(1)ならびに「魚骨層」２か所は緑ヶ岡式土器の時期であろう。土坑墓ではベンガラ、石斧(3)、黒曜石製剥片石器(5)が出土したものがある（口絵２）。「魚骨層」で目に付くのは、ヒラメ、カレイ、スズキ、イトヨ等の魚類とイルカ、クジラ等の海生哺乳類、オオハクチョウ、さらにエゾシカ、イヌ等の陸生哺乳類などであり、銛頭、針などの骨角器もある。

続縄文時代　石倉１遺跡では恵山式土器が出土している。天寧１遺跡の土坑墓(3)のひとつからは、北大式土器が２点器形を保って出土している（口絵２）。

擦文文化期　キウス５遺跡では竪穴住居跡(3)が検出されており、そのうちのひとつは平面形が隅丸長方形である。ここの覆土上面から甑破片、床面から甕・坏・高坏・小型土器・紡錘車などが出土している。祝梅川上田遺跡の竪穴住居跡(1)は一辺が６ｍほどの方形であり、東側にカマドがある。祝梅川小野遺跡の竪穴住居跡(3)のうちひとつは、平面形が方形で南側にカマドがあり、主柱穴は竪穴内にある。住居跡とその周辺で擦文土器、紡錘車が多く出土している。また、擦文土器が白頭山－苫小牧降下火山灰（B-Tm）の上下の層から出土している。

平成20年度の発掘調査など

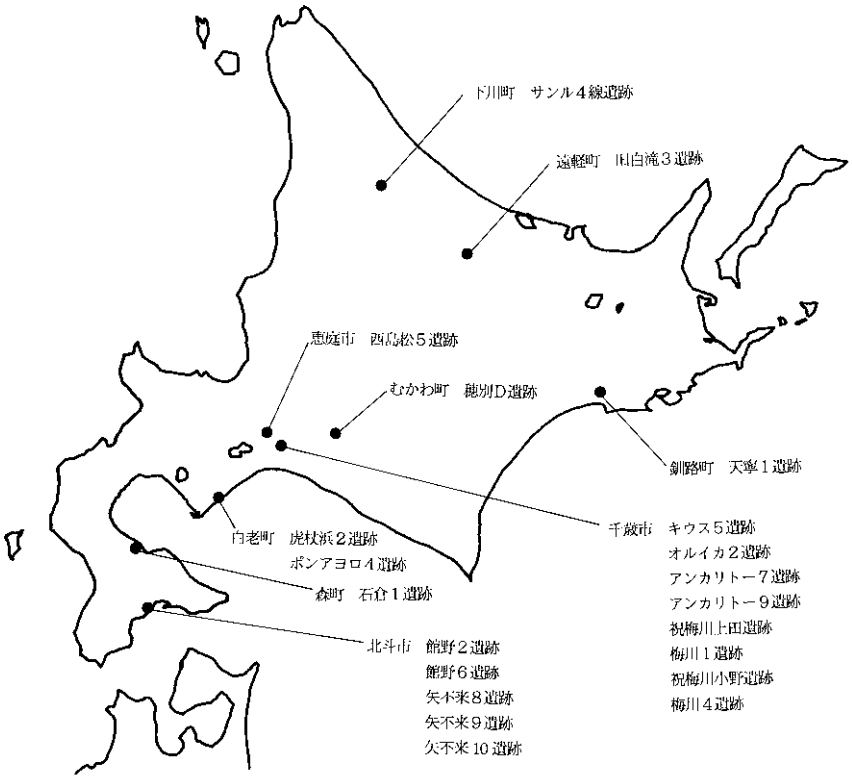
事業委託者	原因工事	遺跡名	所在地	調査面積（㎡）	区分、備考
札幌開発建設部	一般国道337号千歳市新千歳空港関連工事	キウス５	千歳市	721	平成15、16、18、19年
		オルイカ２	千歳市	3,220	平成14、16、19年
		アンカリトー７	千歳市	4,050	新規
		アンカリトー９	千歳市	6,680	新規
		祝梅川上田	千歳市	9,910	平成18年
		梅川１	千歳市	893	新規
		祝梅川小野	千歳市	10,267	平成19年
		梅川４	千歳市	13,550	平成18、19年
函館開発建設部	高規格幹線道路函館江差自動車道 函館茂辺地道路工事	館野２	北斗市	2,076	平成19年
		館野６	北斗市	5,768	新規
		矢不来８	北斗市	1,791	平成17、18年
		矢不来９	北斗市	1,514	平成19年
		矢不来10	北斗市	1,907	平成18年
		館野	北斗市	整理作業	平成16年調査
旭川開発建設部	天塩川サンルダム建設事業	サンル４線	下川町	900	平成19年
室蘭開発建設部	一般国道36号白老町虎杖浜 ポンアヨロ４遺跡外	虎杖浜２	白老町	300	平成18、19年
		ポンアヨロ４	白老町	950	平成15年
網走開発建設部	旭川紋別自動車道白滝丸瀬布道路工事	旧白滝３	遠軽町	3,300	新規
		白滝遺跡群	遠軽町	整理作業	平成15年～、調査
石狩支庁（札幌土木現業所）	柏木川基幹河川改修工事	西島松５ほか	恵庭市	整理作業	平成18年調査
胆振支庁（室蘭土木現業所）	道道北進平取線交付金Ｂ（交安）工事	穂別Ｄ	むかわ町	報告書刊行	平成19年調査
釧路町	町道床丹５号線道路改良事業	天寧１	釧路町	700	平成17、18年
東日本高速道路㈱函館工事事務所	北海道縦貫自動車道建設事業	石倉１	森町	15,543	平成14、15、16年
合計				84,040	

アイヌ文化期　アンカリトー７遺跡では、平地住居跡(11)、建物跡(2)、土坑墓(1)、柱穴（300)、灰集中(5)、焼土(8)、貝集中(1)などが検出されている。平地住居跡は平面形が長方形のものが多い。住居跡からは棒状礫、鉄鍋、刀子、マレク、鋏などの金属製品が出土している。長さ235cmの土坑墓の内部四隅には打ち込みの柱穴跡がある。祝梅川上田遺跡では、建物跡（40)、土坑墓(1)、道跡(3)などを検出している。土坑墓には、青磁皿、漆碗、鉄刀などが伴う。金属製品には、鉄鍋、星兜、小札、斧、鎌、鍬先、ヤス、マレク（魚突鉤銛)、刀子、銅銭など160点ほどが出土している。銅銭文字は、唐、北宋、南宋、明、李氏朝鮮時代などの年号である。建物跡周囲の出土遺物に、キセルや「寛永通宝」などが見当たらないことなどから判断すると、より古い時期のものであろう。祝梅川小野遺跡では、擦文文化期の竪穴住居跡を迂回する道跡を検出し、そのさきは祝梅川のほうに続いている。焼土・灰集中・骨片集中・礫集中・杭列などが検出された周辺から、内耳鉄鍋、刀子、鍔などの金属製品、「ピッ」と呼ばれる棒状礫が出土している。樽前ａ降下火山灰よりも下位の古流路の屈曲部の泥炭層部分から、樹木を加工した角材や切片が出土している。梅川１遺跡では、丸太の加工残片と見なされる10～20cm角の切片が多量（約40,000）に出土した。これは樽前ａ降下火山灰よりも下位の泥炭層からの出土である。梅川４遺跡では道跡を数条確認している。道跡に沿って、柱穴、焼土などを検出し、鉄鍋、刀子、キセルの雁首、耳飾などの金属製品、ガラス玉、土鈴などのほか、多量の獣骨、カワシンジュガイが出土している。道跡の北東側に沿って、一辺が3.5～４ｍほどの正方形を成す平地住居跡を検出した。

矢不来９遺跡では、駒ケ岳ｄ降下火山灰（1640年降下）よりも新しい時期の平地住居跡(1)が検出されている。柱穴の覆土中からキセルの吸い口が出土し、中央部には炉がある。館野６遺跡では、駒ケ岳ｄ降下火山灰よりも新しい時期の畑跡を検出している。

継続整理・報告書作成

白滝遺跡群、西島松５遺跡、館野遺跡については、継続して膨大な資料群の整理を行い、順次報告書を刊行している。白滝遺跡群では、旧白滝16遺跡の小型不定形剥片石器群についての剥片剥離技術の実態が説明できるようになっている。館野遺跡は平成16年度に調査したものの整理作業である。館野遺跡では「吊り穴付小型土器」とでも称すべき土器を確認している。時期は縄文時代後期初頭かと推定している。穂別Ｄ遺跡については報告書を刊行した。



2　調査遺跡

千歳市　オルイカ２遺跡（A－03－280）

事 業 名：一般国道337号千歳市新千歳空港関連工事埋蔵文化財発掘調査

委 託 者：国土交通省北海道開発局札幌開発建設部

所 在 地：千歳市中央395－78ほか

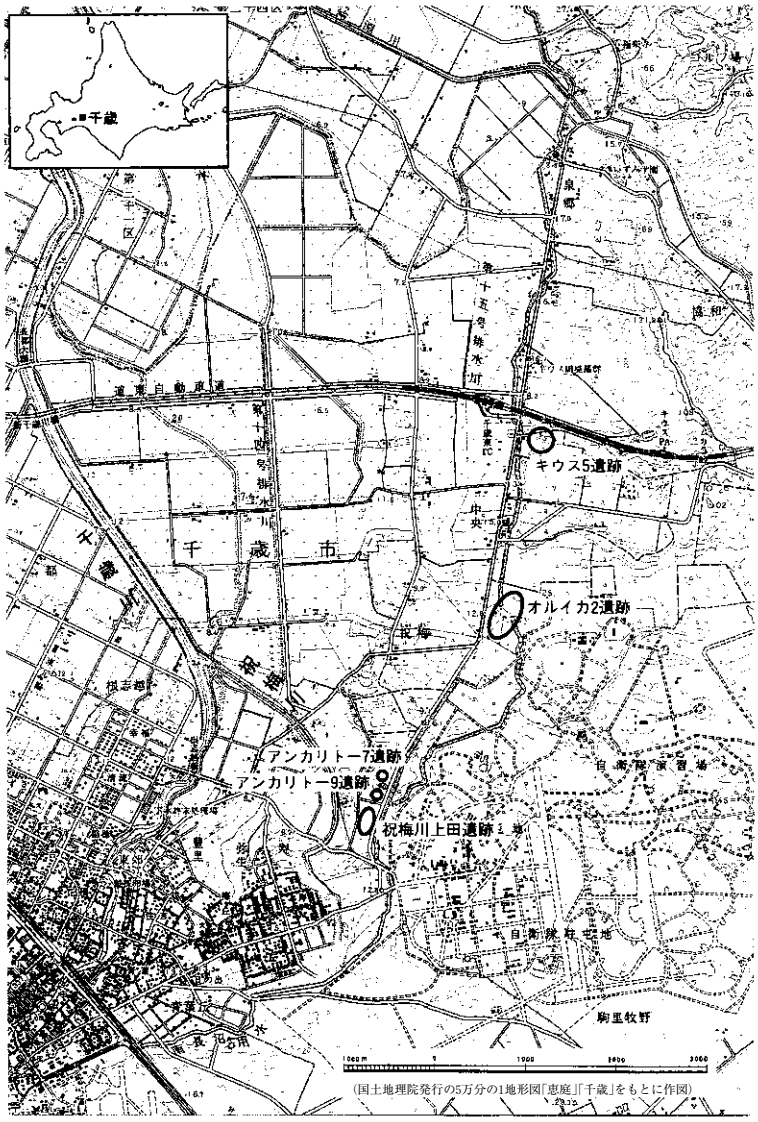
調査面積：3,220㎡

調査期間：平成20年８月20日～10月15日

調 査 員：三浦正人、末光正卓

遺跡の概要

遺跡は、千歳市街から北東に約６㎞、馬追丘陵西側裾部、オルイカ川の右岸に立地する。本事業では、当センターにより平成14・16・19年度に発掘調査が行われた。本年度は、南長沼用水の南東側、19年度調査区に接する部分の第Ⅱ黒色土層（Ⅴ層）について調査を行い、当事業に伴う本遺跡の調査は完了となった。層序は、Ⅵ層：漸移層、Ⅶ層：黄褐色ローム層、Ⅷ層：恵庭ａ降下軽石堆積物層である。



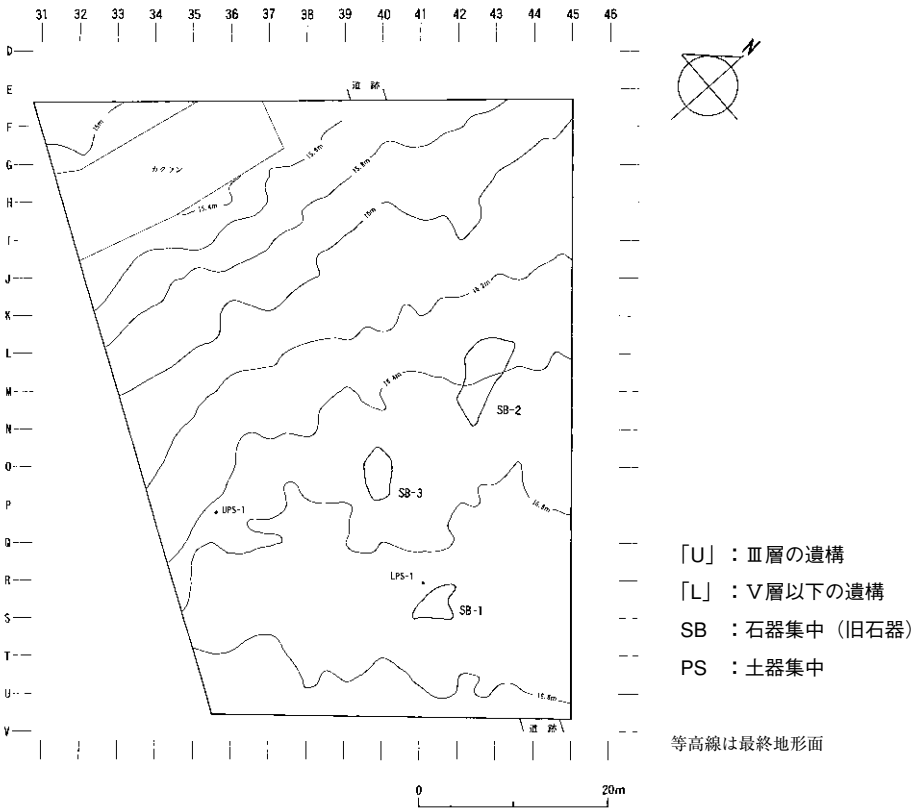
遺跡位置図

遺構と遺物

遺構は確認されなかった。昨年度調査区から本年度調査区にかけて認められた、TP-2としていたものは、風倒木痕であることが判明した。

遺物集中では、土器集中LPS-1、UPS-1、旧石器時代のブロックSB-１・２・３を確認した。土器集中はともに縄文時代晩期で、UPS-1は風倒木痕内に堆積したⅢ層からの出土である。SBは、いずれも点数が10～20点程度の小規模なもので、彫器、石刃、細石刃、ラウンドスクレイパー等が出土している。

包含層の遺物は、土器が151点で、縄文時代中期、後期、晩期のものである。石器類は121点で、旧石器時代のものは石刃、細石刃等、縄文時代のものは、石鏃、つまみ付きナイフ、スクレイパー、磨製石斧、たたき石、台石である。特徴としては石鏃と磨製石斧が多いことである。



遺構位置図

調査状況

旧石器時代石器出土状況（SB－１）

Ⅴ層土器出土状況（LPS－１）

旧石器時代ブロック１（SB－１）

千歳市（ちとせし）　キウス５遺跡（A－03－93）

事 業 名：一般国道337号千歳市新千歳空港関連工事埋蔵文化財発掘調査

委 託 者：国土交通省北海道開発局札幌開発建設部

所 在 地：千歳市中央1319－8ほか

調査面積：721㎡

調査期間：平成20年９月１日～10月16日

調 査 員：三浦正人、愛場和人

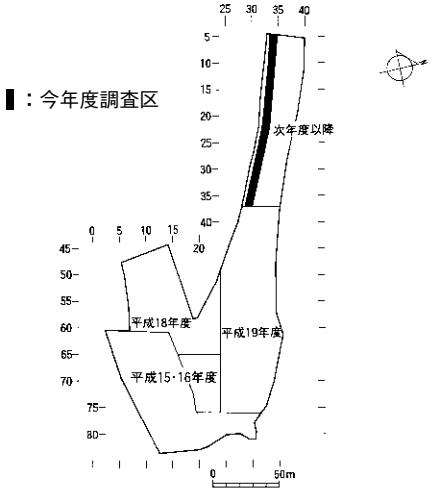
遺跡の概要

遺跡は千歳市街地から北東に約８㎞、馬追丘陵西側裾部のキウス川北岸に位置する。標高は６～40mである。平成6～10年度に高速道路建設に伴う発掘調査を当センターと千歳市教育委員会が行っており、61,985㎡を調査した（北埋調報92・104・115・116・125・126・136）。また対岸にはキウス９遺跡（北埋調報252）がある。

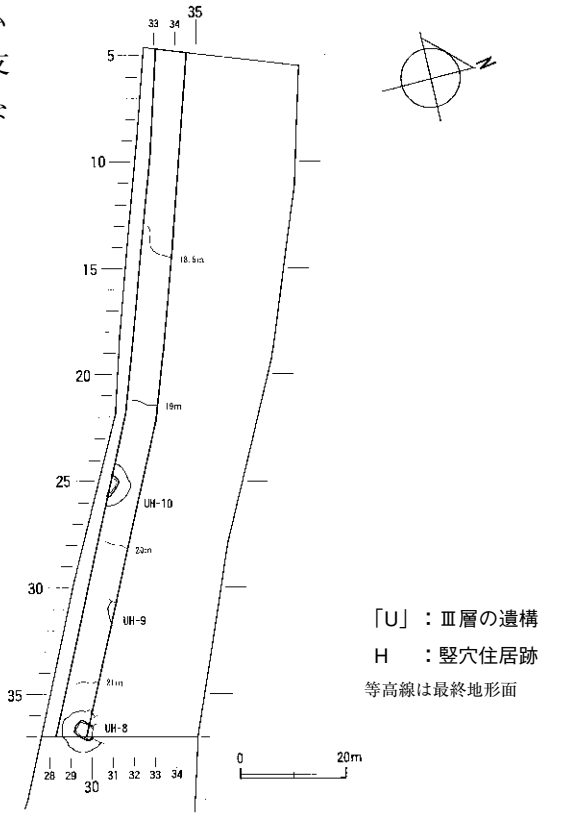
今回の調査は国道337号線の新ルート建設工事に伴うもので、丘陵端部の台地部とキウス川沿いの低地部が対象である。平成15年度（5,000㎡）、16年度（1,056㎡）、18年度（3,200㎡）、19年度（6,100㎡）と調査を行い、低地部については報告済み（北埋調報251）である。過年度の台地部分では擦文文化期の竪穴住居跡、縄文時代中期後半の竪穴住居跡、土坑、焼土列、後期旧石器時代の石器集中などを検出し、遺物点数は150,000点を超えている。特に縄文時代中期後半の遺構、遺物が多く、平成19年度調査区北東側では密集した竪穴住居跡を検出した。

今年度は台地部721㎡を調査した。次年度以降も当遺跡の調査は継続する予定である。

基本層序は、Ⅰ層：表土、Ⅱ層：樽前a降下軽石堆積物層（Ta-a）、Ⅲ層：第Ⅰ黒色土層、Ⅳ層：樽前ｃ降下軽石火砕堆積物層（Ta-c）、Ⅴ層：第Ⅱ黒色土層、Ⅵ層：漸移層、Ⅶ層：恵庭ａ降下軽石上位のローム層、Ⅷ層：恵庭ａ降下軽石堆積物層（En-a）、Ⅸ層：支笏軽石流堆積物層（Spfl）である。Ⅲ・Ⅴ～Ⅶ層が主な遺物包含層である。



年度別調査区

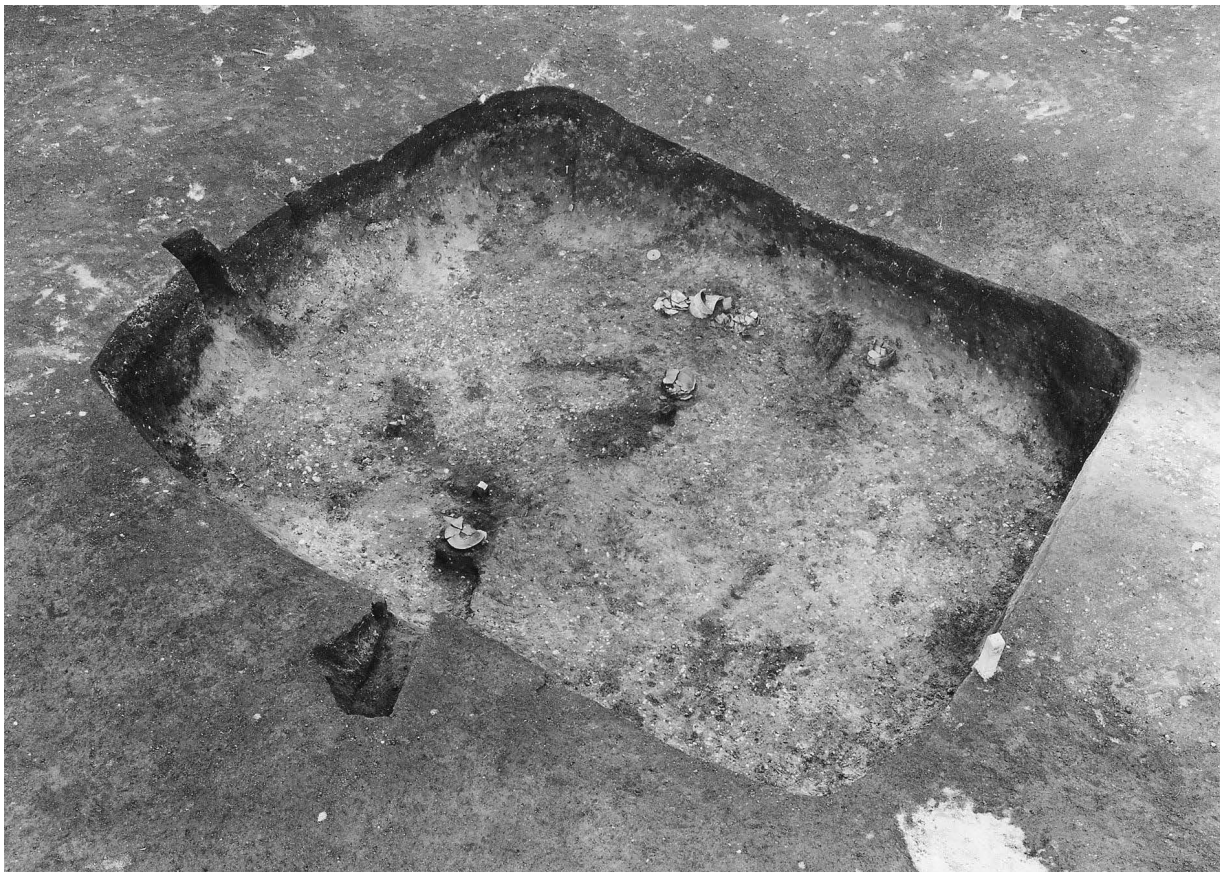


遺構位置図

遺構と遺物

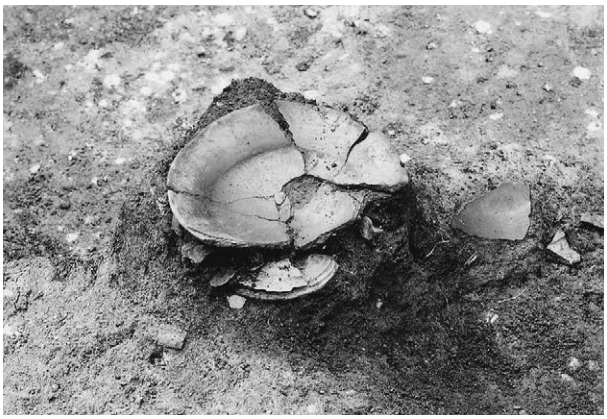
遺構はすべてⅢ層から検出し、竪穴住居跡３軒、土器破片集中１か所を確認した。時期はいずれも擦文文化期である。竪穴住居跡UH-8は3.6m×2.8mの隅丸長方形を呈するもので、カマドおよび柱穴は検出されなかった。覆土上面から甑破片、床面からは甕・坏・高坏・小型土器・紡錘車などが出土した。UH-9は主体部が次年度以降調査区にあるため、掘り上げ土の一部を調査し、UH-10は調査範囲外にかかるため住居跡全体の1/3程の調査となっている。

遺物は土器が約1,845点、石器等が66点出土している。土器は擦文土器が主体で、縄文時代中期の土器、続縄文土器も少量みられる。石器等はフレイクが多い。



擦文文化期竪穴住居跡（UH－８）

UH－８床面甕出土状況



UH－８床面高坏出土状況

千歳市　アンカリトー７遺跡（A－03－67）

事 業 名：一般国道337号千歳市新千歳空港関連工事埋蔵文化財発掘調査

委 託 者：国土交通省北海道開発局札幌開発建設部

所 在 地：千歳市祝梅607－4ほか

調査面積：4,050㎡

調査期間：平成20年５月８日～９月11日

調 査 員：三浦正人、愛場和人、末光正卓、阿部明義

遺跡の概要

遺跡は千歳市街地から北東に約３㎞の祝梅川東岸に位置する。調査区の地形は南西側から洪積世の古砂丘に起因する緩斜面が続き、北側はやや平坦となる。標高は約14～17ｍである。南西側にはアンカリトー９遺跡、祝梅川上田遺跡がある。基本層序は、Ⅰ層：表土、Ⅱ層：樽前ａ降下軽石堆積物層（Ta-a)、Ⅲ層：第Ⅰ黒色土層、Ⅳ層：樽前ｃ降下軽石火砕堆積物層（Ta-c)、Ⅴ層：第Ⅱ黒色土層、Ⅵ層：漸移層、Ⅶ層：恵庭ａ降下軽石上位のローム層、Ⅷ層：恵庭ａ降下軽石堆積物層（En-a)、Ⅸ層：支笏軽石流堆積物層（Spfl）である。遺物包含層はⅢ・Ⅴ～Ⅶ層で、Ⅲ層は広く耕作による天地返しの影響を受けていた。

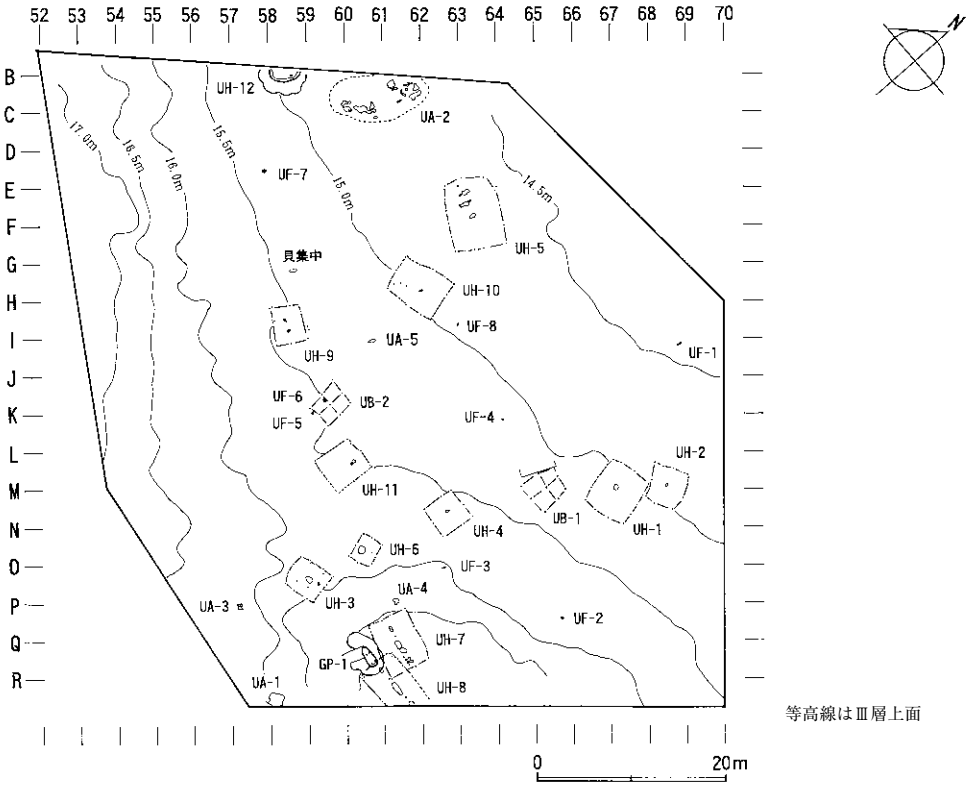
遺構と遺物

Ⅲ層の遺構は平地住居跡11軒、建物跡２棟、土坑墓１基、浅い竪穴状遺構１基、杭穴315基、灰集中５か所、焼土８か所、貝集中１か所で、いずれも時期はアイヌ文化期と考えられる。平地住居跡は平面形が長方形のものが多く、長軸が４～５ｍと６～７ｍのものとに大きく分けられる。セムなど付属部は明瞭ではない。住居内からは棒状礫や鉄鍋、刀子、マレク、鏃など金属製品が出土している。またUH－５・６・８の炉跡の灰サンプルからはヒエなどの炭化種子とともに炭化米を数粒確認している。平地住居跡には長軸方向の違いや重複があるため時期差があるものと考えられる。

土坑墓（GP-1）は長さ235㎝・幅90㎝の隅丸長方形で、周囲には掘り上げ土がみられる。土坑内の四隅には打ち込みの柱穴跡がある。遺物は伴っていないが、近くから刀鍔と切羽が出土している。平地住居跡（UH－７・８）と近接しており、住居廃絶後に構築された可能性がある。灰集中２は10ｍ×５ｍ程の範囲で数か所の灰のまとまりがみられたものである。灰中や周辺からは棒状礫、琥珀、刀飾りなどの金属製品が出土し、灰中にはサケ類を主体とする魚骨、カワシンジュガイ、シカなどの動物骨を多量に含んでいた。他の灰集中からも骨角器、動物遺存体が得られている。

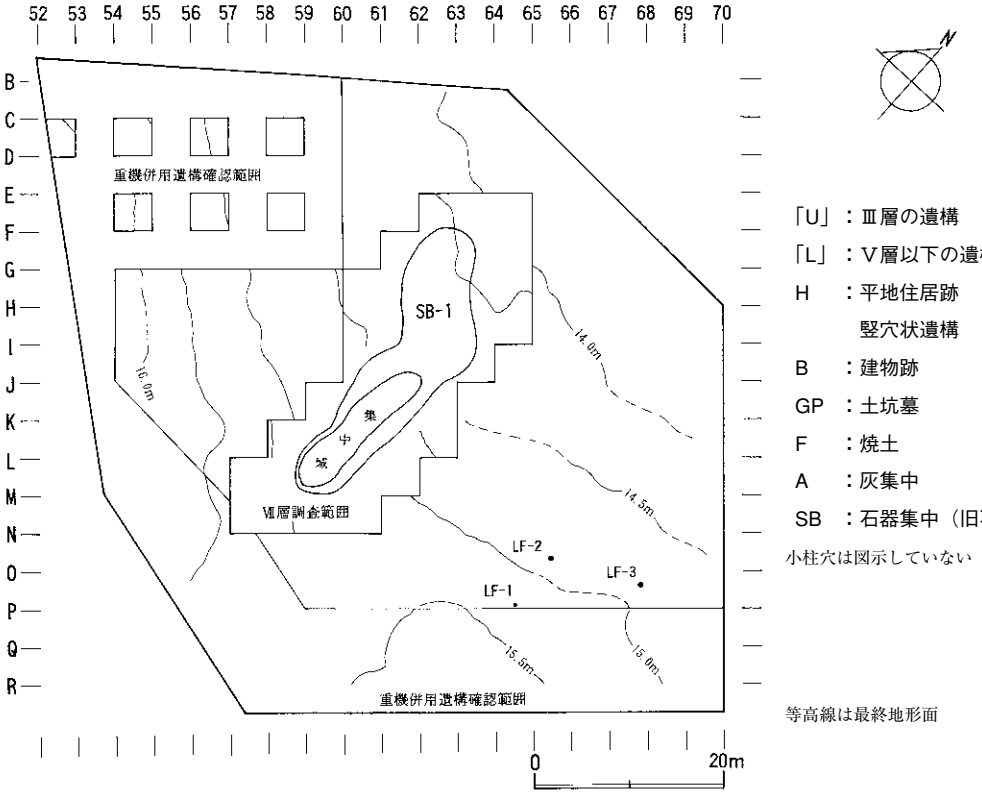
Ⅴ層の遺構は焼土３か所で、時期は縄文時代中期の可能性がある。Ⅴ・Ⅵ・Ⅶ層からは後期旧石器時代の石器集中を１か所検出している。広郷型細石刃核を含む石器群で、細石刃・細石刃核・彫器・削片・掻器・削器・両面調整石器・石刃・砥石・斧形石器などが2,000点以上出土している。

包含層の遺物は土器が1,028点、石器等が2,848点、金属製品32点、骨角器４点、ガラス玉１点である。土器は擦文土器、続縄文土器、縄文時代中期のものがみられる。石器は旧石器時代のものが多く、その他は石鏃、石斧、棒状礫が比較的多い。



等高線はⅢ層上面

遺構位置図（Ⅲ層）



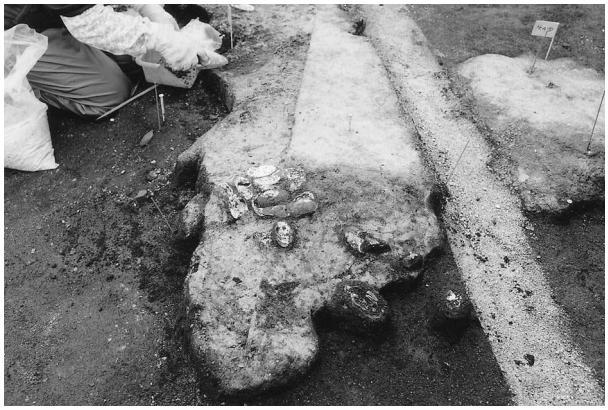
「U」：Ⅲ層の遺構
「L」：Ⅴ層以下の遺構
H　：平地住居跡
　　竪穴状遺構
B　：建物跡
GP　：土坑墓
F　：焼土
A　：灰集中
SB　：石器集中（旧石器）
小柱穴は図示していない

等高線は最終地形面

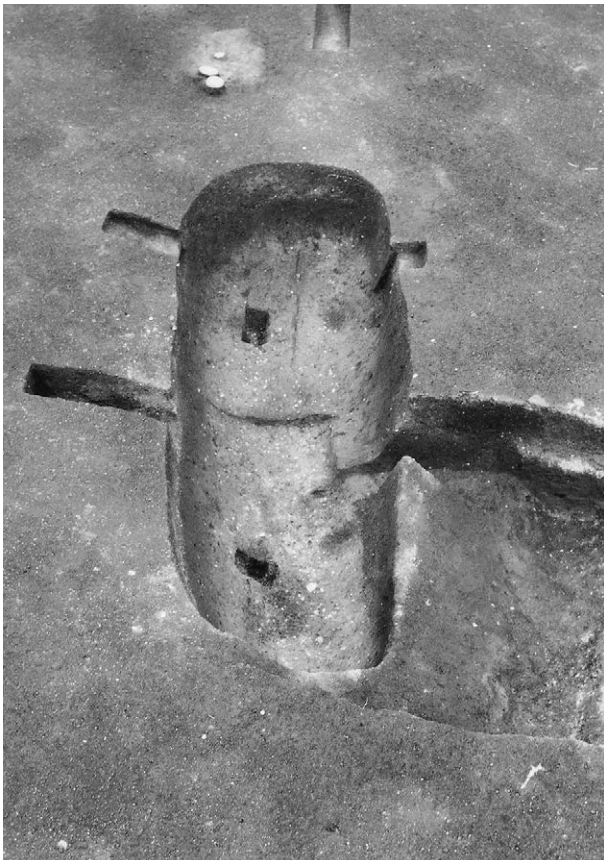
遺構位置図（Ⅴ層以下）

アイヌ文化期平地住居跡（UH－７）

UH－３内耳鉄鍋出土状況



灰集中２上面カワシンジュガイ検出状況



アイヌ文化期土坑墓（GP－１）柱穴検出状況

旧石器時代石器集中（SB－１）

SB－１調査状況

SB－１細石刃核出土状況

SB－１掻器出土状況

千歳市　アンカリトー９遺跡（A－03－283）

事 業 名：一般国道337号千歳市新千歳空港関連工事埋蔵文化財発掘調査

委 託 者：国土交通省北海道開発局札幌開発建設部

所 在 地：千歳市祝梅884－59ほか

調査面積：6,680㎡

調査期間：平成20年５月８日～７月28日

調 査 員：三浦正人、末光正卓、愛場和人、広田良成

遺跡の概要

遺跡は、千歳市街から北東へ約３㎞、馬追丘陵西裾部、工事用地内の祝梅川上田遺跡とアンカリトー７遺跡の間に位置する。調査区内の地形は、北側は、洪積世の古砂丘上に位置する台地があり、そこから南方向へと徐々に緩く傾斜する。発掘調査は、第Ⅱ黒色土層（Ⅴ層）と下位の層について、40%包含層調査を行い、その後、建設機械も用い、遺構確認調査を行った。包含層調査の40%については、トレンチを設け、遺構と遺物の出土の有無を確認し、出土した地点を拡張するように調査した。層序は、Ⅵ層：漸移層、Ⅶ層：黄褐色ローム層、Ⅷ層：恵庭ａ降下軽石堆積物層である。

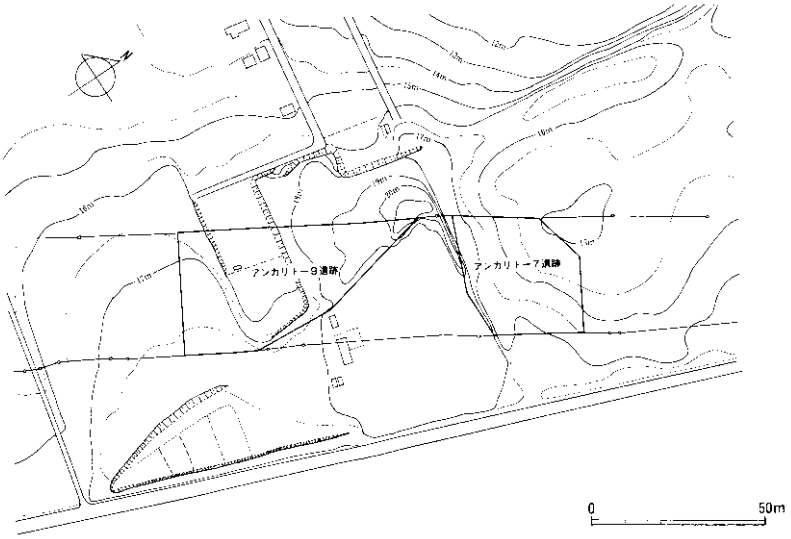
遺構と遺物

遺構は、土坑１基と、焼土３か所を確認した。土坑LP－1は、古砂丘上台地の調査区北側部分で、およそ1/4が確認され、焼土LF－1はLP－1の覆土内、LF－2もこの台地上に位置する。

遺物は、縄文時代中期、後期、晩期の土器が141点で、円筒土器上層式の口縁部破片がある。石器類は、石鏃、石槍・ナイフ、つまみ付きナイフ、スクレイパー、磨製石斧、たたき石、砥石、台石が散在的に出土し、旧石器時代のものと考えられるラウンドスクレイパーもある。出土点数は73点で、石鏃、磨製石斧が多いことが特徴である。

また、Ⅷ層を建設機械により除去し、古砂丘を確認するとともに、下位のローム質土について、旧石器時代の遺物の有無について調査も行ったが、遺物の出土はなかった。

これらの他、調査区の北と南の両側部分で、「掩体壕」が２か所確認され、これについても調査を行った。遺跡付近は、太平洋戦争時は、千歳海軍航空隊（現在の陸上自衛隊東千歳駐屯地）がおかれ、この時期(昭和14～20年)のものと考えられる。規模から、軍用の車両を縦列に格納する施設と推測される。排水桝と考えられる付属構造も認められ、ビール瓶や認識票等が出土している。



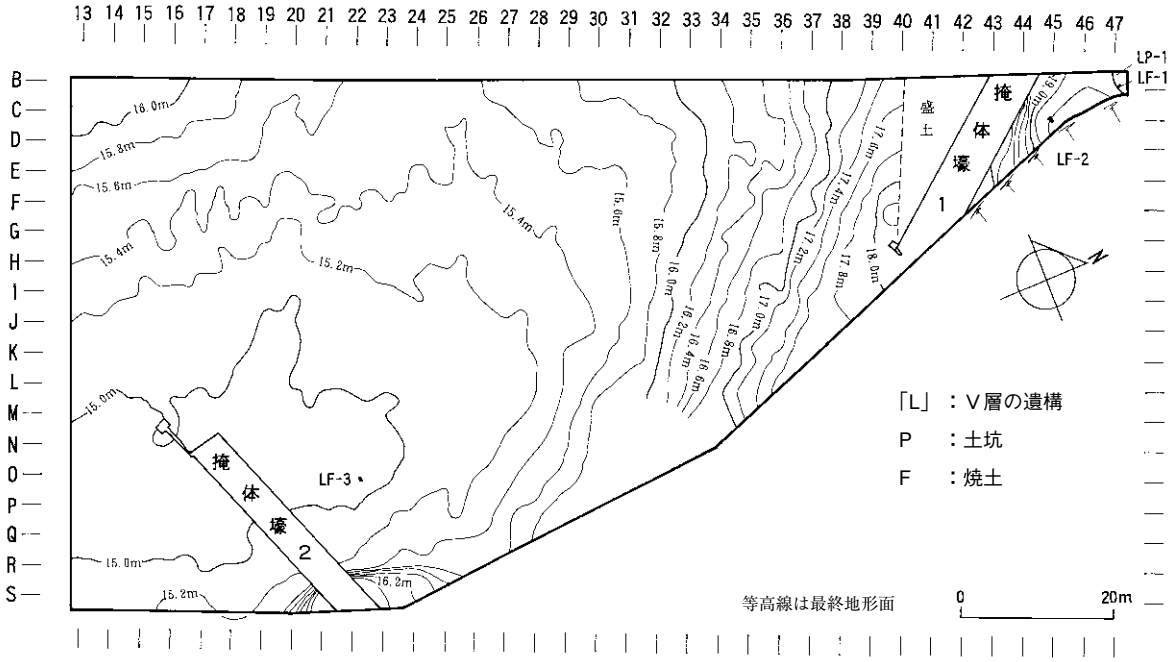
周辺の地形

調査状況

近現代掩体壕（えんたいごう）1

縄文時代土坑（ＬＰ－１）

近現代掩体壕（えんたいごう）2



遺構位置図

千歳市　祝梅川上田遺跡（A－03－50）

事 業 名：一般国道337号千歳市新千歳空港関連工事埋蔵文化財発掘調査

委 託 者：国土交通省北海道開発局札幌開発建設部

所 在 地：千歳市祝梅 614ほか

調査面積：9,910㎡

調査期間：平成20年５月７日～10月31日

調 査 員：三浦正人、越田雅司、愛場和人、末光正卓、阿部明義、広田良成

遺跡の概要

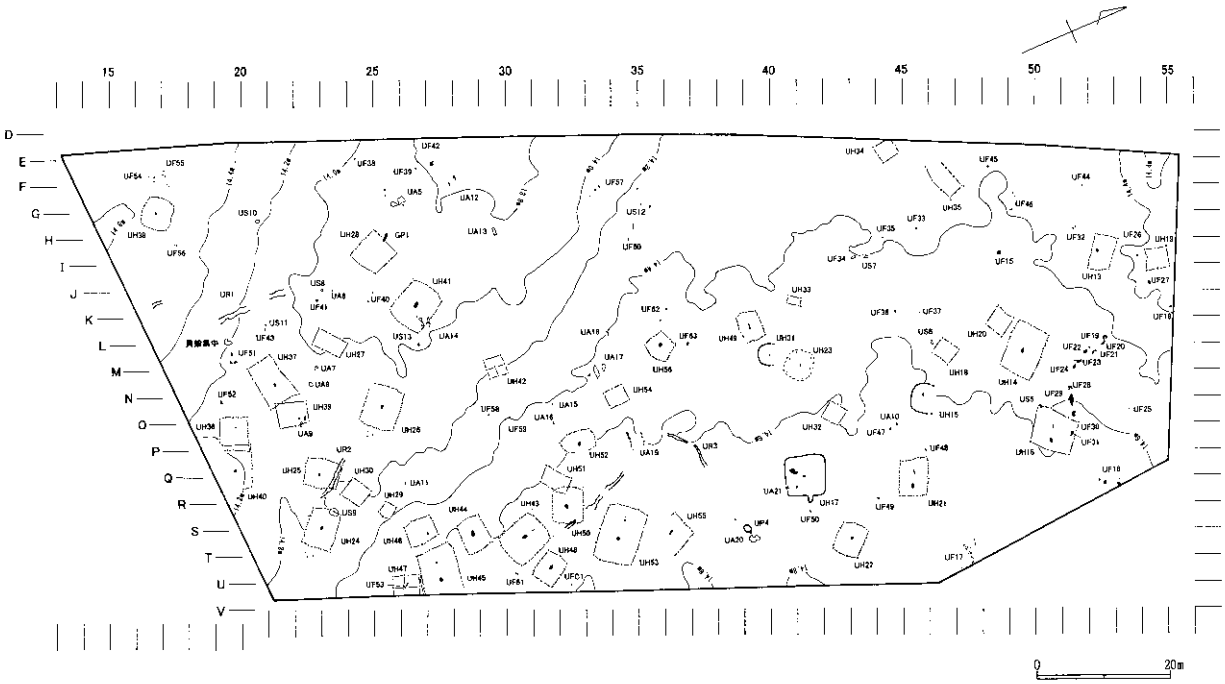
遺跡は千歳市街から北東約３㎞、千歳川の支流である祝梅川右岸に位置する。標高15～16ｍの平坦な段丘上に立地し、現況は畑作地である。基本土層はⅠ層：表土層（耕作土）、Ⅱ層：樽前ａ降下軽石堆積物層、Ⅲ層：第Ⅰ黒色土層、Ⅳ層：樽前ｃ降下火砕堆積物層、Ⅴ層：第Ⅱ黒色土層、Ⅵ層：土壌生成作用の影響を受けたローム層（漸移層）、Ⅶ層：ローム層、Ⅷ層：恵庭ａ降下軽石堆積物層である。このうち遺物包含層は２枚あり、それぞれⅢ層：アイヌ文化期～縄文時代晩期とⅤ～Ⅶ層：縄文時代晩期～旧石器時代である。また、現況が畑作地であるため、調査区の半分以上でⅢ層が耕作による攪乱を受けており、一部ではⅣ層まで攪乱が達していた。

平成18年度に今年度調査区域の南側、9,100㎡を調査しており、Ⅲ層では、建物跡11棟や灰集中4か所などアイヌ文化期を主とする遺構や金属製品28点を確認し、当該期の集落の存在が明らかとなった。Ⅴ～Ⅶ層では縄文時代の遺構・遺物のほかに、後期旧石器時代後半の細石刃主体のブロック２か所が検出され、石器類6,423点が出土した。今年度は上層のⅢ層については全面を、下層のⅤ～Ⅶ層については調査区南側の2,400㎡を対象に調査を行った。Ⅲ層からはアイヌ文化期の集落跡、擦文文化期の竪穴住居跡などを検出し、アイヌ文化期の集落をより広範囲に確認できた。また、Ⅴ～Ⅶ層からは縄文時代～旧石器時代の遺構・遺物を検出した。旧石器時代の石器ブロックは前回調査に続く、3か所を検出した。

遺構と遺物

Ⅲ層では、アイヌ文化期～縄文時代晩期の遺構を検出した。建物跡40棟、浅いⅢ状の住居跡３軒、竪穴住居跡１軒、土坑墓１基、土坑１基、小柱穴1,952基、集石９か所、焼土49か所、灰集中17か所、貝殻集中１か所、フレイク集中１か所、道跡３条である。建物跡はアイヌ文化期で、「住居（炉がある）」と「倉庫（炉がない）」に分けられる。集落の時期については、いずれの炉もⅢ層を少し掘り進めた段階で確認できたこと、金属製品のうちキセルや「寛永通寶」が出土していないことなどからやや古い段階の集落ではないかと考えられる。また、住居の長軸方向に違いが見られることから、集落内の住居の時期的な変遷が想定される。「送り場」と考えられる灰集中は、耕作による攪乱を受け、規模が明確なものは少ない。土坑墓は青磁Ⅲと漆椀、刀を伴う。擦文文化期の竪穴住居跡は一辺６ｍほどで、東側にカマドを有する。Ⅴ～Ⅶ層では、縄文時代のＴピット２基、焼土10か所、石斧集中１か所と旧石器時代の石器ブロック３か所を検出した。Ｔピットは小判型で二つの杭穴を持つ。緑色泥岩製の石斧集中は、未製品を含む５点がⅤ層上面から出土した。石器ブロックは、後期旧石器時代後半の細石刃を伴い、１か所から細石刃核が出土した。旧石器時代の遺物は約2,000点が出土した。

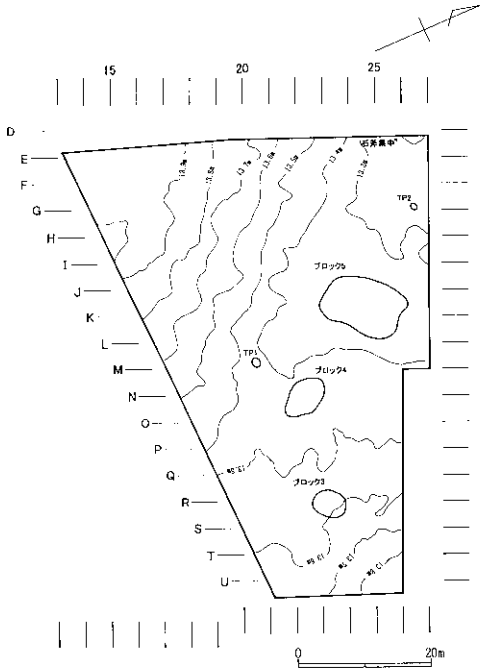
包含層の遺物は約7,800点で、土器や石器（旧石器時代を除く）は少なく金属製品や棒状礫が多い。ほとんどがアイヌ文化期の遺物である。金属製品は鉄鍋、星兜、小札、斧、鎌、鍬先、ヤス、マレク（魚突鉤銛）、刀子、銅銭などが160点以上出土し、そのうち小札が半数以上と多い。銅銭は、唐、北宋、南宋、明、李氏朝鮮時代の銭が14点出土した。



Ⅲ層遺構位置図（等高線はⅢ層上面）

Ⅲ層の遺構

UH ：建物跡	UF ：焼土
竪穴住居跡	UA ：灰集中
GP ：土坑墓	UFC：フレイク集中
UP ：土坑	UR ：道跡
US ：集石	※杭穴は図示していない



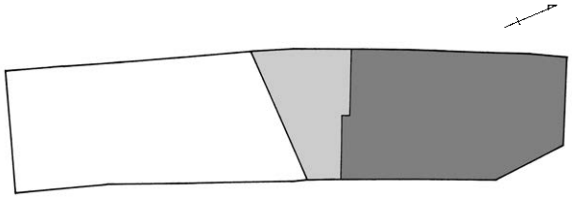
Ⅴ～Ⅶ層遺構位置図（等高線は最終地形面）

Ⅴ～Ⅶ層の遺構

ＴＰ：Ｔピット

ブロック：石器集中（旧石器）

※焼土は図示していない



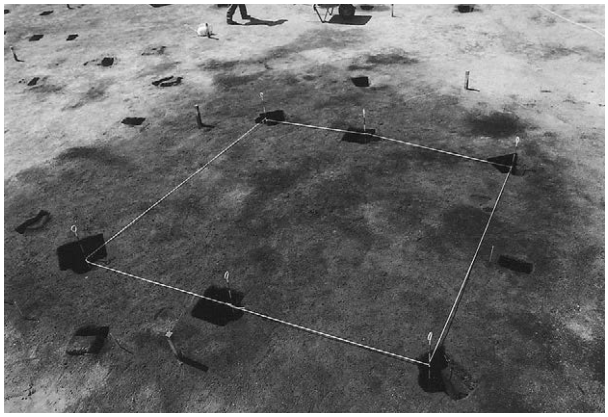
平成18年度調査区

平成20年度Ⅲ層調査区

平成20年度Ⅲ・Ⅴ～Ⅶ層調査区

調査範囲図

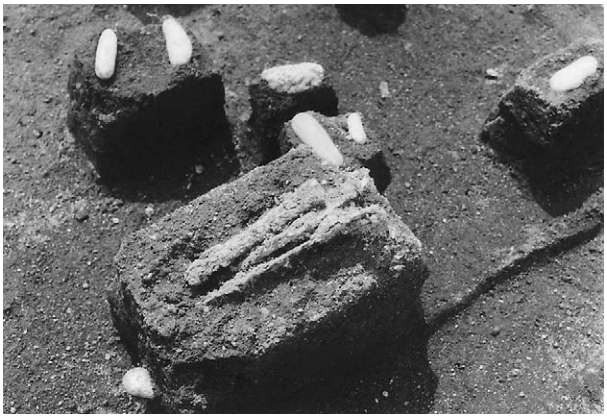
アイヌ文化期平地住居跡（UH－53）



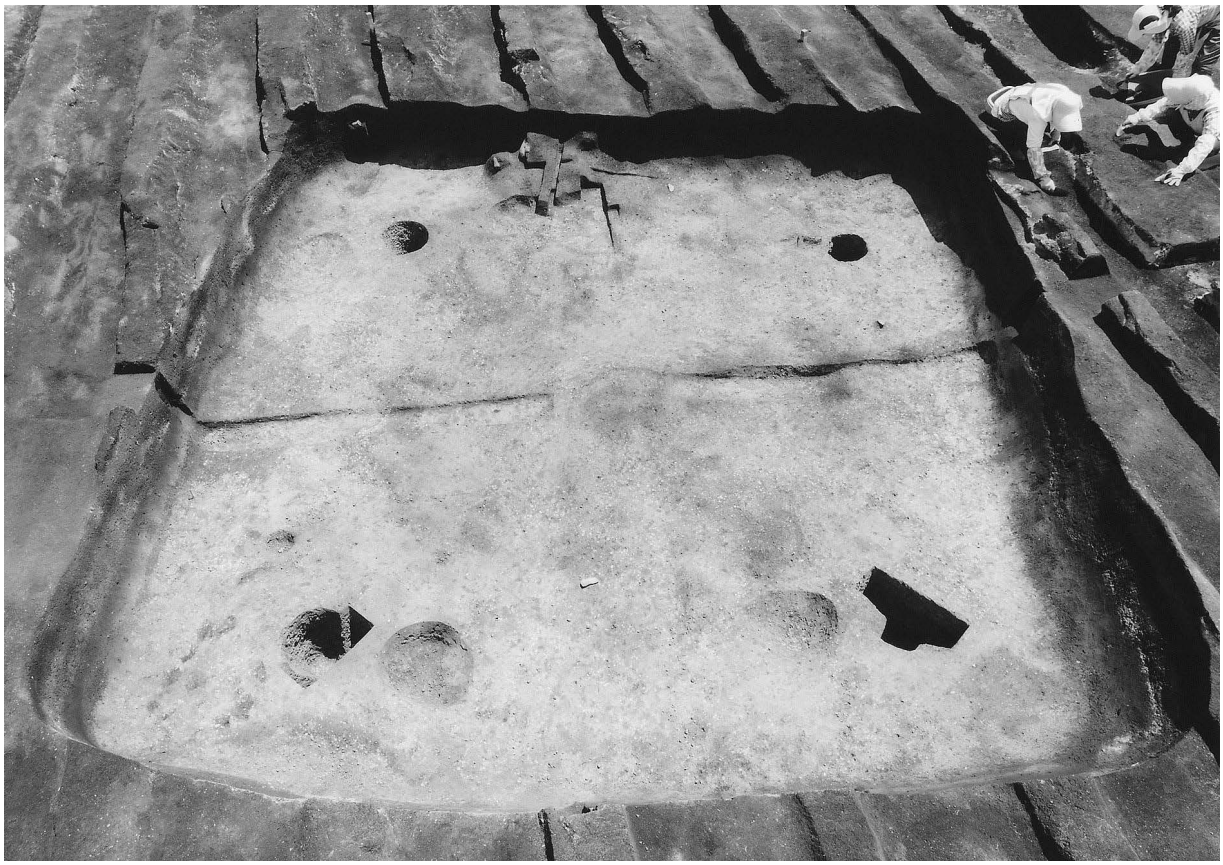
アイヌ文化期建物跡（UH－30）

アイヌ文化期土坑墓（GP－１）

アイヌ文化期灰集中（UA－５）



アイヌ文化期平地住居跡（UH－40）鋤先出土状況



擦文文化期竪穴住居跡（UH－17）

旧石器時代石器ブロック５調査状況

千歳市（ちとせし）　祝梅川小野遺跡（しゅくばいがわおの）（A－03－48）

事 業 名：一般国道337号千歳市新千歳空港関連工事埋蔵文化財発掘調査

委 託 者：国土交通省北海道開発局札幌開発建設部

所 在 地：千歳市祝梅485－170ほか

調査面積：10,267㎡

調査期間：平成20年５月７日～10月31日

調 査 員：鈴木　信、菊池慈人、影浦　覚、芝田直人、山中文雄、酒井秀治

調査の概要

遺跡は千歳市街地から約３㎞東に位置し、千歳川の支流である祝梅川の右岸、標高７～15ｍに立地する。南側の高位の段丘面は、西側の祝梅川に向かって緩やかに傾斜している。北側の低位の段丘面は、祝梅川の旧河道によって抉られ、南東側へ深く内湾する地形が形成されている。基本土層は、Ⅰ層：表土、Ⅱ層：樽前a降下軽石層（Ta-a）、Ⅲ層：第Ⅰ黒色土層、Ⅳ層：樽前ｃ降下軽石層（Ta-c）、Ⅴ層：第Ⅱ黒色土層、Ⅵ層：漸移層、Ⅶ層：恵庭ａ降下軽石の風成堆積のローム質土層、Ⅷ層：恵庭a降下軽石層（En-a）である。低位部分では、Ⅲ層中に白頭山－苫小牧降下軽石（B-Tm）が、疎らではあるが一様に分布する。遺物包含層はⅢ・Ⅴ層で、北側の低湿地では必要に応じて土層を細分した。

調査は昨年度（7,630㎡）からの継続で、今年度が最終年度となる。今年度は南側の台地上にあるＡ地区（1,070㎡）と北側の低湿地にあるＢ地区（9,197㎡）の合計10,267㎡を調査した。Ｂ地区の北端は梅川１遺跡と接しており、同一のグリッドを用いて調査した。

遺構と遺物

縄文時代前期：Ａ地区で後半の植苗式期の住居跡２軒、Ｂ地区で同時期の土坑群を検出した。住居跡のうち１軒は床面が浅くベンチ状に掘り込まれており、中央に炉を伴っている。Ｂ地区の土坑は、内部より土器や石皿が出土しており、覆土は埋め戻されていることから、墓の可能性がある。また、土坑のうち１基には坑底面に厚さ１～２㎝の灰白色物質が敷かれていた。包含層からは前期前半の綱文式、前期後半の円筒土器下層式・大麻Ｖ式も出土している。

縄文時代中期：中期末葉～後期前葉に掘り込まれたと推測されるＴピット（陥し穴）が、Ａ地区で３基、Ｂ地区で12基検出された。細長い溝形のものと坑底面に逆茂木痕が認められる小判形のものがある。包含層からは、中期前半の円筒土器上層式、中期後半の天神山（てんじんやま）式・北筒（ほくとう）式などが出土している。

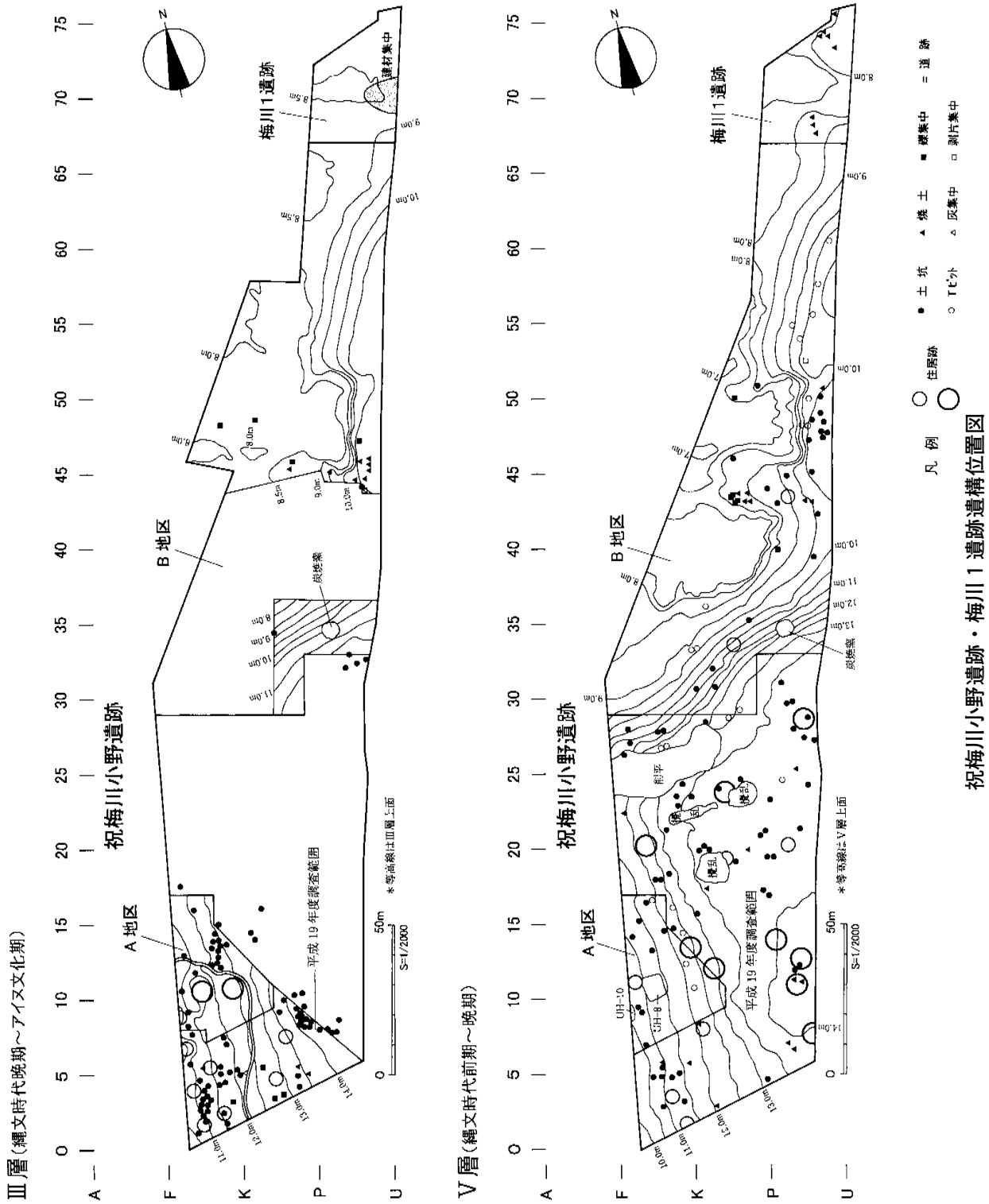
縄文時代後期：後期中葉の手稲式期の住居跡が、Ａ地区で１軒、Ｂ地区で１軒検出された。いずれも旧河道を臨む低位面に立地しており、楕円形で掘り込みが浅い。また、この前後の時期（ウサクマイＣ式～ホッケマ式）の土坑・焼土・集石などが各地区で検出されており、土器の出土点数が最も多い。包含層からは、後期前葉のタプコプ式、後期後葉の堂林（どうばやし）式・御殿山（ごてんやま）式なども出土している。

縄文時代晩期：Ａ地区で晩期後葉のタンネトウＬ式期の土坑18基を検出した。昨年度調査区でも58基が検出されており、これらは隣接する梅川４遺跡Ａ地区から続く土坑群を形成する。大部分が墓と考えられるが、遺物を伴うものは少ない。Ｂ地区ではTa-c（Ⅳ層）を挟んで上下の包含層（Ⅲ・Ⅴ層）からタンネトウＬ式が、Ⅴ層から晩期中葉の美々３式も出土している。

擦文文化期：Ａ地区で竪穴住居跡３軒を検出した。うち１軒は、平面形が方形で南側にカマドをもち、主柱穴は竪穴内にある。床より出土した須恵器（高台付坏）から９世紀前葉と推測される。他１軒は掘り込みが浅く、平面形が隅丸長方形で、炉は確認されなかった。もう１軒は大部分が調査区外で、詳細は不明である。遺物は擦文土器・紡錘車（ぼうすいしゃ）などが住居跡とその周辺で多く出土している。Ｂ地区ではＢ－Ｔｍを挟んで上下のⅢ層から擦文土器が出土しているが、個体数は少ない。

アイヌ文化期：Ａ地区で、昨年度検出した道跡の続きを確認した。道跡は擦文文化期の竪穴住居跡を迂回して、祝梅川の方角へ降りている。Ｂ地区で、焼土・灰集中・骨片集中・礫集中・杭列などが検出された。これらの周辺からは、内耳鉄鍋（ないじてつなべ）・刀子（とうす）・鍔（つば）などの金属製品や、「ピッ」と呼ばれる棒状礫が出土している。また、低湿地内湾部の泥炭層からは、樹木を加工した角材や切片などが出土している。

遺物の一次整理を継続中であるため未集計であるが、全体で土器・石器など10万点以上が出土した。



祝梅川小野遺跡・梅川１遺跡遺構位置図

擦文文化期竪穴住居跡（UH－８）

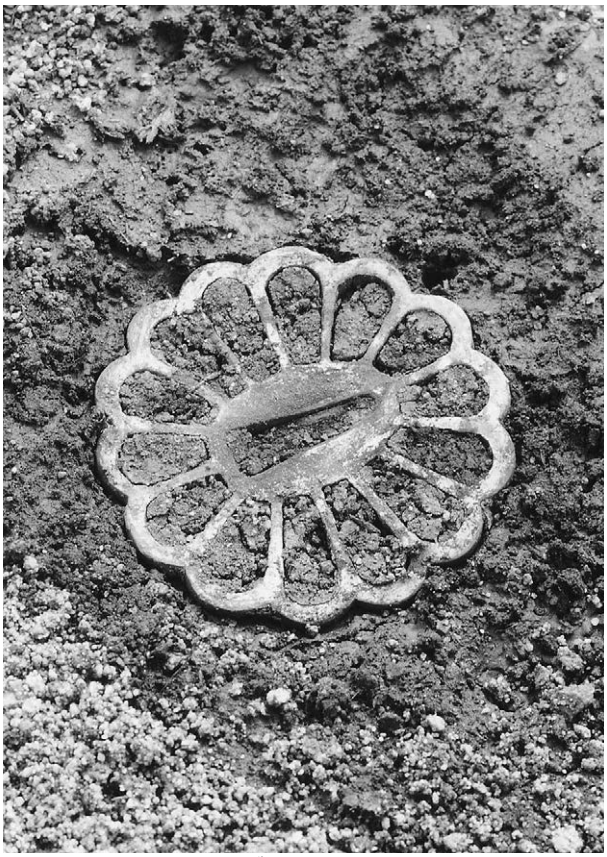
縄文時代晩期土坑群

縄文時代後期竪穴住居跡

縄文時代前期竪穴住居跡

B 地区調査状況

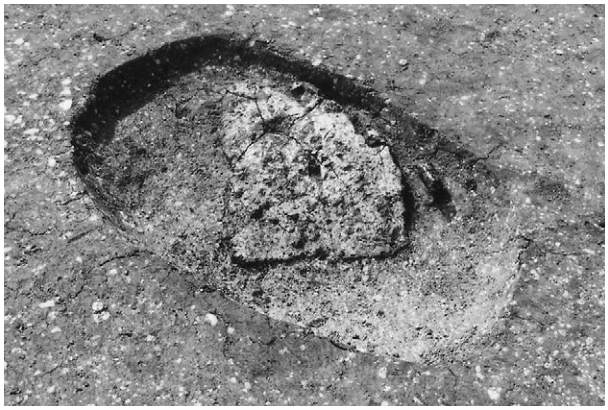
アイヌ文化期灰集中



鍔（つば）出土状況

旧河道部調査状況

縄文時代後期竪穴住居跡



縄文時代前期土坑

縄文時代前期土坑

頁岩のフレイク集中

千歳市（ちとせし）　梅川（うめかわ）１遺跡（A－03－56）

事 業 名：一般国道337号千歳市新千歳空港関連工事埋蔵文化財発掘調査

委 託 者：国土交通省北海道開発局札幌開発建設部

所 在 地：千歳市祝梅498－3

調査面積：893㎡

調査期間：平成20年５月７日～10月31日

調 査 員：鈴木　信、菊池慈人、影浦　覚、芝田直人、山中文雄、酒井秀治

調査の概要

遺跡は千歳市街地から約３㎞東に位置し、千歳川の支流である梅川の左岸、標高８～10ｍに立地する。地形はほぼ平坦で、南東から北西方向に流れる梅川の旧河道が確認された。基本土層は、南端で接する祝梅川小野遺跡と同じである。今年度は893㎡を調査した。

遺構と遺物

Ⅲ層の調査では、梅川の旧河道から建材集中１か所を検出した。これらはTa-a直下の泥炭層より出土しており、アイヌ文化期の所産と考えられる。大部分は10～20㎝角ほどの大型の切片で、長さ約６ｍの丸太の先端を加工したものも見られる。約40,000点が出土した。

Ⅴ層の調査では、縄文時代晩期後葉のタンネトウＬ式土器を伴う焼土８か所を検出した。これらはとても良く焼けており、上部の灰層には微細な骨片が多量に含まれている。

包含層からは、縄文時代中期後半の天神山（てんじんやま）式、後期中葉の手稲（ていね）式、晩期後葉のタンネトウＬ式、擦文土器、各種の石器が出土している。遺物は未集計であるが、3,000点以上が出土した（木製品を除く）。

建材集中の調査状況

千歳市　梅川４遺跡（A－03－59）

事 業 名：一般国道337号千歳市新千歳空港関連工事埋蔵文化財発掘調査

委 託 者：国土交通省北海道開発局札幌開発建設部

所 在 地：千歳市祝梅2047-57ほか

調査面積：13,550㎡

調査期間：平成20年５月７日～10月31日

調 査 員：鈴木　信、鎌田　望、新家水奈、影浦　覚、芝田直人、酒井秀治

調査の概要

遺跡はJR千歳駅の東約３km、梅川左岸と祝梅川源流部右岸の間の台地上に所在する。発掘調査は平成18年度6,350㎡、平成19年度8,655㎡を実施し、今年度は平成18年度調査区域の南側（Ｂ地区）及び市道07-東20号通の南側（Ｃ地区）を行った。基本土層は、Ⅰ層：表土、Ⅱ層：樽前ａ降下軽石層（Ta-a）、Ⅲ層：第Ⅰ黒色土層、Ⅳ層：樽前ｃ降下軽石層（Ta-c）、Ⅴ層：第Ⅱ黒色土層、Ⅵ層：漸移層、Ⅶ層：恵庭ａ降下軽石の風成堆積のローム質土層、Ⅷ層：恵庭a降下軽石層（En-a）である。主な遺物包含層はⅢ・Ⅴ・Ⅵ層である。

遺構と遺物

Ⅲ層からは、アイヌ文化期の遺構・遺物を検出している。北西 - 南東方向に伸びる数条の道跡の周囲からは、柱穴や焼土が集中して検出され、鉄鍋（てつなべ）・刀子（とうす）・キセル雁首（がんくび）・耳飾（みみかざり）等の金属製品やガラス玉・土鈴（どれい）などの遺物のほか、多量の獣骨やカワシンジュガイが出土している。平地住居跡は、道跡の北東側に見られ、一辺が3.5～４ｍほどでほぼ正方形のものが多い。Ｂ地区の北側からは縄文時代晩期後半～続縄文時代の土器が個体ごとにまとまって出土している。

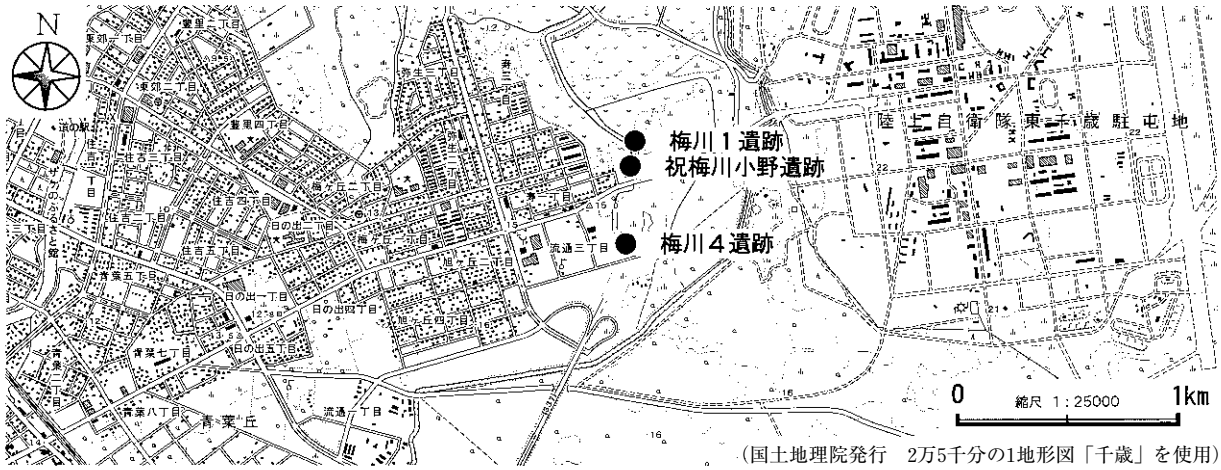
Ⅴ層からは縄文時代中期とみられる土坑・Ｔピットを検出している。遺物は縄文時代早期～後期のものが出土している。主体を占めるのは縄文時代中期後半のもので、Ｂ地区では後期の遺物も多く出土している。Ｃ地区東側から橄欖岩（かんらんがん）製の板状岩偶が出土している。大きさは、長さ6.7cm・幅3.9cm、厚さ0.6cm、重さ18.0ｇで縄文時代中期のものと考えられる。

検出遺構数一覧

層位	住居跡	土坑	Tピット	柱穴	焼土	灰集中	貝集中	骨集中
Ⅲ層	十数軒	—	—	631	88	2	21	3
Ⅴ層	—	7	1	—	—	—	—	—

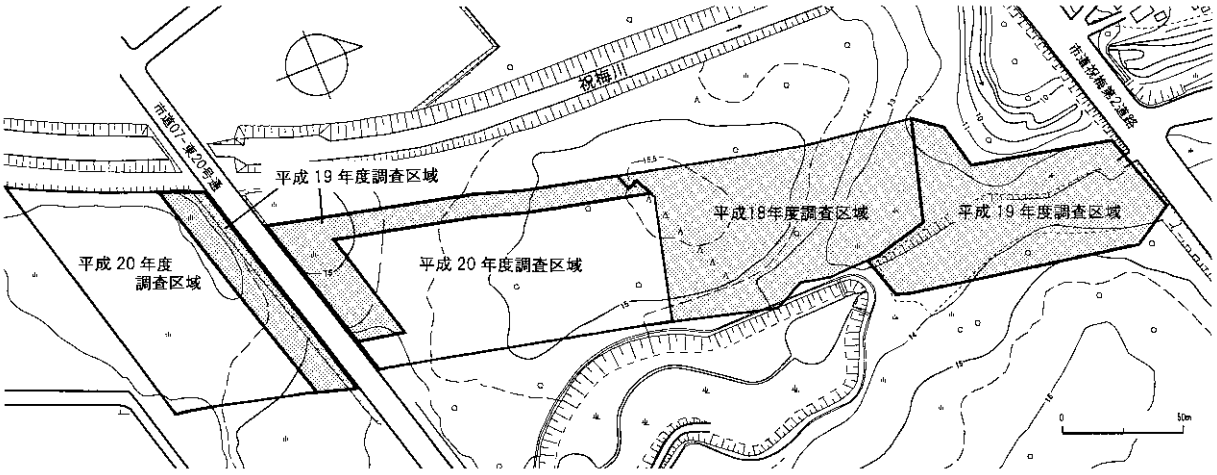
遺物点数総計

	層位	土器	石器	土製品	石製品	鉄製品他	計
遺構	Ⅲ	未集計	未集計	—	—	6	未集計
	Ⅴ	7	10	—	—	—	17
包含層	Ⅲ	未集計	未集計	未集計	未集計	未集計	未集計
	Ⅴ	6,882	92,806	5	3	—	99,696
	攪乱・排土	200	17,959	—	—	3	18,162



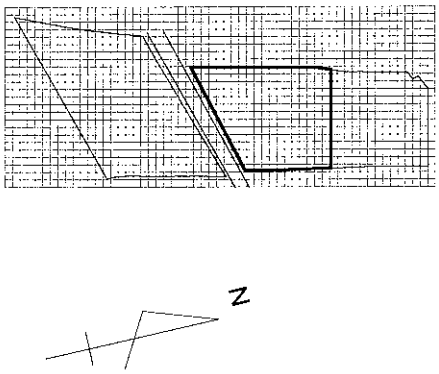
（国土地理院発行　2万5千分の1地形図「千歳」を使用）

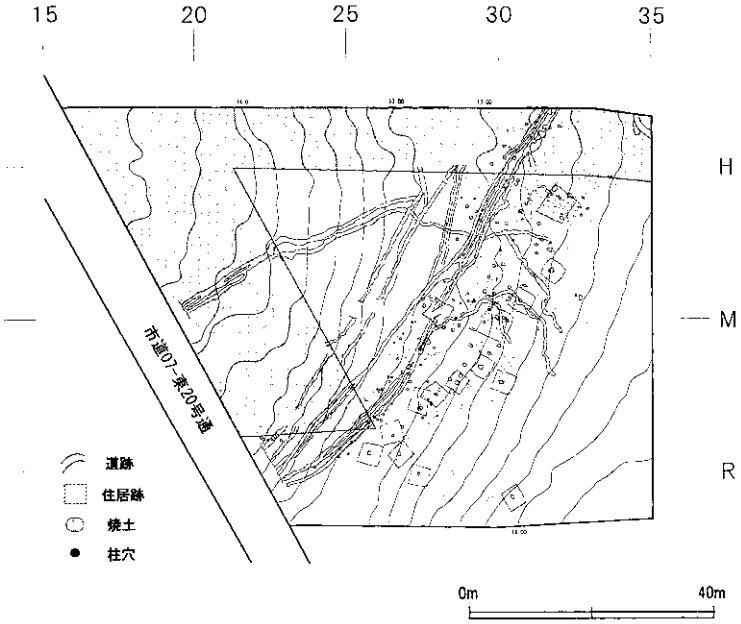
遺跡位置図



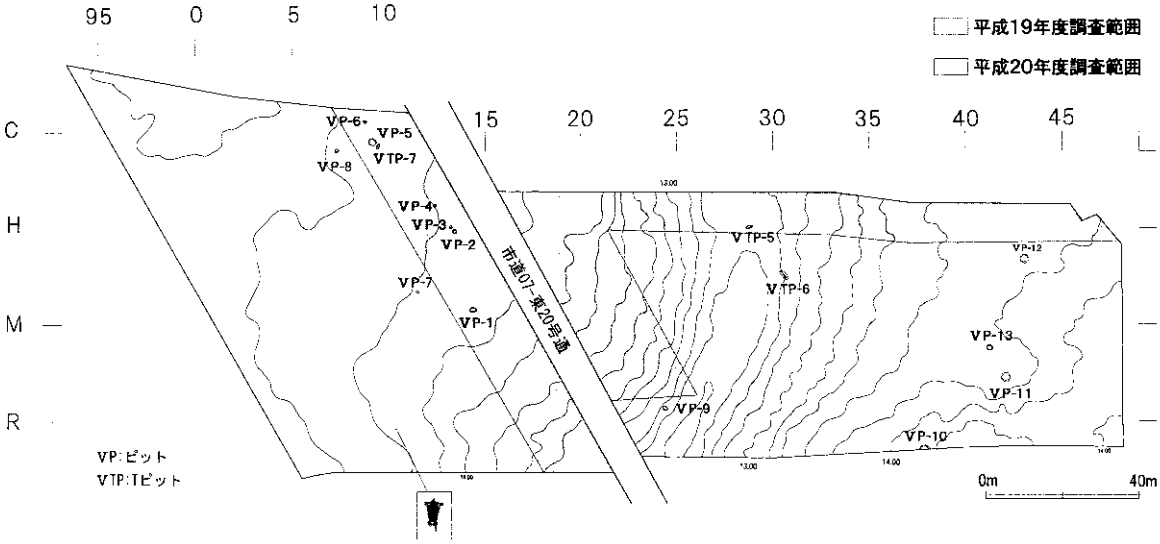
調査区と周辺の地形

Ⅲ層遺構位置図



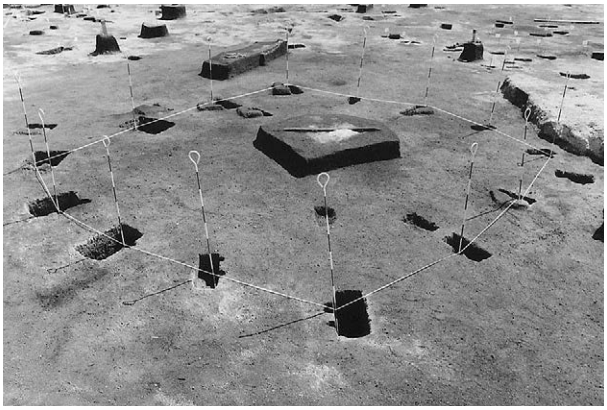


Ⅴ層遺構位置図



アイヌ文化期道跡群

Ⅲ層調査状況



アイヌ文化期平地住居跡（ⅢＨ－６）

ⅢＨ－６の炉跡土層断面（ⅢＦ－124）

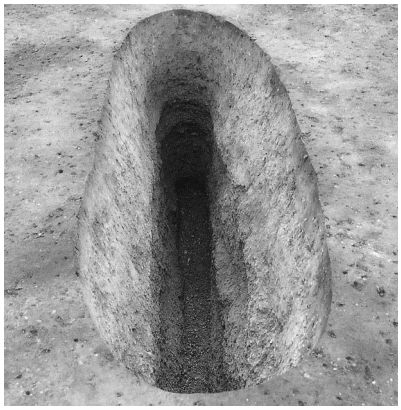
カワシンジュガイ集中・焼土

刀子出土状況

耳飾出土状況

土鈴出土状況

アイヌ文化期平地住居跡群



Ｔピット（VTP－６）

板状岩偶出土状況（Ｖ層）

土坑（VP－12）

白老町　虎杖浜２遺跡（J－10－１）

事 業 名：一般国道36号白老町虎杖浜ポンアヨロ４遺跡外埋蔵文化財発掘調査

委 託 者：国土交通省北海道開発局室蘭開発建設部

所 在 地：白老郡白老町字虎杖浜329-9地先

調査面積：300㎡

調査期間：平成20年５月７日～６月13日

調 査 員：阿部明義

遺跡の概要

遺跡は白老町の西端部、登別市との境界に近い虎杖浜地区の標高約50ｍの台地上に位置する。台地の北東側および南西側は、倶多楽火山を源とするアヨロ川とポンアヨロ川が開析している。遺跡の下には、国道36号虎杖浜隧道が貫通している。虎杖浜２遺跡は、縄文時代前期の２か所の貝塚を有する大規模な集落跡として昭和初期から知られている。台地のオープンカット工事に伴い、その事前調査として平成９年に白老町教育委員会、平成11～13・18・19年に北海道埋蔵文化財センターが計10,880㎡の発掘調査を行った。

今年度の調査区は、過年度調査区から北西側に離れた台地縁辺で、遺跡の端部である。調査区内に町道北伏古一番線（旧国道28号）が通っており、道路を切り替えて路盤下の調査を行った。調査区はおおむね平坦で、有珠ｂ降下軽石層（1663年）下に遺物包含層である黒色土が40～70㎝堆積し、層中に駒ヶ岳ｇ火山灰が散在している。

遺構と遺物

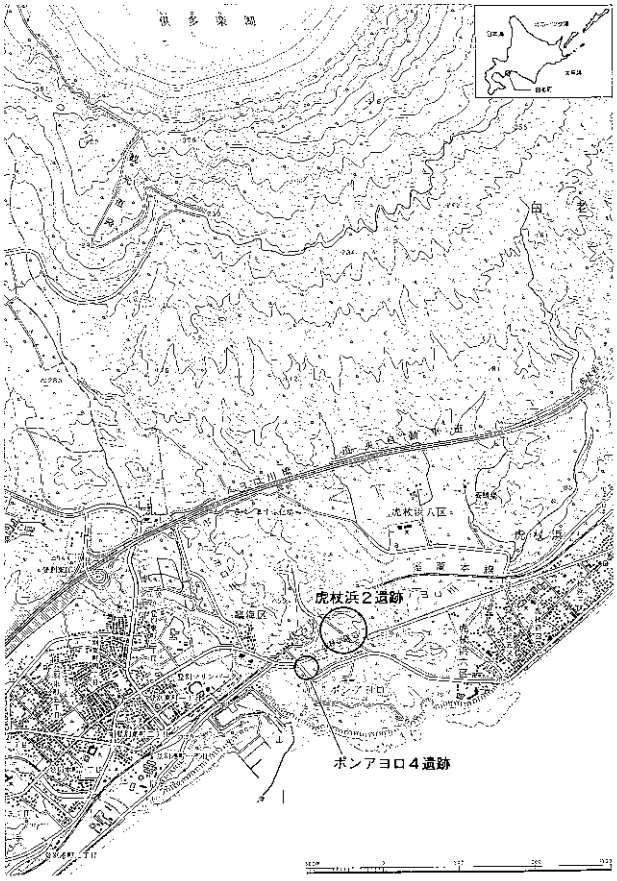
遺構は、焼土１か所とフレイク・チップ集中１か所を検出した。ほぼ同一面で近接しており、周辺に遺物も多いことから、関連があるものと思われる。

包含層の遺物は総数4,446点出土した。調査区東部、上記遺構の南側に多い。土器・石器等ほぼ同数で、過年度に比較して土器の割合が高い。土器は前期前半主体（土器の約85％）で、押引き文や刺突文のある春日町式またはその併行期の土器と、格子目状の押型文土器が出土している。ほかに静内中野式、早期後半の土器がやや多く、前期後半・中期前半の土器が少量出土している。石器はフレイク・チップが多く、石器等の約86％を占める。剥片石器および剥片の石材は過年度と異なり、頁岩ではなく黒曜石が主体である。定形的な石器では、石鏃・石錐・つまみ付きナイフ・石斧・すり石がやや多い。

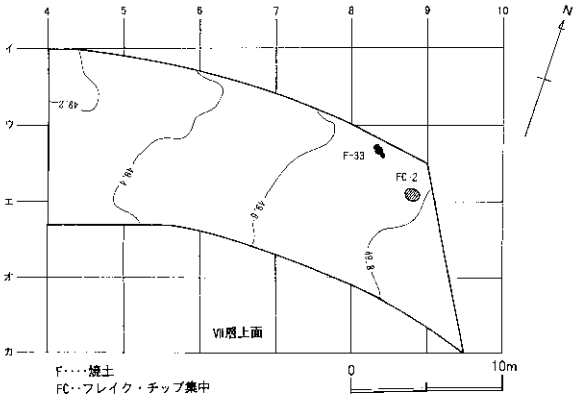
虎杖浜２遺跡　遺構数・遺物数ほか集計

調査期間		調査面積（㎡）	遺構							遺物				
年度	現地調査日		住居跡	土坑墓	土坑	焼土	盛土	貝塚	その他	土器等	石器等	骨角器	計	自然遺物
平成９年度	5/7～10/29	1,010	0	0	3	23	0	0	1	888	3,115		4,003	
平成11年度	5/6～8/31	2,500	22	3	10	17	2	0	5	4,289	91,973		96,262	コンテナ120
平成12年度	7/3～10/27	2,000												
平成13年度	5/9～10/31	2,010	6	0	6	9	2	1	1	5,330	54,311	236	59,877	コンテナ640
平成18年度	5/8～6/30	1,770	0	0	0	6	0	0	0	324	867	18	1,209	コンテナ 25
平成19年度	5/9～7/27	1,590	0	2	5	29	1	0	4	4,591	26,318		30,909	コンテナ 1
平成20年度	5/9～6/13	300	0	0	0	1	0	0	1	2,214	2,232		4,446	
合計		11,180	28	5	24	85	5	1	12	17,636	178,816	254	196,706	コンテナ786

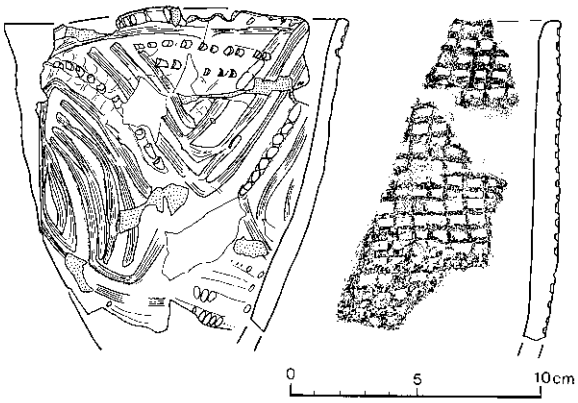
※平成９年度は白老町教育委員会調査



遺跡位置図

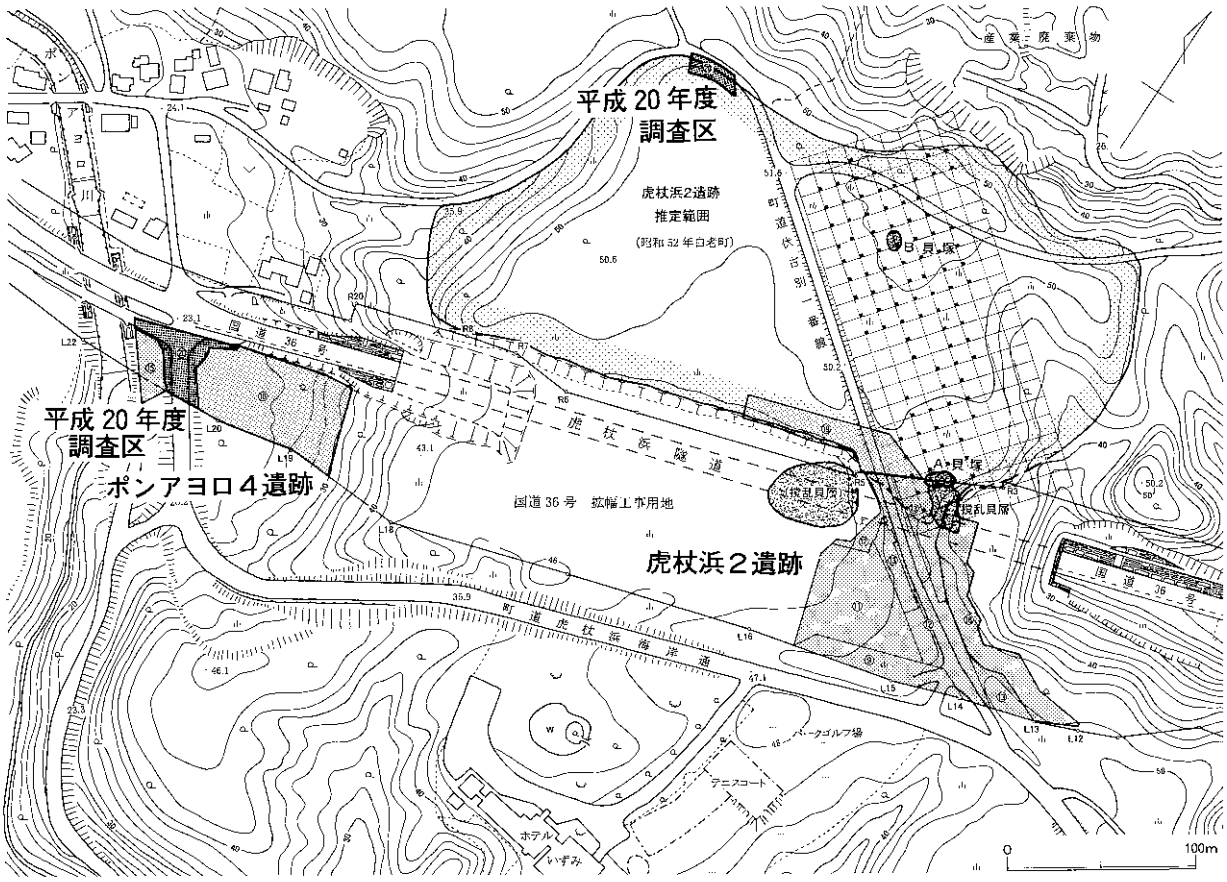


遺構位置図



出土土器

（国土地理院発行２万５千分の１地形図「登別温泉」を縮小・加筆）



遺跡周辺の地形と調査区

○内の数字は調査年度

白老町（しらおいちょう）　ポンアヨロ４遺跡（J－10－41）

事 業 名：一般国道36号白老町虎杖浜ポンアヨロ４遺跡外埋蔵文化財発掘調査
委 託 者：国土交通省北海道開発局室蘭開発建設部
所 在 地：白老郡白老町字虎杖浜332-2地先
調査面積：950㎡
調査期間：平成20年５月26日～６月４日、８月18日～10月10日
調 査 員：阿部明義、吉田裕吏洋、熊谷仁志

遺跡の概要

遺跡は白老町の西端部、前掲の虎杖浜２遺跡から300mほど西に位置する。倶多楽（くったら）火山の外輪山から続く台地の裾部緩斜面、ポンアヨロ川の左岸にある。国道36号虎杖浜隧道（こじょうはまずいどう）付近の拡幅工事に伴う分布調査により発見された遺跡で、工事の事前調査として平成10年に白老町教育委員会、平成15年に当センターが計3,784㎡の発掘調査を行った。平成10年度の調査では、縄文時代中期後半の住居跡や同早期後半の土坑・焼土群を検出し、平成15年の調査ではポンアヨロ川の氾濫原（はんらんげん）を検出した。

今年度の調査区は、過年度調査区にはさまれた、国道36号との交差点付近を含む町道虎杖浜海岸通の路盤下で、道路の盛土が２～４m堆積していた。調査は、道路工事が同時進行で実施されたため、構造物の移設や新設に伴い地区を分割して行った。調査区はポンアヨロ川の低位段丘および段丘崖にあたり、標高は18～22m、現河川との高低差は１～５mである。包含層である黒色土は調査区全面にみられ、厚さは30～70㎝である。調査区内の北～西の大部分では蛇行する旧河道を検出した。旧河道内は河川堆積物の上位に駒ヶ岳ｇ火山灰が厚く堆積していた。

遺構と遺物

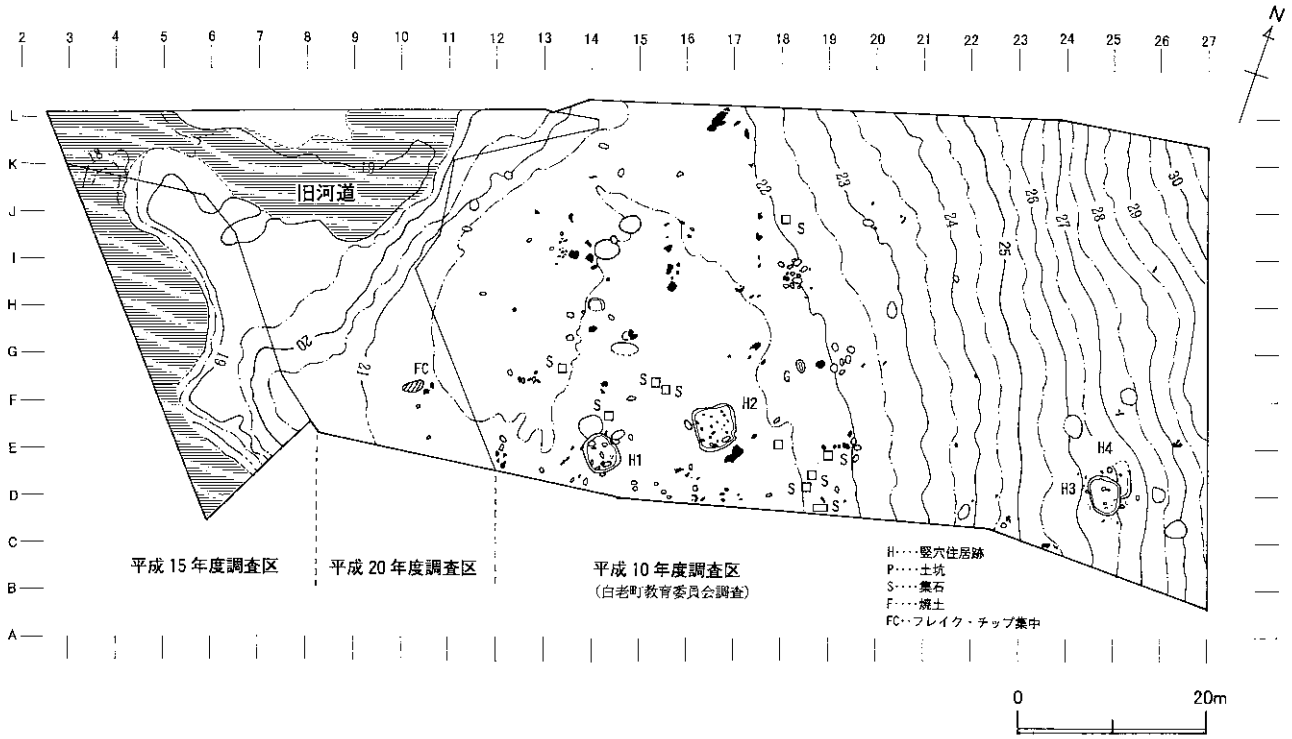
遺構は、小型の土坑２基、焼土２か所、フレイク・チップ集中１か所を検出した。台地上の過年度調査区では縄文早期～中期の土坑群・焼土群があり、その延長にある。焼土は15㎝前後の厚い被熱層で、検出層位と周辺遺物から縄文時代早期後半のものとみられる。フレイク・チップの集中域は焼土付近にあるが、時期は不明である。大型の剥片はなく、剥片石器の微調整の跡と推測される。

包含層の遺物は総計4,861点出土した。旧河道の河岸段丘崖に多く、低位段丘上に散在し、旧河道内からは少数が出土した。土器（総数の約30%）は早期後半の中茶路式（なかちゃろしき）が主体（土器の60%以上）で、東釧路Ⅱ式もみられる。続いて前期前半がやや多く、中期後半・後期中葉・晩期も少量ある。石器（総数の約70%）はフレイク・チップが大部分を占め、集中域だけで2,840点（石器等の約85%）を数える。剥片石器および剥片の石材は黒曜石が主体である。定形的な石器では、石鏃・スクレイパー・石斧・すり石がやや多く、大型の台石・石皿もある。石斧は４点重なって出土したものがある。

ポンアヨロ４遺跡　遺構数・遺物数ほか集計

調査期間		調査面積（㎡）	遺構							遺物				
年度	現地調査日		住居跡	土坑墓	土坑	焼土	柱穴群	集石	その他	土器等	石器等	その他	計	自然遺物
平成10年度	5/6～10/30	3,500	4	1	91	87	2	11	3	12,019	18,457	29	30,505	堅果
平成15年度	6/9～7/18	284	0	0	0	0	0	0	0	1,021	169	3	1,193	
平成20年度	5/26～6/4・8/18～10/10	950	0	0	2	2	0	0	1	1,514	3,347	0	4,861	炭化物
合計		4,734	4	1	93	89	2	11	4	14,554	21,973	32	36,559	

※平成10年度は白老町教育委員会調査



遺構位置図

調査状況

ポンアヨロ川旧河道

遺物出土状況

石斧出土状況

森町（もりまち）　石倉（いしくら）１遺跡（B－14－36）

事 業 名：北海道縦貫自動車道の建設事業に伴う埋蔵文化財発掘調査

委 託 者：東日本高速道路株式会社北海道支社函館工事事務所

所 在 地：茅部郡森町字石倉町397番地2ほか

調査面積：15,543㎡

調査期間：平成20年５月７日～10月24日

調 査 員：遠藤香澄、中山昭大、福井淳一、立田　理、大泰司　統

調査の概要

遺跡は森町市街から北西に約９㎞、濁川（にごりがわ）左岸の河岸段丘上（標高30～50ｍ）に立地し、現海岸線から700ｍ程内陸に位置する。平成14年から平成16年の三次に亘る調査で計4,353㎡を発掘し、平成19年度に報告書を刊行している。第四次にあたる今年度の調査範囲は斜面部とそれに連続する平坦な段丘面からなり、調査済みの範囲をはさみ２か所に分かれている。基本土層はⅠ層：表土・耕作土、Ⅱ層：駒ケ岳起源降下軽石（Ko-d）層、Ⅲ層：黒褐色腐植土層（部分的に白頭山－苫小牧火山灰（B-Tm）が混じる）、Ⅳ層：黒色土層、Ⅴ層：漸移層（下部には部分的に駒ケ岳起源降下軽石（Ko-g）が堆積する）、Ⅵ層：ローム層、Ⅶ層：河川堆積物である。主な遺物包含層はⅣ層下部である。

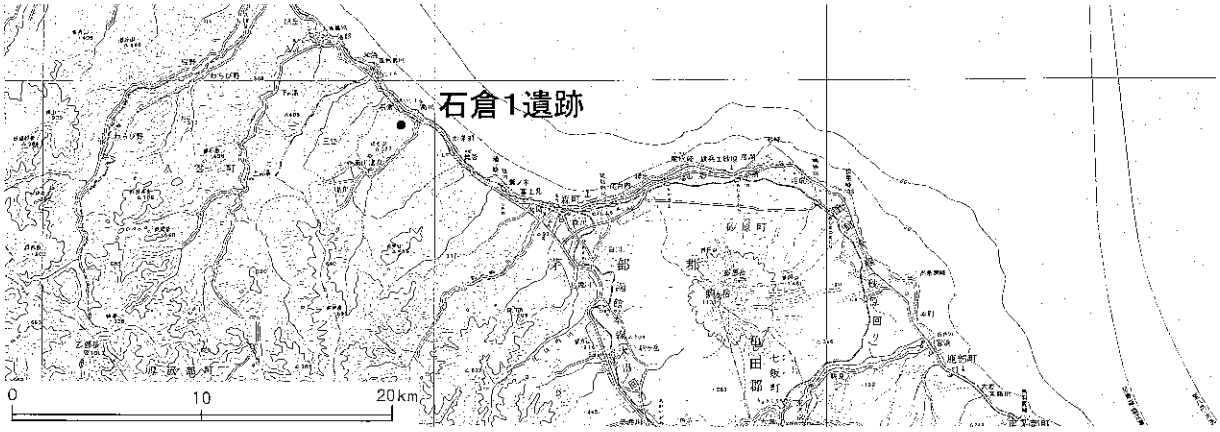
遺構と遺物

検出された遺構は竪穴住居跡６軒、フラスコ状のものを含む土坑38基、小ピット77基、水場遺構１か所、集石６か所、焼土３か所、フレイク集中５か所、土器集中14か所である。

竪穴住居跡は４軒（IH－５・６・７・８）が調査区北西側から検出された。周辺部から出土する土器および石器の特徴から判断すると、時期は縄文時代後期初頭ないし前葉と推定できる。いずれも掘り込みが浅く平面形は捉えがたいが、床面中央部付近に方形の石囲炉が設けられている。IH－6では竪穴の入り口部に当たると見られる場所から一対の配石が検出された。IH－10は調査区南東側の緩斜面から見つかったもので、縄文時代中期～後期のものと見られる。土坑は数基を除き、調査区北西側斜面の尾根部分から検出されている。中期後半から後期前半のものと見られ、径が１ｍ内外の小型のものが多い。フラスコ状のもの（IP－23）や墓の可能性があるもの（IP－21・22）がある。調査区北西側から集中して小ピットを検出している。水場遺構は調査区北西側の東斜面を開析する小規模な沢から、扁平打製石器、たたき石、台石・石皿、北海道式石冠などの礫石器とともに中期後半から後期前葉にかけての土器片が多数見つかったもので、時期は後期前葉が主体である。フレイク集中は頁岩の剥片で構成されるもの（FC－1）と黒曜石の剥片で構成されるもの（FC－2～5）があり、黒曜石は肉眼観察によれば赤井川産である。

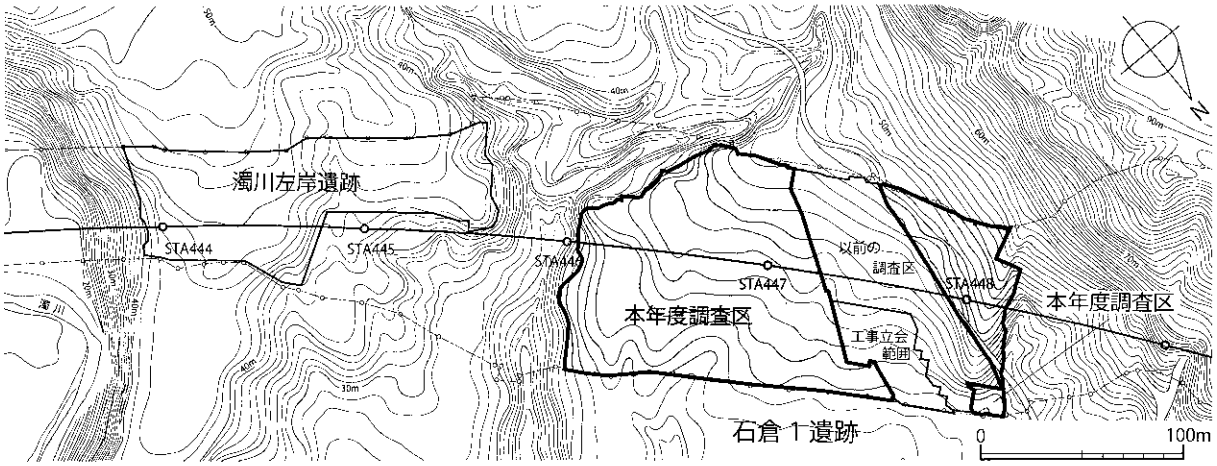
包含層の遺物は土器・石器等合わせて約74,000点が出土している。土器は縄文時代後期前葉（天祐寺（てんゆうじ）式、涌元（わきもと）１式、涌元（わきもと）２式、トリサキ式、大津式）のものが９割近くを占める。ほかに中期後半（サイベ沢Ⅶ式、見晴町式）、後期中葉（手稲式）のものがあり、縄文時代晩期前・中葉（上ノ国式、聖山式）、続縄文時代前半期（恵山式）のものもわずかに認められる。特徴的な遺物としては、赤彩切断壺形（せきさいせつだんつぼがた）ミニチュア土器（縄文時代後期前葉）、鐸形（たくがた）土製品がある。

定型的な石器には石鏃、石錐、スクレイパー、扁平打製石器、たたき石、すり石、北海道式石冠、台石・石皿などがある。石斧は破片や細片が多い。剥片石器は頁岩製のものに加え、メノウを材料としたものが目に付く。メノウは付近の山体に含まれており、濁川河口周辺の海岸などで採集することができる。また、石鏃51点中８点という高率で、基部にアスファルトが付着している。ほかに有孔軽石製品、琴柱形（ことじがた）の異形石器が出土している。

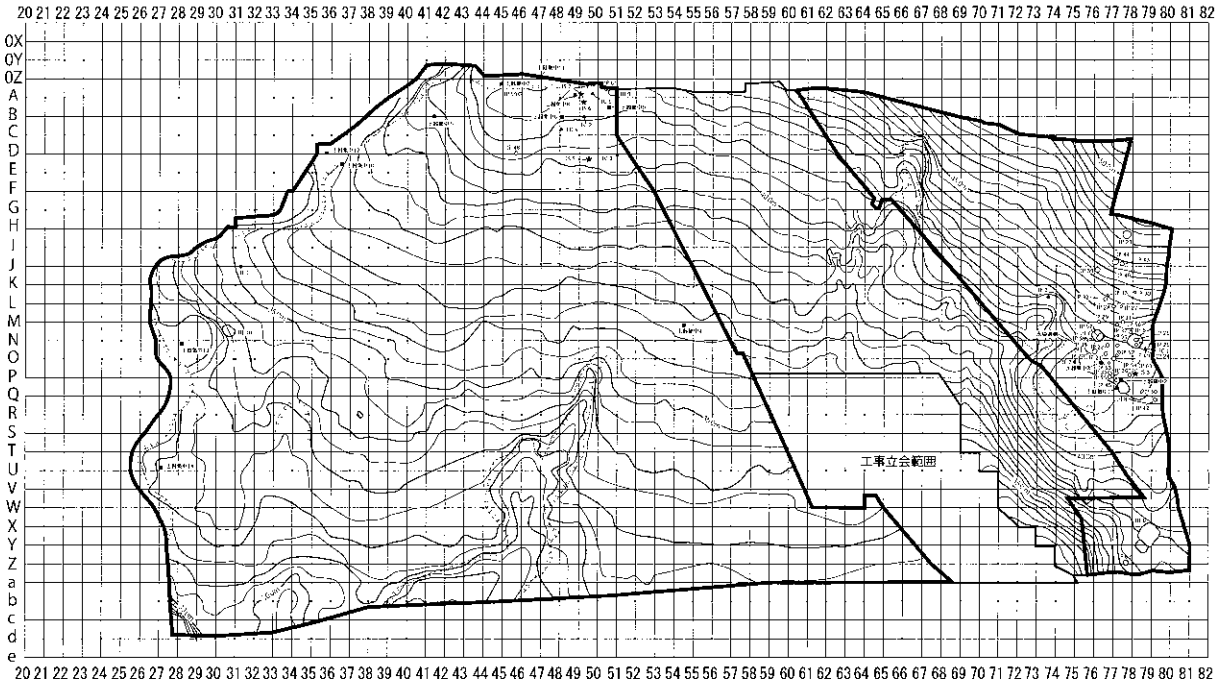


遺跡位置図

（この図は国土地理院発行の20万分の１地勢図「室蘭」を使用した）



遺跡周辺の地形と調査範囲



遺構位置図

住居跡
土坑
集石
焼土
ブレイク集中
土器集中

0
40m

調査状況

調査状況

縄文時代後期竪穴住居跡（IH－６）

縄文時代後期土坑（IP－61）土層断面

縄文時代後期集石（IS－７）

北斗市　館野２遺跡（B－06－35）

事 業 名：高規格道路函館江差自動車道函館茂辺地道路工事用地内埋蔵文化財発掘調査
委 託 者：国土交通省北海道開発局函館開発建設部
所 在 地：北斗市館野29-4ほか
調査面積：2,076㎡
調査期間：平成20年５月12日～10月１日
調 査 員：佐川俊一、立川トマス、皆川洋一

遺跡の概要

遺跡は北斗市（旧上磯町）街地から南南西方向に直線で約3.5ｋｍの海に面した海岸段丘上（標高49～58m）に位置している。遺跡の範囲は南北に長く、平成19年度はＡ～Ｃ地区の３地区に分けて調査を行い、うちＡ・Ｂ地区については調査を終えている。今年度の調査は最後に残ったＣ地区の未調査部分を対象にした。その結果、縄文前期後半、縄文中期前半・後半、縄文後期前葉などの多数の遺構・遺物を検出している。土層はⅠ層が表土層、Ⅱ層が黒色土層、Ⅲ層が黒色土層、Ⅳ層が漸移層、Ⅴ層が黄褐色土層である。遺構・遺物の大半はⅢ層に包含されていた。火山灰はⅡ～Ⅲ層の間で駒ヶ岳ｄ火山灰（Ko-d）と白頭山－苫小牧火山灰（B-Tm）が検出されている。

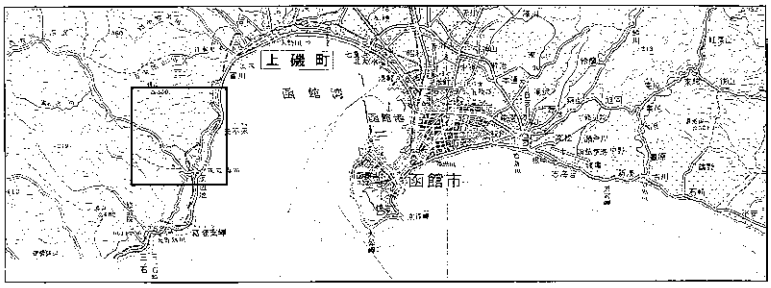
遺構と遺物

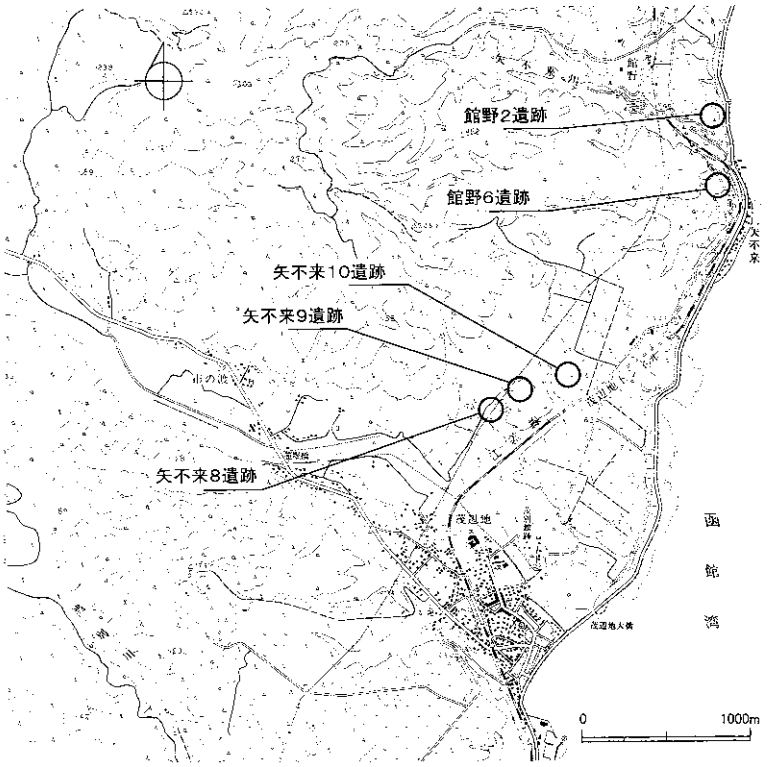
新たに調査された遺構は、竪穴住居跡（CH）47軒、土坑（CP）121基、焼土（CF）70か所、集石（CS）６か所、小ピット（CSP）33基、フレイクチップ集中（CFC）１か所である。

竪穴住居跡は昨年同様に円筒土器上層式と大安在Ｂ式土器の時期が多い。これらの時期に集落が形成されたと考えられる。この他にはサイベ沢Ⅶ式、見晴町式土器の時期のものも検出されている。異なる時期の住居が重複する場合が多く、竪穴住居跡の覆土から大量の遺物が出土するものも少なくない。多くは廃棄場として使われたものと考えられる。

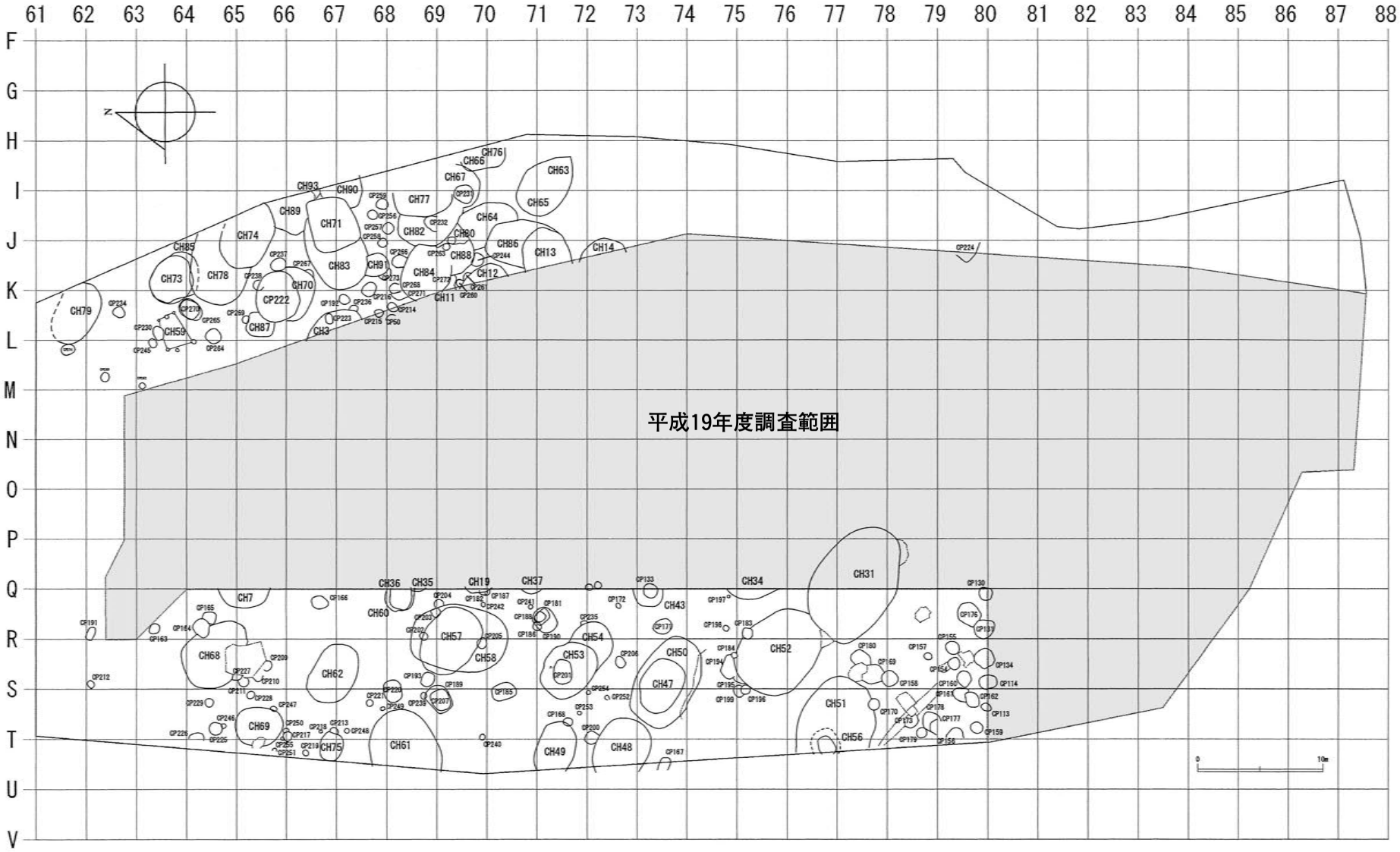
土坑は、墓と考えられるものやフラスコ状のもの、埋設土器を伴うものなどがある。

墓と考えられるのは平面が円形で比較的大型の土坑である。遺体やその痕跡は残っておらず、副葬品も少ないが、覆土は小礫や焼土、炭化材などを混ぜ込んだ土で埋め戻されて





遺跡位置図　（国土地理院２万５千分の１「茂辺地」を加工して使用）


61 62 63 64 65 66 67 68 69 70 71 72 73 74 75 76 77 78 79 80 81 82 83 84 85 86 87 88
F G H I J K L M N O P Q R S T U V
平成19年度調査範囲
CH31
CH34
CH35
CH36
CH37
CH43
CH47
CH48
CH49
CH50
CH51
CH52
CH53
CH54
CH56
CH57
CH58
CH59
CH60
CH61
CH62
CH63
CH64
CH65
CH66
CH67
CH68
CH69
CH70
CH71
CH73
CH74
CH75
CH76
CH77
CH78
CH79
CH82
CH83
CH84
CH85
CH86
CH87
CH88
CH89
CH90
CH91
CH93
CH7
CH3
CH11
CH12
CH13
CH14
CP222
CP224
0
10m

遺構位置図

おり、さらにその上を焼土やロームで覆ったものも認められた。フラスコ状の土坑は深さ1.5mを越える大型のものと、より小型のものがあり、後者が圧倒的に多い。土坑に埋設される土器は、その底部を上向きにして埋められたものもあった。焼土は石囲いを伴うものも多く、ほかには住居の炉跡から廃棄されたと考えられるものも多い。

遺物は、数十万点が出土したと推定される。土器は円筒土器上層式、サイベ沢Ⅶ式、見晴町式、大安在Ｂ式、ノダップⅡ式、煉瓦台式が主体である。この他には円筒土器下層ｃ式、涌元式なども出土している。石器は石槍、石鏃、石錐、つまみ付きナイフ、スクレイパー、石斧、たたき石、すり石、北海道式石冠、扁平打製石器、石皿、台石などで、土・石製品には土偶、シャチ形土製品（？）、石棒、石刀形石製品、玉がある。また、動物遺存体なども出土している。

縄文時代中期竪穴住居跡（CH－50）

竪穴住居跡出土の石棒と石製品出土状況

シャチ形土製品（？）出土状況

縄文時代中期竪穴住居跡重複状況

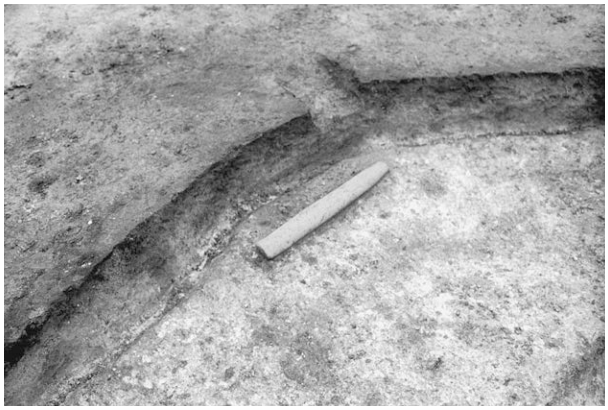
土坑群検出状況

縄文時代土坑（CP159）土層断面

縄文時代土坑（CP159）

縄文時代石囲炉（CF－95）

竪穴住居跡土器出土状況



竪穴住居跡石刀形石製品出土状況

玉出土状況

縄文時代中期竪穴住居跡群

北斗市（ほくとし）　館野（たての）遺跡（B－06－15）

事 業 名：高規格幹線道路函館江差自動車道函館茂辺地道路工事用地内埋蔵文化財発掘調査

委 託 者：国土交通省北海道開発局函館開発建設部

所 在 地：北斗市館野3－3ほか

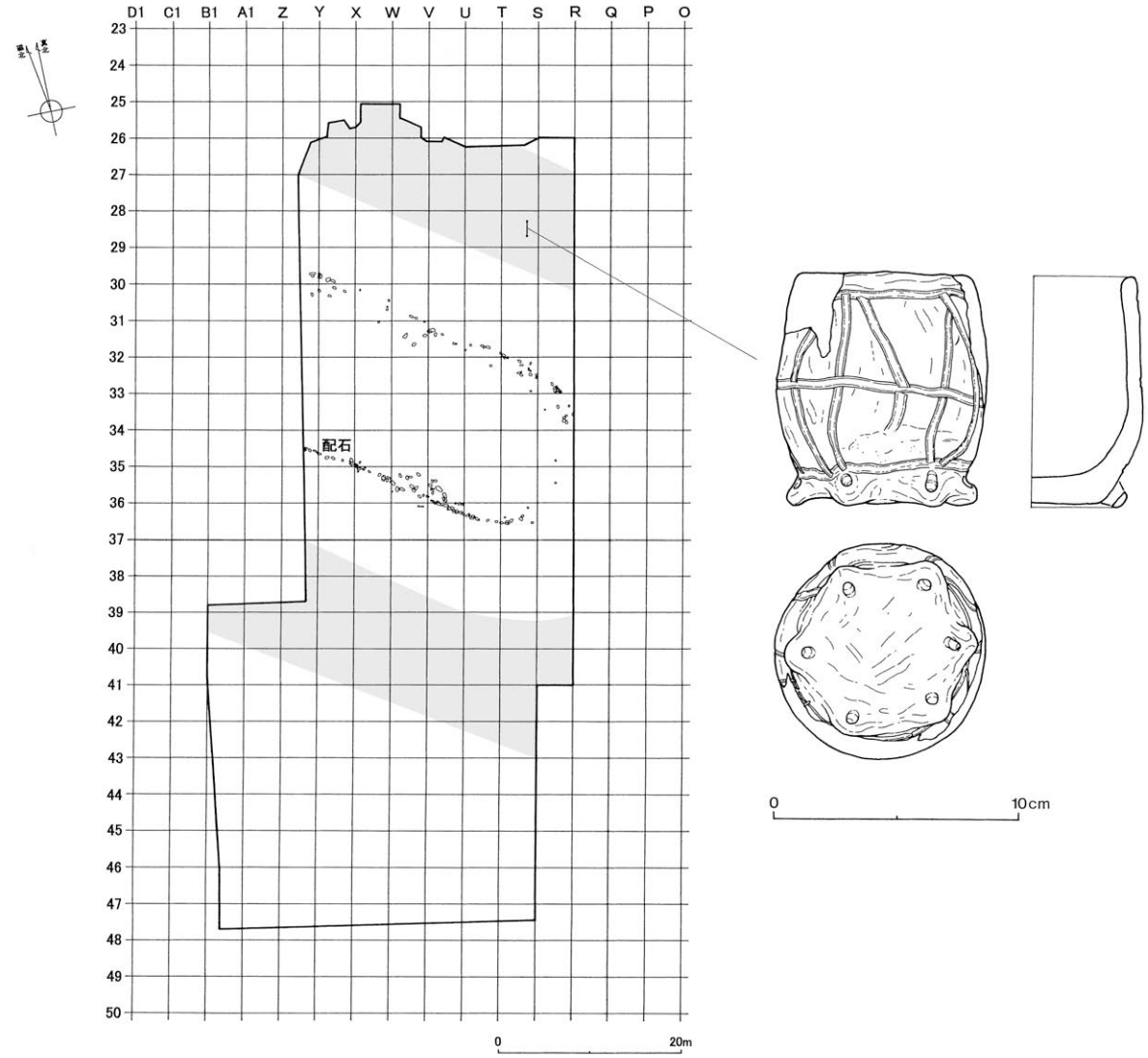
調査面積：8,565㎡（平成15年度5,750㎡、16年度2,815㎡）

整理期間：平成20年度４月１日～平成21年３月31日

調 査 員：佐川俊一、冨永勝也

整理の概要

平成16年度に検出された遺構は縄文時代中期後半から後期初頭にかけてのもので、遺物総数は約660,000点である。今年度は後期初頭の盛土遺構から出土した遺物の二次整理を進めている。ここでは整理作業で復元された特徴的な遺物を紹介したい。館野遺跡の盛土遺構からは、道内の他遺跡では例をみない、珍しい形状の土器が１個体出土している。底部外方に六か所の張り出しがあり、上位から底面に向かって斜角に貫通孔が施される。土器の形状から用途を推測すると、対をなす孔にそれぞれ紐をとおし、３本の紐を組みあわせることによって、水平に安定した状態で土器を吊るす事ができる。このことから空中に吊り提げる為につくられた土器と推測される。形状からこれを吊り穴付き小型土器と呼称する。



遺物出土位置図

北斗市　館野６遺跡（B－06－35）

事 業 名：高規格幹線道路函館江差自動車道函館茂辺地道路工事用地内埋蔵文化財発掘調査

委 託 者：国土交通省北海道開発局函館開発建設部

所 在 地：北斗市館野85－1ほか

調査面積：5,768㎡

調査期間：平成20年５月12日～11月28日

調 査 員：越田賢一郎、西田　茂、佐藤和雄、佐川俊一、立川トマス、谷島由貴、中山昭大、袖岡淳子、佐藤　剛、吉田裕吏洋

遺跡の概要

館野６遺跡は、北斗市街地から南南西に約4.5㎞、標高52～58ｍの海岸段丘上に位置する。昨年度から継続して調査を行っている館野２遺跡とは、矢不来川を挟んだ対岸にあたる。今回の調査は、海側の段丘上及び斜面部分の調査を行った。

基本層序は、Ⅰ層：表土・耕作土、Ⅱ層：黒色土層・褐色土層（黒色土及び白頭山‐苫小牧火山灰：B-Tm・10世紀頃降下に由来する二次堆積層：縄文時代晩期以降)、Ⅲ層：黒色土層（縄文時代晩期～前期時代)、Ⅳ層：漸移層（縄文時代早期)、Ⅴ層：黄褐色ローム質土層（旧石器時代：今回は出土していない）である。またⅡ層上位の黒色土中位や地形の落ち込みには、まれに駒ケ岳ｄ降下火山灰（Ko-d：1640年降下）が堆積する。

遺構と遺物

遺構は、Ⅲ層上面で、駒ケ岳ｄ降下火山灰より新しい時期の畑跡を検出した。また、Ⅲ層を中心に、竪穴住居跡17軒、土坑43基、Ｔピット６基、小ピット198基、焼土62か所などを検出した。主体となる時期は縄文時代前期～後期前半である。

畑跡は、主軸方向が南北に偏るものとそれにやや直交気味に交差するものを検出した。また、畝からは炭化物も検出し、一部には焼土の痕跡もみられた。これらのことから、近世の一定程度の期間、継続して営まれた焼畑跡の可能性がある。

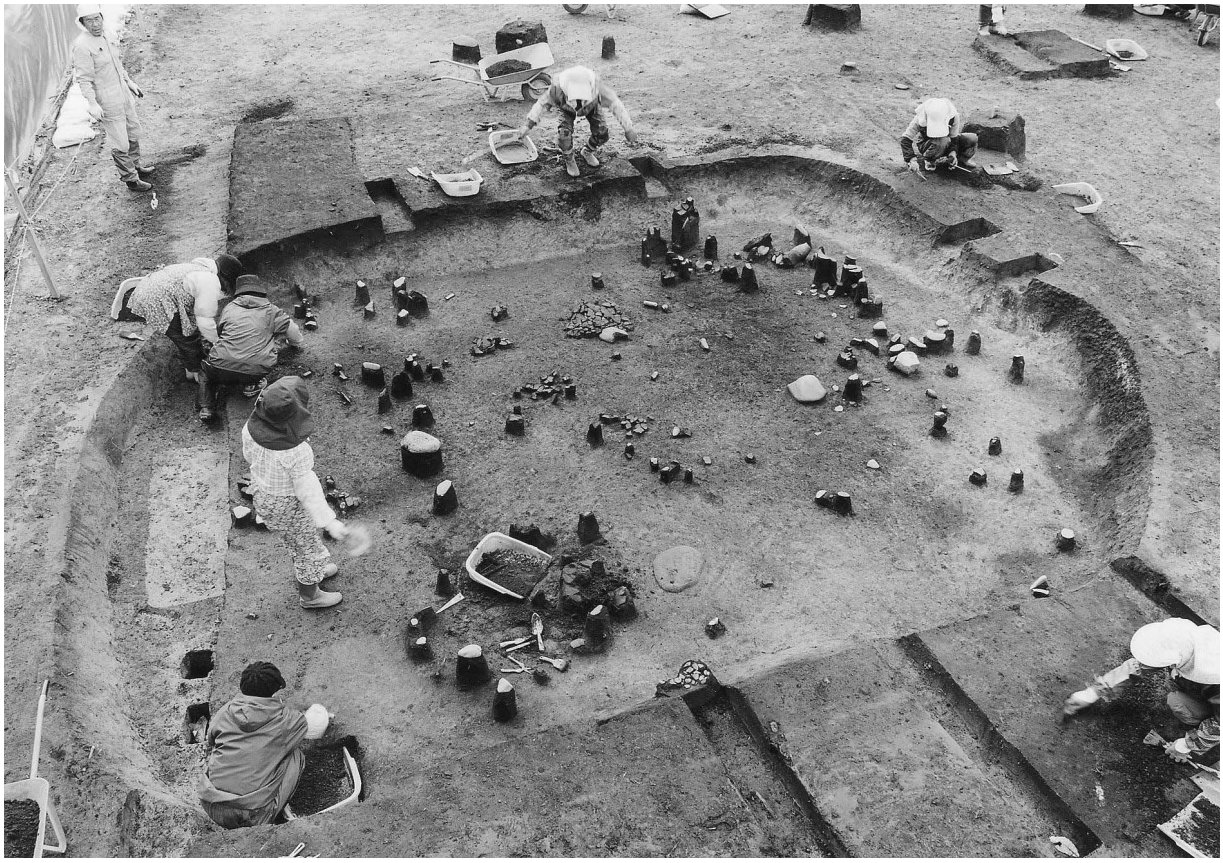
竪穴住居跡は、縄文時代前期後半のものと中期前半のものを検出した。平面形は、円形、隅丸方形、隅丸長方形のものである。その中には重複関係が認められるものがある。また、竪穴住居跡で生活面を把握できたものがある。竪穴住居跡のほとんどは地床炉で、一部に石囲炉がある。主柱穴は、４本、５本、６本などがある。遺物は、生活面や床面から、完形品を含む土器、スクレイパーを中心とする剥片石器類、すり石、台石を中心とする礫石器類が出土している。

Ⅳ層下位からⅤ層の調査においては、縄文時代早期後半（貝殻条痕文土器の時期）の土坑・焼土などの遺構及び遺物を検出した。土坑は堆積状況が埋め戻しと考えられるもので、土坑墓の可能性がある。

今年度の遺物は概算でコンテナ（59×39×15㎝）285箱である。Ⅲ層からⅤ層にかけて、縄文時代早期後半、前期後半～後期前半、晩期、続縄文時代前半の土器が出土しており、主体は縄文時代前期後半～後期前半である。石器は石鏃、つまみ付ナイフ、スクレイパー、石斧、たたき石、すり石、石製品などが出土している。

また、自然地形として、地すべり断層の可能性が高い地割れ２か所を検出した。調査区は、中央部分が周囲よりくぼんだ地形となっており、その要因として、この地すべりが断続的に起こった可能性がある。地すべりは縄文時代前期後半の竪穴住居跡の廃絶後に発生していることが判明している。

調査は次年度も継続して行う予定である。

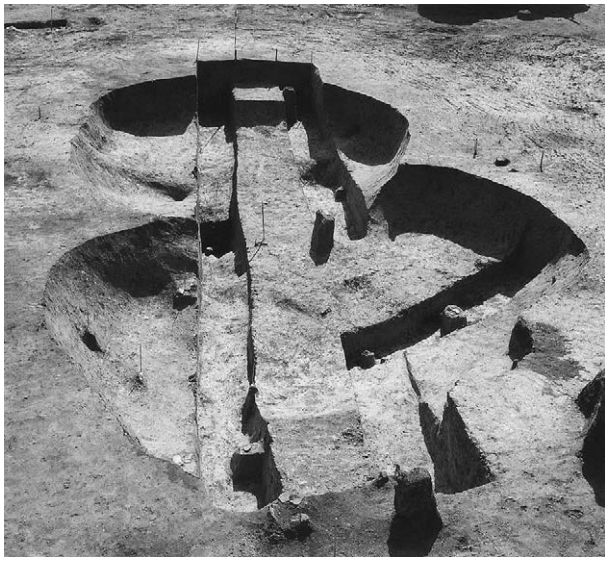


縄文時代中期前半竪穴住居跡調査状況

生活面遺物出土状況

床面遺物出土状況

近世畑跡



縄文時代早期後半土坑

縄文時代前期土坑

縄文時代フラスコ状土坑調査状況

土鈴出土状況

北斗市　矢不来８遺跡（B－06－74）

事 業 名：高規格幹線道路函館江差自動車道函館茂辺地道路工事用地内埋蔵文化財発掘調査
委 託 者：国土交通省北海道開発局函館開発建設部
所 在 地：北斗市矢不来421ほか
調査面積：1,791㎡
調査期間：平成20年５月12日～７月31日
調 査 員：佐藤和雄、袖岡淳子、佐藤　剛

遺跡の概要

矢不来８遺跡は、北斗市街地から南南西に約5.9㎞の標高60～65ｍの海岸段丘上に位置する。当センターにおいて、平成17・18年度に調査を行っている。今回の調査は、段丘上の平坦面の調査を行った。

基本層序は、館野６遺跡に準じている。

遺構と遺物

今年度の調査では、遺構はⅢ層を中心に土坑１基、焼土３か所などを検出した。主体とする時期は縄文時代中期～晩期期前半である。出土遺物は、土器・石器等の概算で約900点である。

北斗市　矢不来10遺跡（B－06－76）

事 業 名：高規格幹線道路函館江差自動車道函館茂辺地道路工事用地内埋蔵文化財発掘調査
委 託 者：国土交通省北海道開発局函館開発建設部
所 在 地：北斗市矢不来229ほか
調査面積：1,907㎡
調査期間：平成20年５月12日～７月31日
調 査 員：佐藤和雄、袖岡淳子、佐藤　剛

遺跡の概要

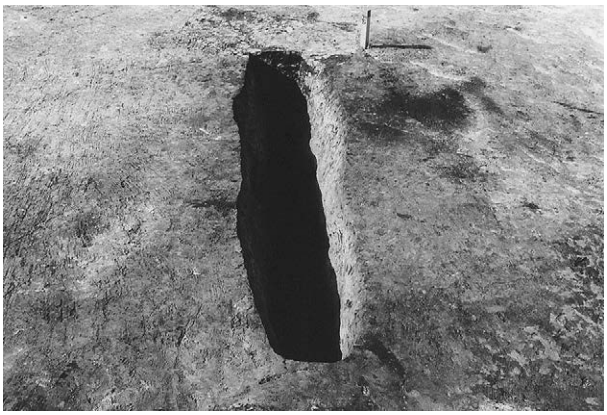
矢不来10遺跡は、北斗市街地から南南西に約5.3㎞の標高65～68ｍの海岸段丘上に位置する。当センターにおいて、平成８年度に調査を行っている。今回の調査は、段丘上の平坦面の調査を行った。

基本層序は、館野６遺跡に準じている。

遺構と遺物

今年度の調査では、遺構はⅢ層を中心に土坑９基、Ｔピット１基、焼土２か所を検出した。主体とする時期は縄文時代早期と中期～晩期前半である。出土遺物は、土器・石器等の概算で約240点である。

矢不来８遺跡全景



矢不来10遺跡縄文時代Ｔピット

北斗市　矢不来（やふらい）9遺跡（B－6－75）

事 業 名：高規格幹線道路函館江差自動車道函館茂辺地道路工事用地内埋蔵文化財発掘調査

委 託 者：国土交通省北海道開発局函館開発建設部

所 在 地：北海道北斗市矢不来415

調査面積：1,514㎡

調査期間：平成20年5月12日～8月7日

調 査 員：佐藤和雄、袖岡淳子、佐藤　剛

遺跡の概要

遺跡は北斗市市街地から南西へ約6㎞、現海岸線より内陸におよそ1㎞に位置し、函館湾に注ぐ茂辺地川へ向かう沢に緩やかに下る、標高60～65mの海岸段丘上に立地する。同じ段丘面に矢不来8遺跡と矢不来10遺跡があり、その中間となる。調査区は西側の沢に面した平坦面と、沢状地形を挟み南東に下る斜面とに分けられる。平坦面の一部と斜面は平成19年度に調査・報告されている。本年はその北東～南西に続く範囲を調査した。

遺跡の基本層序はⅠ層：表土、Ⅱ層：黒色土(駒ケ岳d火山灰：Ko-d、1640年降灰を含む)、Ⅱ´層：暗褐色土層（白頭山‐苫小牧火山灰：B-Tm、10世紀降下に由来する二次堆積層)、Ⅲ層：黒褐色～黒色土層（今年度は土色の違う上位と下位で出土する遺物の時期が違うことからⅢa層、Ⅲb層と区分した)、Ⅲa層：黒褐色土層（縄文時代後期前葉)、Ⅲb層：黒色土層（縄文時代中期前半)、Ⅳ層：暗褐色土と黄褐色土が斑状の層（漸移層)、Ⅴ層：黄褐色土層（ローム層）である。

遺構と遺物

近世以降の遺構は、駒ケ岳d火山灰（Ko-d）の上位から掘り込まれた柱穴で構成されている平地住居跡1軒を検出した。中央には炉がある。柱穴の覆土中からはキセルの吸い口が出土した。

縄文時代の遺構は竪穴住居跡2軒、土坑6基、集石1か所、焼土30か所を検出した。住居跡はいずれも床面の出土遺物から縄文時代中期前半、構築面はⅢb層中である。1軒は調査区西側の沢に面した平坦面にあり、住居跡周辺に掘り上げ土がマウンド状に検出された。平面は楕円形で、床面の中央に粘土を貼った炉跡がある。もう1軒は平坦面と斜面に向かい緩やかに下る、地形が変化する地点に検出した。平面は楕円形で掘り込みは浅く、掘り上げ土は検出していない。土坑、焼土のうち西側の沢に面する平坦面に位置する遺構が概ね縄文時代中期前半で、竪穴住居跡の掘り上げ土の下のⅢb層で検出した。南東の斜面部に面する遺構は、検出層位（Ⅲa層～Ⅲb層上位）と周辺の遺物から縄文時代後期前葉と考えられる。集石は被熱した台石様礫の破砕片の集まりで、周辺から出土する遺物から判断すると、縄文時代後期前葉のものと考えられる。

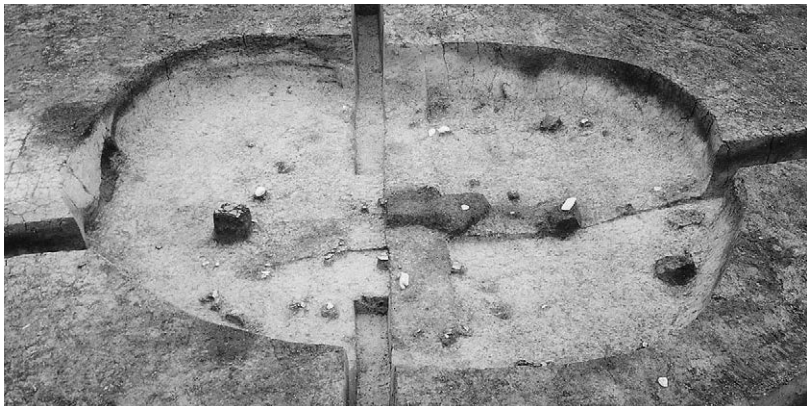
遺物は土器・石器等あわせて約16,000点出土した。土器は縄文時代中期前半、縄文時代後期前葉のものが出土した。剥片石器は石槍、石鏃、つまみ付きナイフ、スクレイパー、剥片、石核などがある。石材は頁岩製のものが大多数であるが、黒曜石製の石槍2点を出土している。このうち1点が縄文時代後期前葉の土器のまとまり（写真参照）とともに出土した。礫石器では、磨製石斧、たたき石、すり石、扁平打製石器、台石、石皿などが出土した。

調査状況

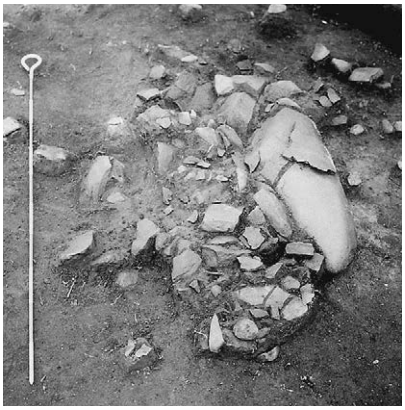
近世以降の平地住居跡

柱穴覆土キセル出土状況

黒曜石製石槍出土状況



縄文時代中期前半竪穴住居跡



集石検出状況

恵庭市（えにわし）　西島松（にししままつ）５遺跡（A－04－38）

事 業 名：柏木川基幹河川改修工事用地内埋蔵文化財発掘調査
委 託 者：北海道石狩支庁（札幌土木現業所）
所 在 地：恵庭市西島松306番、501番地先河川敷地
調査面積：21,210㎡
整理期間：平成20年４月１日～平成21年３月31日
調 査 員：土肥研晶、柳瀬由佳

整理の概要

平成12年から５年間の発掘調査で、住居跡75軒、土坑(土坑墓を含む)825基、Ｔピット23基、焼土454か所、小ピット3,514か所、集石遺構５か所が見つかっている。遺物は1,667,856点が出土しているが、その９割が縄文時代後期後葉～晩期初頭期のものである。遺物の多くは同時期の盛土遺構から出土したものである。今年度は西島松５遺跡の最後の報告書である「西島松５遺跡(6)」を刊行する。

表１　西島松５遺跡(6)掲載遺構

	遺構番号	欠番	合計
土坑	337号～835号	677・686・727・732 号	495 基
Ｔピット	11号～16号	—	6 基
小ピット	2513号～3774号	2991・3224・3372・3440・3465	1,257か所
集石遺構	１号～５号	—	５か所
焼土	160号～459号	319号	299か所

表２　西島松５遺跡報告済遺構数

	遺構番号	欠番	合計
住居跡	H1～H75・X1	H10	75 軒
土坑	P1～P835号・X2～X7	P124・P140・P141・P142・P147・P167・P204・P205・P206・P215・P216・P243・P677・P686・P727・P732	825 基
Ｔピット	TP1～TP16・P124・P140・P141・P142・P147・P215・P216	—	23 基
小ピット	SP1～SP3774	201～330・466・501～620・1484～1487・2991・3244・3372・3440・3465	3,514か所
集石遺構	１号～５号	—	５か所
焼土	F1～F459	F10・F19・F38・F153・F319	454か所

表 3　報告書別掲載遺構一覧

	住居	土坑	Tピット	小ピット	焼土	集石
西島松 5	X1・ H1～9	X2～7 P1～221	TP1～8 Pより 7 基	SP1～1013	F1～56	−
	10軒	216基	15基	762か所	53か所	−
西島松5(2)	H11～19	P222～334	TP9・10	SP1014～2512	F57～156 (一部(3)へ)	−
	9 軒	108基	2 基	1495か所	95か所	−
西島松5(3)	−	236・238・239 310・335・336	−	−	F103・108・118・152 F157～159	−
	−	6基	−	−	7か所	−
西島松 5 (4)	H20～75	−	−	−	−	−
	56軒	−	−	−	−	−
西島松 5 (5)	−	−	−	−	−	−
	−	−	−	−	−	−
西島松5(6)	−	P337～835	TP11～16	SP2513～3774	160～459	1 ～ 5
	−	495基	6基	1257か所	299か所	5か所
計	75軒	825基	23基	3514か所	454か所	5か所

表 4　報告書別報告済遺物点数一覧

	土器	土製品	石器	石製品	金属製品	漆製品	木製品	骨角器	その他	合計
西島松 5	201,091	202	75,123	32	65					276,513
西島松 5 (2)	26,755	71	8,200	23	175					35,224
西島松 5 (3)	542,188	938	100,506	137	2		2	18	1	643,792
西島松 5 (4)	10,118	15	9,267	3	6			2		19,411
西島松 5 (5)	518,201	1,076	119,823	83	3			19	54	639,259
西島松 5 (6)	29,578	166	21,928	1,521		141		322	1	53,657
西島松 5　合計	1,327,931	2,468	334,847	1,799	251	141	2	361	56	1,667,856

遠軽町（えんがるちょう）　旧白滝（きゅうしらたき）3遺跡（I－17－148）

事 業 名：旭川紋別自動車道白滝丸瀬布道路工事に伴う埋蔵文化財調査

委 託 者：国土交通省北海道開発局網走開発建設部

所 在 地：紋別郡遠軽町旧白滝325

調査面積：3,300㎡

調査期間：平成20年５月７日～８月13日

調 査 員：熊谷仁志、坂本尚史、直江康雄

調査の概要

旧白滝３遺跡は、白滝市街地から北東側約４㎞に位置している。湧別川（ゆうべつがわ）の河岸段丘上に立地し、標高は350m前後、現在の湧別川との比高はおよそ30mである。幌加湧別川（ほろかゆうべつがわ）と湧別川との合流点からは直線で約１㎞、赤石山山頂までは約7.7㎞の距離がある。遺跡の上流側にはホロカ沢Ⅰ遺跡、旧白滝5遺跡が、下流側には旧白滝15遺跡が隣接している。

調査により、1,460,000点におよぶ旧石器時代の遺物を検出した。石器ブロックは15か所以上が認められ、後期旧石器時代前半期から終末期にかけての複数の石器群で構成されている。また、炭化木片ブロック・焼土などの遺構も23か所検出している。さらに、これらを重層的に検出することが出来た。

土層堆積状況

基本層序はⅠ～Ⅲ層に区分している。

Ⅰ層：表土

Ⅱ層：黄褐色粘質土層

【本来の遺物包含層で層厚は40～60㎝が通常である。小礫・礫片を含有する。ソリフラクションによる風成土の再堆積層と捉えている。】

Ⅲ層：にぶい黄褐色～灰白色粘質土層

【Ⅲ層は約3万年前降下の大雪御鉢平火山灰層（Ds-Oh）の直下もしくは直上の土としている。旧白滝地区では地点によって堆積状況が異なるため、Ds-Ohを鍵層として判別した無遺物層をⅢ層として扱っている。】

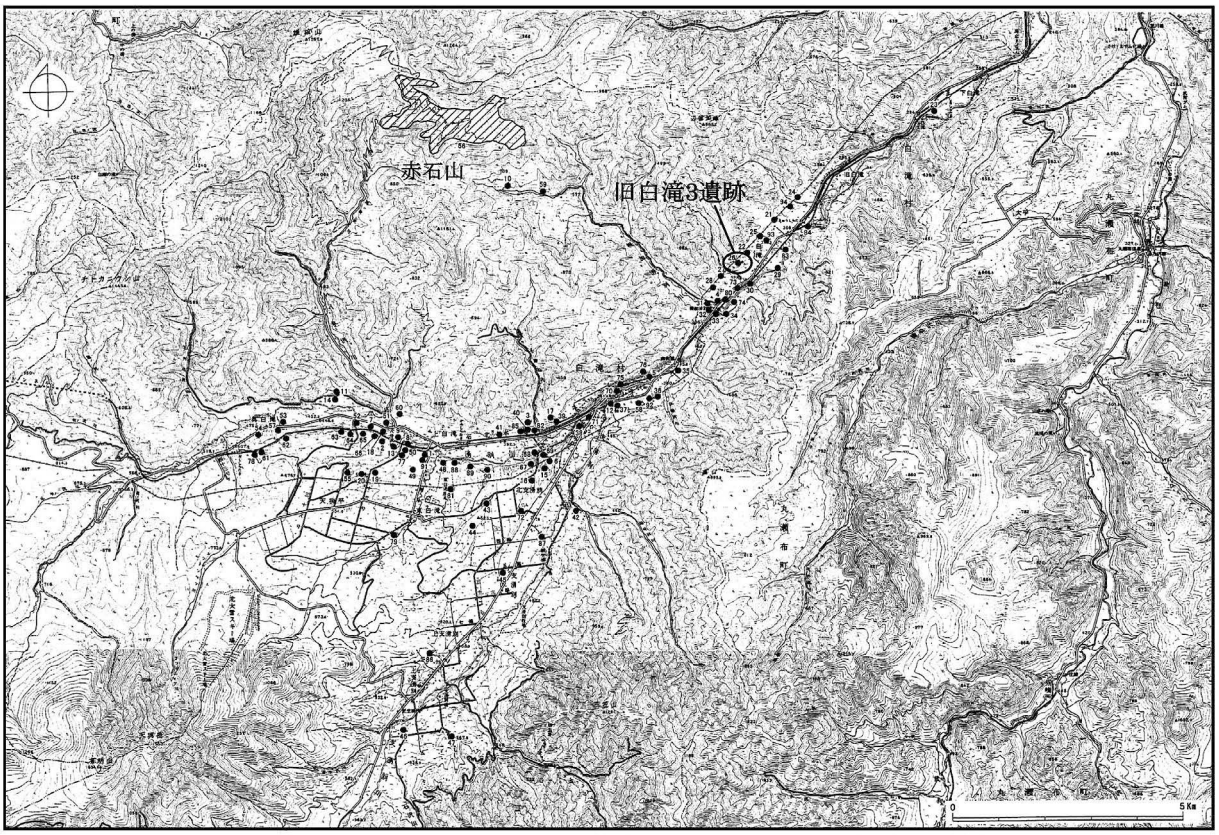
また、調査区中央部北西側（山側）では、層厚2.2mを超える堆積を確認した。上下関係を有する、大きく３枚の文化層が認められ、北海道内の旧石器遺跡では貴重な検出例と考えられる。堆積は調査区内微高地に隣接する100㎡ほどの範囲で認められ、予察的ではあるが、下記の過程で形成されたと理解できる。

①沢流路の水成堆積と埋没（台形様石器石器群包含）

②ソリフラクションによる再堆積（舟底形石器石器群・広郷型（ひろさとかた）細石刃核石器群包含）

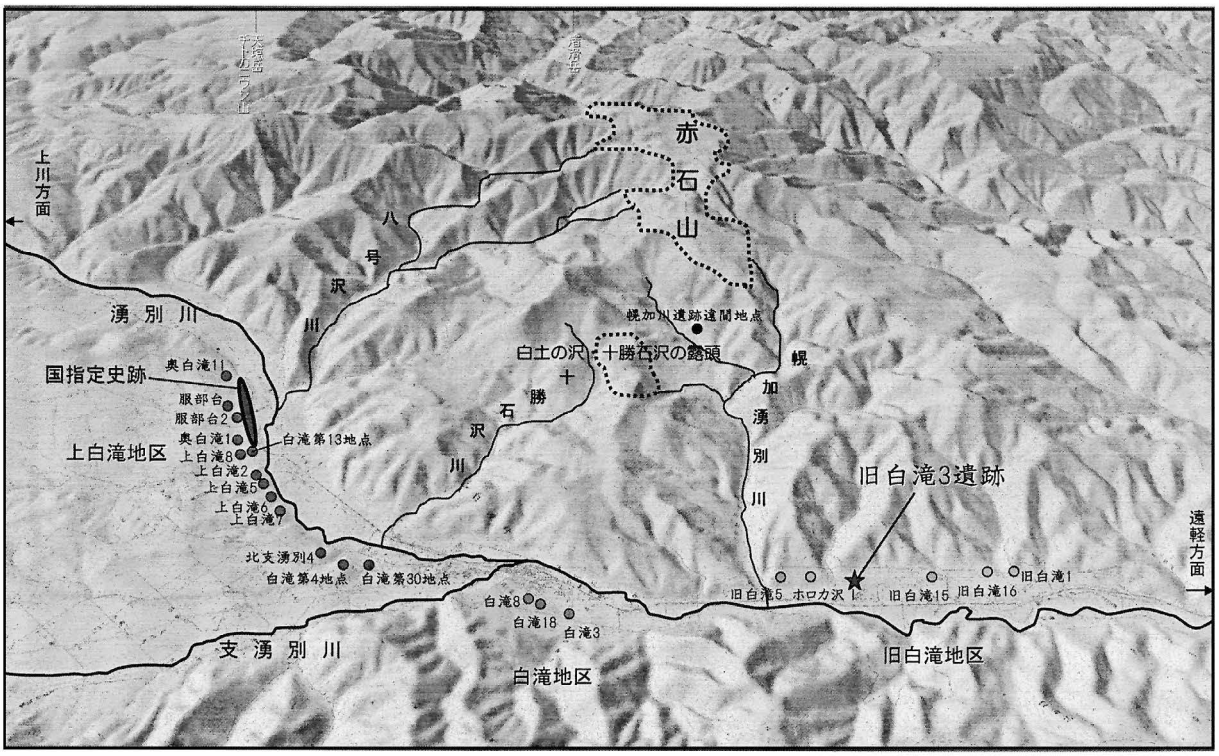
③安定した風成堆積（小型舟底形石器石器群包含）

なお、土層の観察においては、北海道大学地球環境科学研究科中村有吾氏の指導・助言を得ている。



遺跡の位置

（国土地理院発行５万分の１地形図「白滝」「丸瀬布南部」「上支湧別」「大和」を使用）



赤石山と白滝遺跡群

（国土地理院発行数値地図25,000（地図画像）「北見」、数値地図50mメッシュ（標高）「日本－Ⅰ」を基にカシミール３Dで作成）

遺構と遺物

⑴　検出石器群

確認した石器群と主な内容は以下のとおりである。

①　台形様石器石器群【台形様石器・石核（サイコロ状）・棒状原石・メノウ剥片】

②　峠下・札滑型？細石刃核石器群【細石刃・札滑型細石刃核・削片・彫器・掻器】

③　舟底形石器石器群【舟底形石器・石刃核・尖頭器・大型石刃・削器】

④　広郷型細石刃核石器群【細石刃・細石刃核・石刃核・彫器・掻器・削器・削片・大型石刃・頁岩メノウ製品多・軽石製品・赤色顔料原材】

⑤　有舌尖頭器石器群【有舌尖頭器・尖頭器・彫器・掻器・錐形石器】

⑥　小型舟底形石器石器群【舟底形石器調整剥片】

特に広郷型細石刃石器群は複数のブロックを形成し、調査区の広範囲で認められた。さらに特定のブロック（B25・26区）では、大量の細石刃を生産した痕跡が認められる。今後の整理作業により素材石刃の生産から細石刃の剥離までの一連の製作過程が復元できると考えられる。また、同石器群にはメノウ・頁岩製石器が多数伴い、細片も多数検出していることから、これら石材を用いた製品の加工・調整作業が行なわれた可能性がある。

⑵　検出遺構

遺構は焼土（F）４か所、炭化木片ブロック（CB）19か所である。発掘調査段階で捉えた共伴関係は、以下のとおりである。

①　台形様石器石器群：炭化木片ブロック３か所（CB-4・17・19）

②　舟底形石器石器群：炭化木片ブロック５か所（CB-2・7・9・13・18）

③　広郷型細石刃石器群：焼土２か所（F-1・3・4）

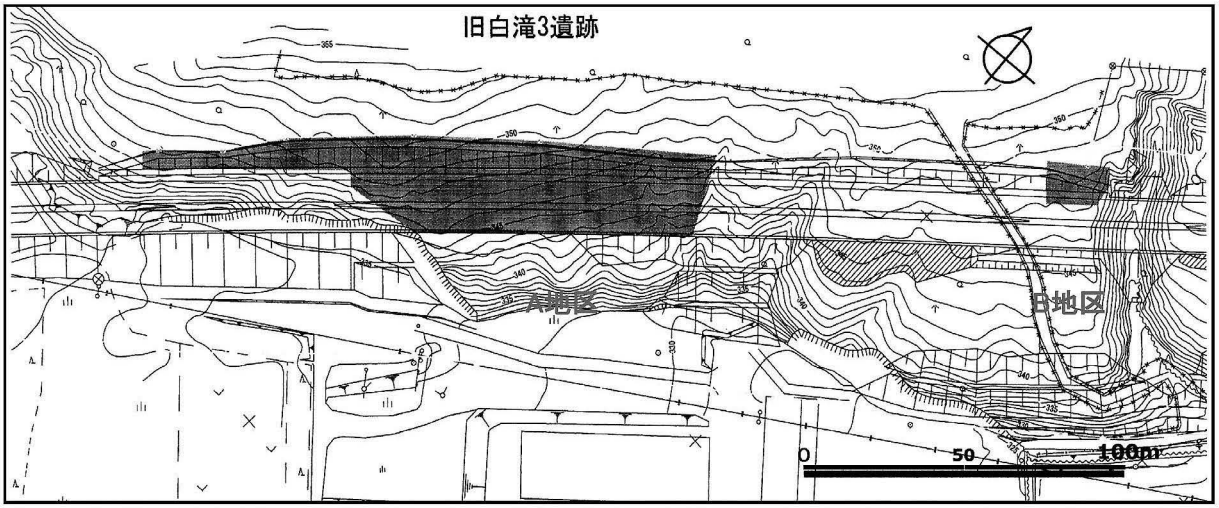
：炭化木片ブロック４か所（CB-2・7・9・13・18）

④　有舌尖頭器石器群：焼土１か所（F-2）

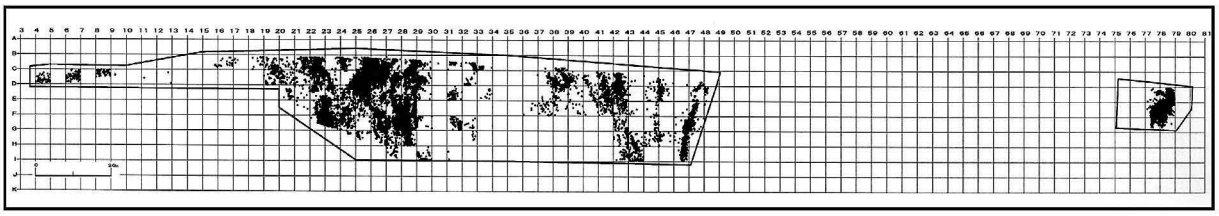
：炭化木片ブロック１か所（CB-16）

このうち、舟底形石器や広郷型細石刃に伴うと考えられる複数の遺構（F･CB共）に礫・礫片がともなう状況を確認している。特にCB-7は掘り込みがなされ、覆土（炭化物層）中に礫が配置される状況が認められた。

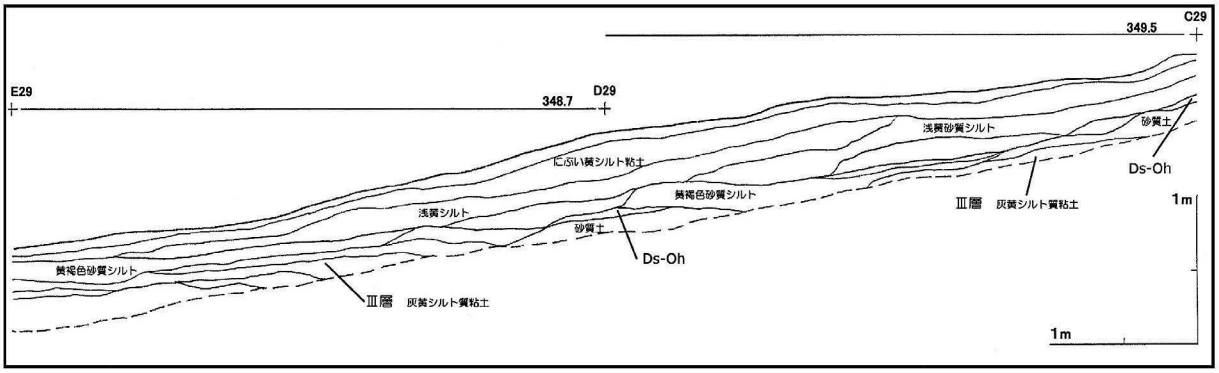
これら遺構の年代と共伴関係については、採取炭化物を用いた年代測定と、近接石器ブロック内容の精査により再検討していく必要がある。



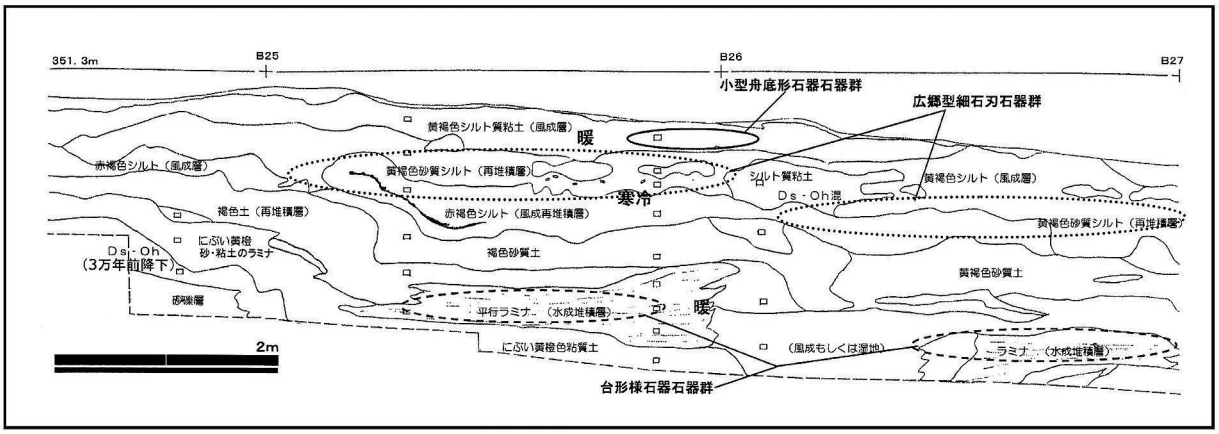
遺跡周辺の地形



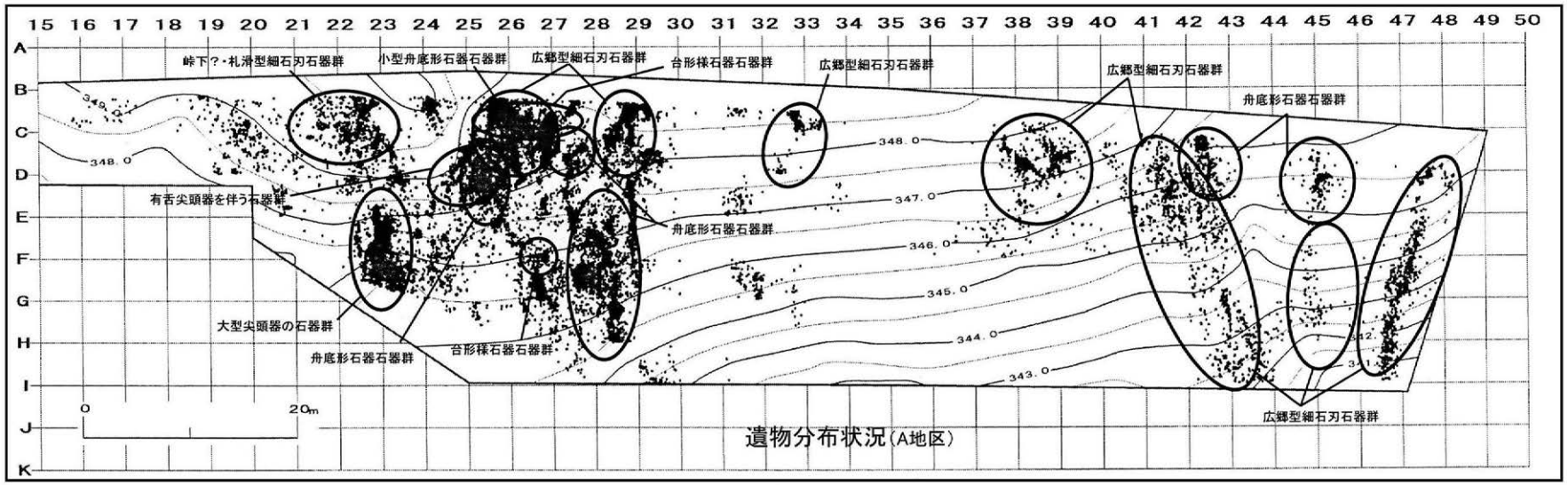
遺物分布状況

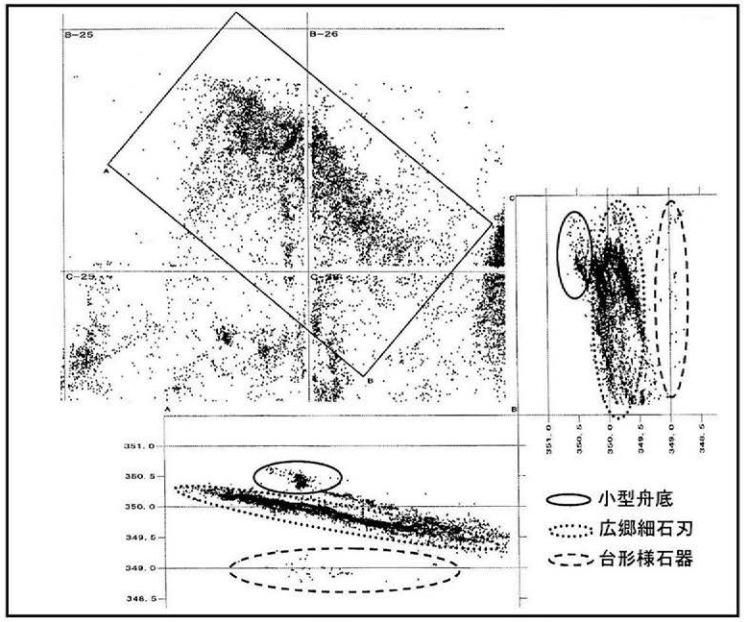


土層堆積状況（C～E29ライン）

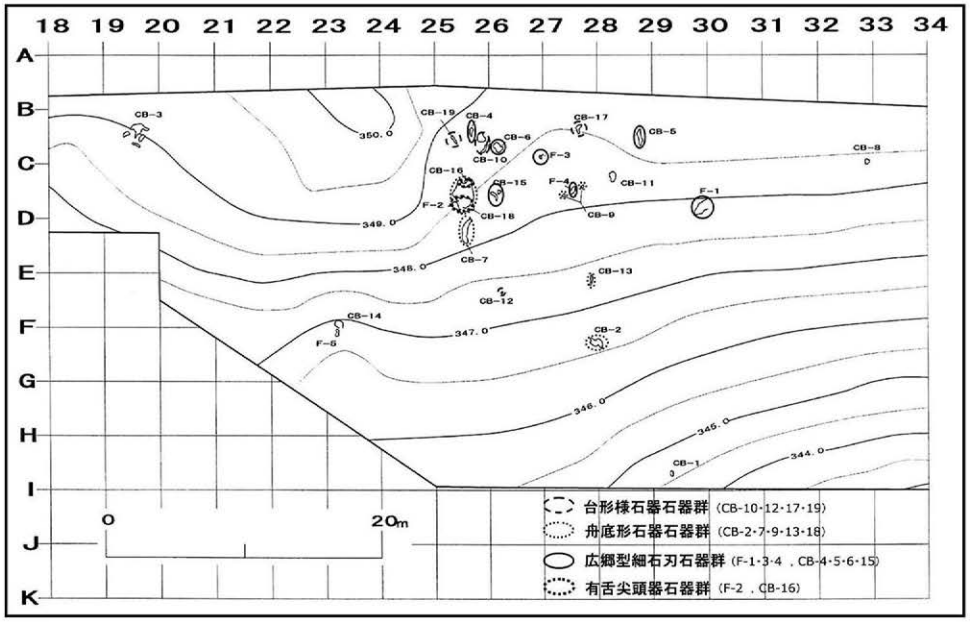


土層堆積状況（調査区北西壁）





BC25・26区遺物平面・断面分布状況

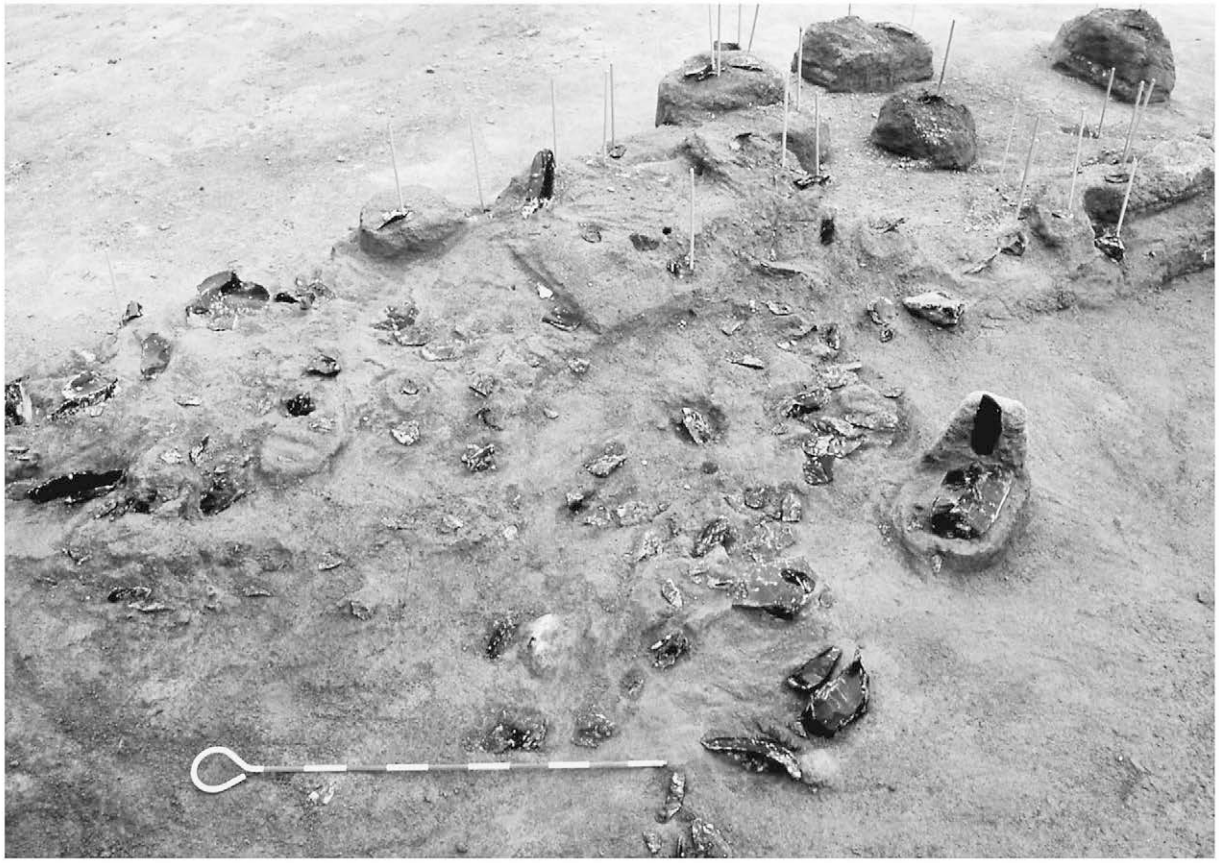


遺構分布状況

調査状況

土層堆積状況（調査区北西壁）

遺物出土状況（B25区広郷型細石刃石器群ブロック）



遺物出土状況（C26区広郷型細石刃石器群ブロック）

白滝遺跡群の整理

今年度は旧白滝５（平成15・18・19年度調査分）・ホロカ沢Ⅰ・旧白滝15・旧白滝16・旧白滝１遺跡の二次整理と今年度調査した旧白滝３遺跡の一次整理を行った。

報告書作成の順番によって作業内容は異なり、今年度報告の旧白滝５（平成15年度調査分）遺跡は『白滝遺跡群Ⅸ』の編集作業と刊行、平成21年度報告予定の旧白滝16・旧白滝１遺跡は接合作業・図化・データ処理作業と図版作成作業を行い、平成21年度以降に報告を予定している旧白滝５（平成18・19年度調査分）・ホロカ沢Ⅰ・旧白滝15遺跡は接合作業、及び図化・データ処理作業を行った。

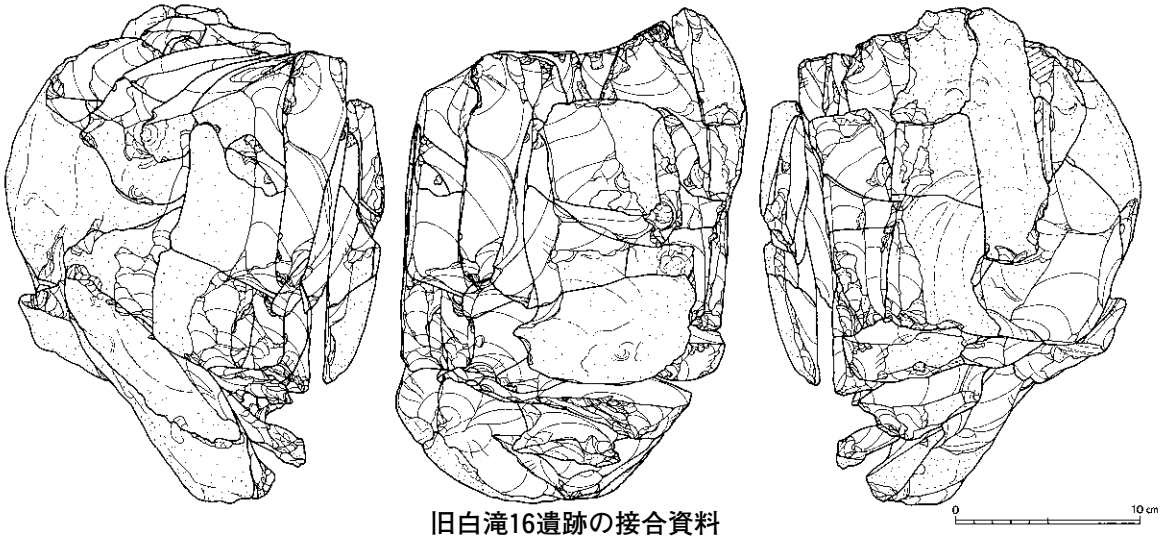
ここでは旧白滝16遺跡の「白滝Ⅰ群」について説明する。旧白滝16遺跡は、黒曜石の原石山である赤石山から流れ出る幌加湧別川と湧別川の合流点付近から約2.8㎞下流に位置している。調査面積は1,821㎡で、18,105点（点取り遺物3,360点、一括遺物14,745点）の石器類が出土した。

「白滝Ⅰ群」（小型不定形剥片石器群）は、点取り遺物で1,839点ある。調査区全体に分布し、大きく８つの集中域にまとまっている。石器類は二次加工ある剥片（「裏面微細加工石器」を含む）を主体とし、彫器・掻器・削器・錐形石器が見られ、石核の出土も多い。

接合作業の結果、剥離技術は大きく４つに分けられた。①石核の広い平坦面（剥片の腹面を含む）を作業面として求心状に打撃し、貝殻状の剥片を剥離するもの、②石核の小口面を作業面として平坦面からの打撃により、横長剥片を剥離するもの、③石核の小口面を作業面として長軸方向に打撃し、縦長剥片を剥離するもの、④打面と作業面を入れ替える交互剥離を基本として行い、その作業場所を転移させていき、最終的な石核の形態がサイコロ状になるもので、横長剥片・縦長剥片の他に剥片の片側縁が「く」の字状となる剥片が剥離されものである。

④の内、初期段階で縦長剥片を連続的に剥離するものを確認した（下図）。以下に詳しく述べる。石材は平坦面の残る転礫を利用し、ほぼ原石の状態で遺跡内に搬入されている。稜調整などの石核調整は行われず、原石の自然の稜を利用して剥離が開始されている。まず上面に大きく打面が作出され、正面で上からの剥離が行われている。次に、下面で下設の打面を作出し、正面で下からの剥離が打面再生を挟んで行われている。これら正面の剥離には両側縁とほぼ平行する稜を持つ縦長剥片が多く含まれている。ここまでの一連の剥離は石刃技法の範疇で捉えることも可能である。その後は、正面と上面の交互剥離が主体となり、作業場所を転移ながら剥離が進行し、最終的にサイコロ状の石核が遺棄されている。

「白滝Ⅰ群」では、③・④の剥離技術の中で縦長剥片を剥離しており、大型のものは上述のように剥片剥離の初期段階で得ていたものと考えられる。



旧白滝16遺跡の接合資料

釧路町（くしろちょう）　天寧（てんねる）１遺跡（Ｍ－02－28）

事 業 名：町道床丹５号線道路改良事業埋蔵文化財調査

委 託 者：釧路町

所 在 地：釧路郡釧路町中央7-15

調査面積：700㎡

調査期間：平成20年6月23日～9月18日

調 査 員：笠原　興、鈴木宏行

遺跡の概要

遺跡はJR釧路駅から東北東へ約５㎞離れた釧路川左岸の別保原野内に位置する。調査区は地表面（旧湿原）からの比高約５～６ｍの丘陵地で、半島状につきでた丘陵の端部である。調査区周辺は釧路湿原の東縁にあたり、谷地坊主がみられる地点もあったが、宅地化によってその範囲は狭められている。

遺跡のある台地部分は、テンネル式土器の標識遺跡となった天寧第１地点や天寧北貝塚、天寧南貝塚等が分布しており、古くから遺跡の存在が知られている場所であったが、現在ではそれらは一括して天寧１遺跡として登録されている。また、平成17・18年度に調査された地点は丘陵の南側にあたる。今回の調査範囲は平坦部と斜面部に分けられ、平坦部からは多くの遺構が、斜面部からは「魚骨層」が検出された。

基本土層はⅠ層：表土、Ⅱ層：黒色土層、Ⅲ層：褐色土層、Ⅳ層：黒色土層、Ⅴ層：黄褐色土層である。Ⅰ層には樽前ａ・ｂ、駒ケ岳c_2テフラが混じり、斜面部下部のⅣ層には樽前ｃテフラとみられる火山灰を確認している。主な遺物包含層はⅢ層で、「魚骨層」は斜面部のⅢ層下部に堆積している。

遺構と遺物

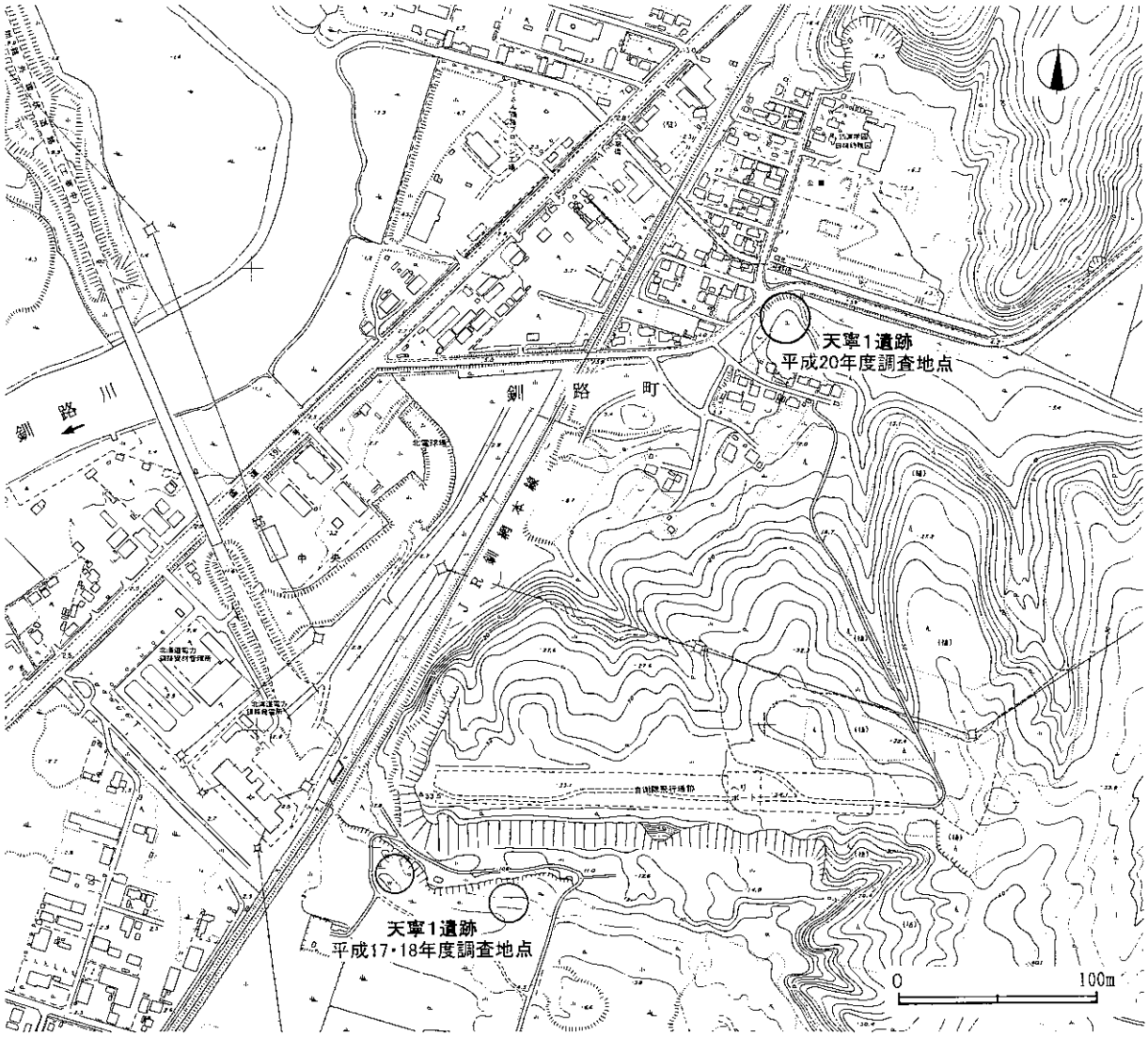
遺構は竪穴住居跡４軒、土坑29基、焼土13か所、集石６か所、斜面部において多量の動物遺存体を含む「魚骨層」を検出した。これらの遺構は、縄文時代晩期末～続縄文時代後期後半にかけての時期と考えられる。

竪穴住居跡4軒のうち、Ｈ－１・4には床面中央部に炉跡と考えられる焼土が伴い、Ｈ－4の炉跡には石囲いがある。Ｈ－4の北側は削平と崩落のため、住居の約半分を消失している。Ｈ－3は円形でやや小型の竪穴状遺構で、中央部に砂岩製の台石様の石器を伴い、周囲から微細な骨片を検出した。

土坑29基のうち、土坑墓と考えられるものが約15基ある。これらは覆土が埋め戻し状の堆積であり、床面にベンガラや副葬品を伴う。そのほかは覆土が自然堆積と考えられるものが多く、性格は不明である。土坑墓Ｐ－4のベンガラ中からは石斧３点、黒曜石製剥片石器が５点出土した。Ｐ－12は小型の浅い土坑墓で滑石（かっせき）製の勾玉（まがたま）のほか計６点の遺物がベンガラ中から出土した。また、Ｐ－１・５・20は他と比較してやや大型の土坑で、このうちＰ－5からは北大Ⅱ式と考えられる完形土器が２点出土した。これら３基の土坑からはベンガラを確認していない。

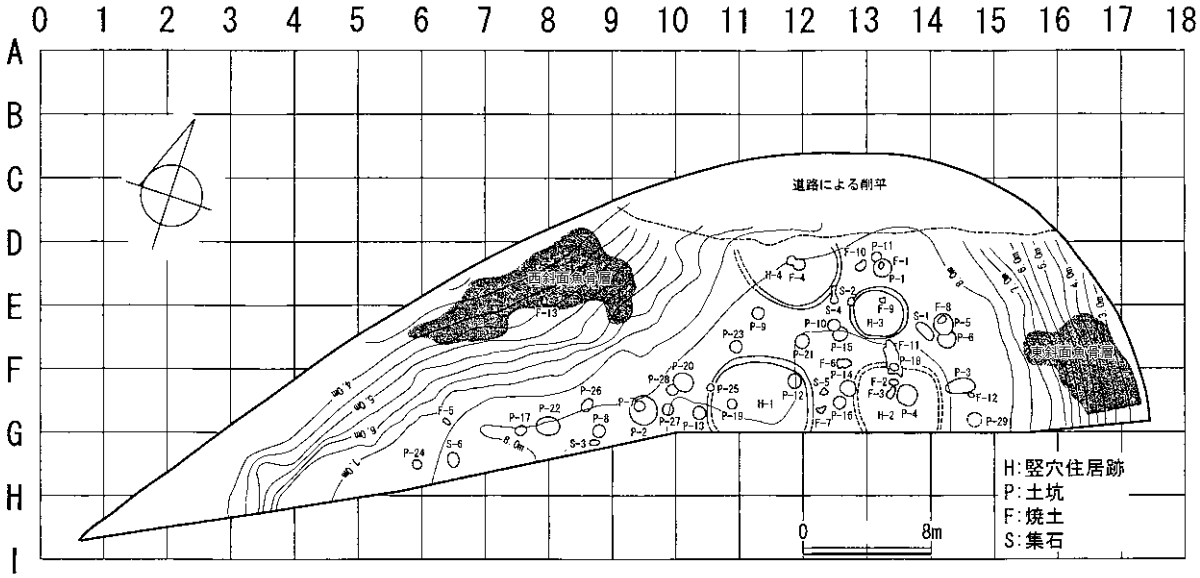
東西の斜面部で確認された「魚骨層」はヒラメ、カレイ類、スズキやイトヨ等の魚骨を多量に含む層で、層厚は最大50㎝ほどである。魚骨のほか、イルカ・クジラ等の海獣骨、オオハクチョウ等の鳥骨、エゾシカ、イヌ等の陸獣骨も含まれ、イノシシの犬歯や切歯も出土している。「魚骨層」は動物遺存体のほか、多くの土器・石器・灰・炭化物・ベンガラを含み、銛頭（もりがしら）や針等の骨角器も出土している。採取した魚骨層は土嚢袋（どのうぶくろ）で1,400を数えた。

遺物は土器、石器等が約150,000点出土した。土器は縄文時代晩期末の緑ヶ岡式が主体である。石器は黒曜石製の剥片石器が多く、礫石器は少ない。



遺跡位置図

（国土地理院長の承認を得て作成された２千５百分の１地形図「釧路町現況図」を使用）



遺構位置図

西斜面魚骨層検出状況

西斜面魚骨層土層断面

西斜面魚骨層動物遺存体出土状況

西斜面魚骨層土器出土状況

東斜面魚骨層骨角器出土状況

縄文時代晩期～続縄文時代竪穴住居跡（H－１）

続縄文時代土坑墓（P－５）

縄文時代晩期土坑墓（P－４）

平坦部遺構群

下川町（しもかわちょう）　サンル４線遺跡（F－21－68）

事 業 名：天塩川サンルダム建設事業の内埋蔵文化財発掘調査
委 託 者：国土交通省北海道開発局旭川開発建設部
所 在 地：上川郡下川町字珊瑠1530
調査面積：900㎡
調査期間：平成20年9月3日～10月29日
調 査 員：笠原　興、直江康雄

調査の概要

サンル４線遺跡は、下川市街から北北東へ約４㎞、四線沢川とサンル川との合流点の南側にある。今年度は最も低位の段丘面上にあるＡ地区の調査を行った。

Ａ地区の標高は158m前後で、サンル川との比高はおよそ５ｍである。この地区は四線沢川ないしサンル川の氾濫原にあたり、段丘化までに数回の洪水性の堆積が確認できる。遺跡の南東側は山地形で、その地質には珪化岩の岩帯が含まれている。したがって、背後の山地から流れる四線沢川からは、多量の珪化岩原石の採取が可能である。遺跡ではこれらの原石を利用した石器製作の痕跡を確認した。なお、山地形の反対側山麓には学史的に有名なモサンル遺跡があり、本遺跡と同様に多量の珪化岩が用いられている。

基本土層は、表土：腐植土＋礫、Ⅱ層：砂礫層、Ⅲ層：灰色粘土・腐植土・砂の互層（ラミナ層）、Ⅳ層：ラミナ層下部の灰色粘土層、Ⅴ層：砂礫層となっている。Ⅴ層のうち、自然堤防状の高まりを遺物分布図に示した。これらはおおよそ四線沢川と平行する方向で確認されており、当時の四線沢川の河道跡と考えられる。

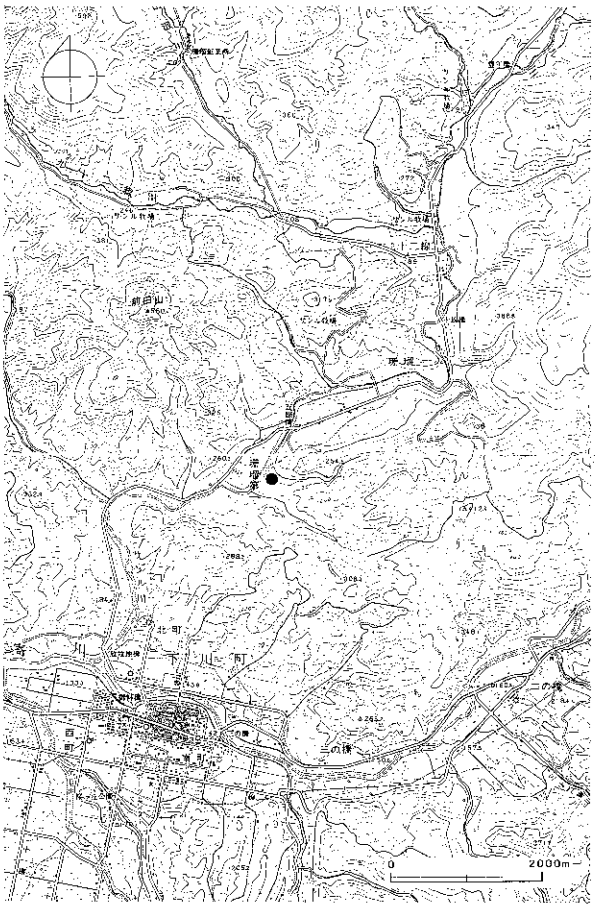
遺構と遺物

遺物は全て石器類で、約10,000点出土した。昨年度のトレンチ調査分を加えると約15,000点となる。掘り込みを伴う遺構や焼土は検出していない。遺物の出土層位は表土からⅤ層の間である。大部分の遺物は、河川堆積が成因であるⅡ層・Ⅴ層から出土している。これらの遺物及び表土・Ⅲ層から出土した遺物は、原位置を留めていないと判断し、調査区一括で収集した。Ⅳ層から出土した遺物は、ラミナ層にパックされた状態であったため、出土位置の記録を行った。

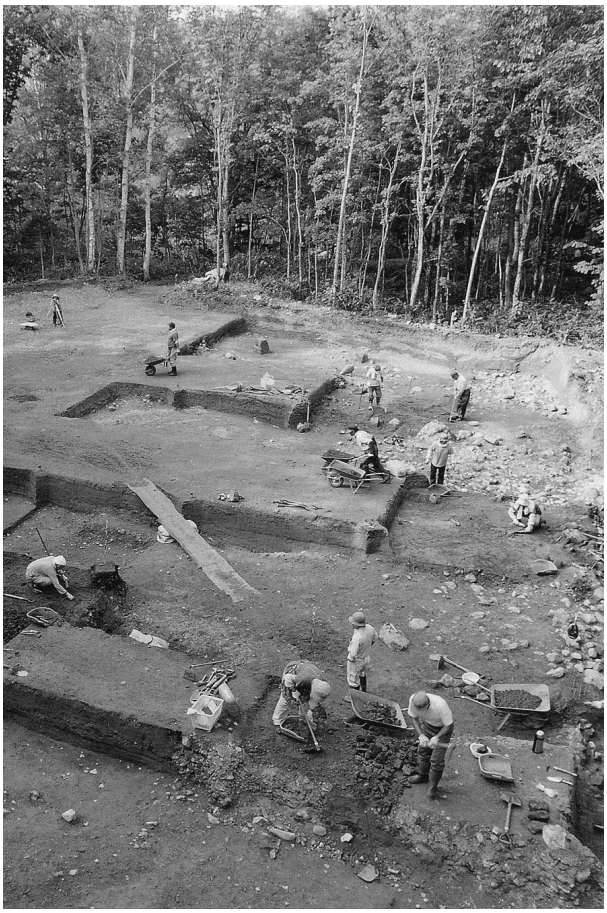
石器類の大部分は剥片で、その他にスクレイパー、二次加工痕のある剥片、石核が少量出土している。石材は珪化岩が用いられており、中でも黒色のものが多く見られた。その他に安山岩の剥片を１点確認している。

Ⅳ層中からはフレイク集中を６か所で確認した。いずれも径１ｍ前後の小規模なもので、集中域内の出土点数は100点前後である。特にz23区付近で３つの集中を近接して確認している。u17及びx18区から出土した集中は、Ⅴ層の高まりの縁に分布している。各集中内には同一母岩と認定可能な石器類があり、接合作業によって当時の人間活動の一端を復元できる可能性がある。Ⅳ層からは、型式学的に年代の特定できるような遺物は出土していない。昨年度のトレンチ調査でⅣ層から出土した炭化木片の^{14}C年代測定値が、4,855±25yrBPであった。古木効果の影響を考慮する必要があるが、Ⅳ層はおおよそ縄文時代中期前半に位置付けられ、上位の段丘面で出土した土器（Ｄ・Ｅ地区）の年代と同様の範囲に納まる。

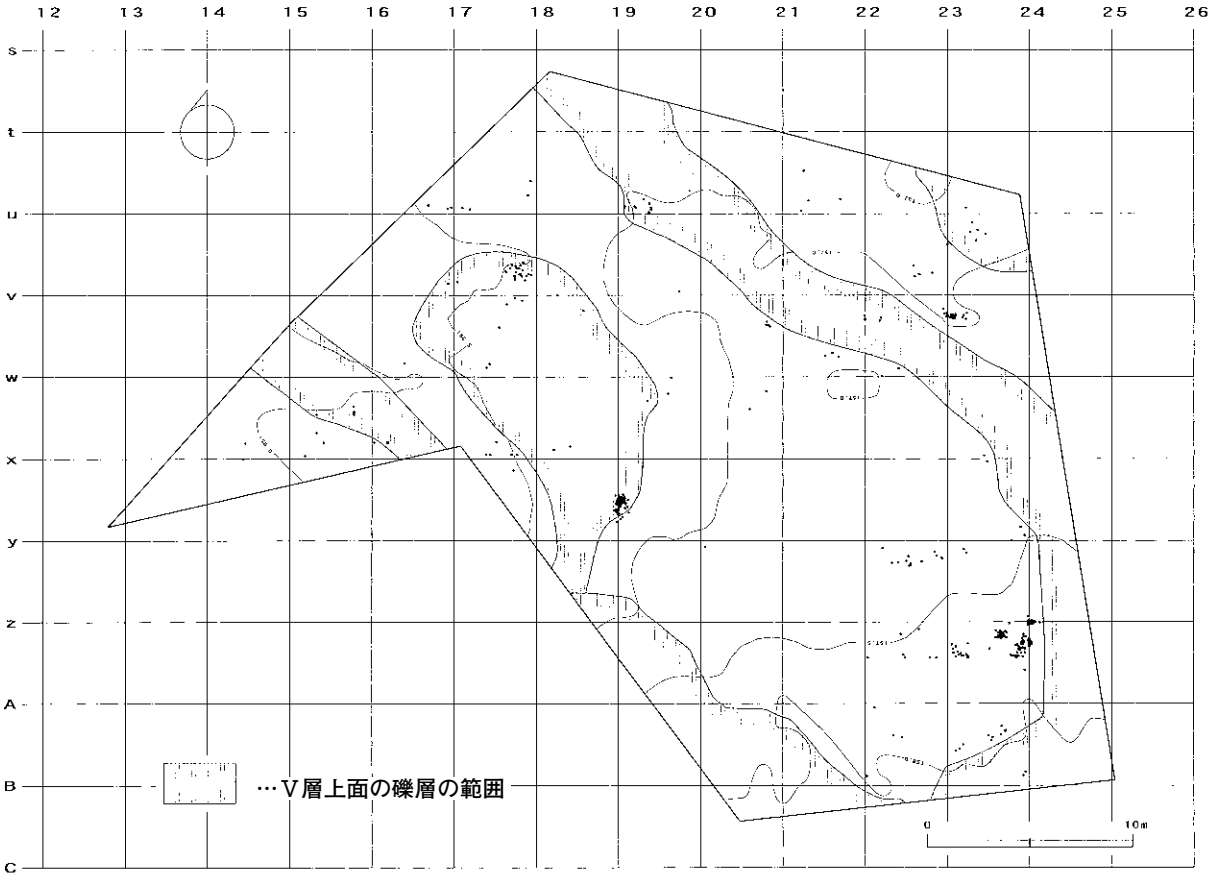
Ⅱ層中には、背面の稜線が側縁とほぼ平行する縦長剥片や連続的に縦長剥片を剥離した痕跡のある石核が少量出土している。これらは旧石器時代の石刃・石刃核と思われ、四線沢川の上流部に旧石器時代の遺跡が存在する可能性がある。



遺跡位置図　（国土地理院５万分の１地形図「サンル」・「下川」を元に作図した）



調査状況



Ⅳ層出土の遺物分布図

3　自然科学的分析

釧路町天寧（くしろ ちょうてんねる）１遺跡の放射性炭素年代測定結果について

天寧１遺跡は、釧路郡釧路町字別保原野南22線47－4に位置する。平成17・18年度に一般国道44号釧路町釧路外環状道路工事に伴う埋蔵文化財発掘調査を行い、平成20年に報告書を刊行した（北埋調報第254集）。整理の段階で、学術創成研究「弥生農耕の起源と東アジア－炭素年代測定による高精度編年体系の構築－」の一環として、天寧１遺跡出土試料を提供した。その結果が得られたので、ここに報告する。なお、測定機関は㈱パレオ・ラボ（略記号PLD）で、較正年代はIntCal04が用いられている。

表１　天寧１遺跡放射性炭素年代測定試料一覧

測定機関番号	試料番号	試料種類	試料の時期	採取地点	採取層位	サンプル番号	土器型式
PLD-10864	HDNISHI-01	骨（ヒト）	縄文後期前葉	GP１	覆土（盛土遺構ｍ２層中に掘り込み）	人骨№1	北筒Ⅲ～Ⅴ式
PLD-10865	HDNISHI-02	骨（スズキ歯骨Ｒ）	縄文後期前葉	貝塚	貝塚下層	骨№14	北筒Ⅴ式
PLD-10866	HDNISHI-03	骨（オットセイ♂若（大）上腕骨Ｒ）	縄文後期前葉	貝塚	貝塚下層	骨№11	北筒Ⅴ式
PLD-10867	HDNISHI-04	骨（タラ椎体）	縄文後期前葉	貝塚	貝塚下層	骨№8	北筒Ⅴ式
PLD-10868	HDNISHI-05	骨（シカ成獣距骨Ｒ）	縄文後期前葉	貝塚	貝層	骨№10	北筒Ⅴ式
PLD-10869	HDNISHI-06	骨(オットセイ♀ＡＤ大腿骨Ｒ)	縄文後期前葉	貝塚	貝層	骨№12	北筒Ⅴ式
PLD-10870	HDNISHI-07	骨（ヒト指骨）	縄文後期前葉	K-49	ｍ２層	人骨№28	北筒Ⅲ～Ⅴ式
PLD-10871	HDNISHI-08	骨（ヒト）	縄文後期前葉	K-49	ｍ２層	人骨№29	北筒Ⅲ～Ⅴ式
PLD-11149	HDNISHI-09	骨					
PLD-11140	HDMB-K1	貝	縄文後期前葉	貝塚	貝層		北筒Ⅴ式
PLD-11141	HDMB-K2	貝	縄文後期前葉	貝塚	貝層		北筒Ⅴ式
PLD-11142	HDMB-K3	貝	縄文後期前葉	貝塚	貝層		北筒Ⅴ式

表２　天寧１遺跡放射性炭素年代測定結果一覧

測定機関番号	炭素14年代		暦年較正（cal BC）								㈱昭光通商		
			年代１	確率１	年代２	確率２	年代３	確率３	年代４	確率４	δ^{13}C（‰）	δ^{15}N（‰）	ＣＮ比
PLD-10864	4500	25	3345-3260	33.4	3250-3095	62					-13	20.2	2.88276
PLD-10865	4465	28	3335-3210	51.7	3190-3150	11.8	3140-3080	19.2	3070-3025	12.8	-9.72	42.7	
PLD-10866	4430	30	3325-3235	20.6	3225-3220	0.6	3175-3160	2	3120-2925	72.3	-14.9	15.1	2.84247
PLD-10867	4430	30	3325-3235	20.6	3225-3220	0.6	3175-3160	2	3120-2925	72.3	-12.4	15.8	2.81507
PLD-10868	3740	25	2270-2255	1.8	2205-2115	64.5	2100-2035	29.2			-22	3.86	2.83871
PLD-10869	4295	25	3005-2990	2.1	2925-2880	93.4					-15.2	16	2.8366
PLD-10870	4405	25	3095-2920	95.4							-12.8	19.8	2.83108
PLD-10871	4390	25	3090-3040	19.9	3030-2920	75.3					-13.2	19.7	2.8543
PLD-11149	4490	30	3345-3090	94.8	3040-3035	0.7							
PLD-11140	4415	25	3265-3245	4.3	3100-2920	91.2							
PLD-11141	4520	25	3350-3305	19.3	3305-3265	11.1	3240-3100	65.1					
PLD-11142	4485	25	3340-3090	95.3									

付記

これら測定試料は、人骨および動物遺存体の測定を行うことで、炭化材や炭化種子との測定値にどの程度差が現れるかを明らかにするために選定したものである。参考に報告書に掲載した放射性炭素年代測定試料及び結果一覧（表３）を掲載した。すべての測定結果のうち、貝塚と盛土遺構出土試料について図にしたのが図1である。この図の左側4,200 y.B.P.より古い測定値は、図右側の4,000 y.B.P.より新しい測定値より600～900 y.B.P.の差がある。これらは、「海洋リザーバー効果」などの影響と考えられる。なお、人骨の炭素、窒素同位体を見ると、海産物を中心とした食生活であったことが読み取れる。（福井淳一）

引用文献：『釧路町　天寧１遺跡』㈶北海道埋蔵文化財センター調査報告書第254集　2008年３月

表３　北埋調報第254集掲載天寧１遺跡放射性炭素年代測定試料一覧

測定機関番号	試料番号	試料種類	試料の時期	採取地点	採取層位	サンプル番号	BP年代	較正年代
IAAA-62010	TN-15	泥炭		D-56	ⅩⅡｂ層	土壌54	5495±40	4450－4310BC
IAAA-62009	TN-14	泥炭		D-56	ⅩⅡa層	土壌53	5308±40	4260－4030BC
IAAA-62008	TN-13	泥炭	縄文前期前葉	D-56	Ⅹ層	土壌52	5673±33	4600－4440BC
IAAA-62007	TN-12	泥炭		D-56	Ⅸ層中	土壌57	5231±36	4080－3960BC
IAAA-62002	TN-07	炭化木片	縄文前期中頃	E-51	Ⅷ層	炭52	5085±33	3970－3790BC
IAAA-62006	TN-11	泥炭		D-56	Ⅷb層	土壌56	4741±35	3640－3490BC
IAAA-62005	TN-10	泥炭		D-56	Ⅷa層	土壌55	4836±35	3700－3620BC
IAAA-70575	TN-19	炭化木片	縄文後期前葉	K-50	m13層	フローテーション	3746±33	2230－2030BC
IAAA-70574	TN-18	炭化木片	縄文後期前葉	I-51	m12層	フローテーション	3930±33	2500－2290BC
IAAA-70573	TN-17	炭化木片	縄文後期前葉	K-48⑫	m5層	フローテーション	4388±34	3100－2910BC
IAAA-62000	TN-05	炭化木片	縄文後期前葉	F69	m4層	炭47	4508±37	3360－3090BC
IAAA-61999	TN-04	炭化木片	縄文後期前葉	S42	m3層	炭38	4468±38	3350－3020BC
IAAA-61998	TN-03	炭化木片	縄文後期前葉	K-48⑧	m2層	炭45	3789±36	2350－2120BC
IAAA-70579	TN-23	炭化木片	縄文後期前葉	S19	Ⅵ層	フローテーション	3895±33	2480－2280BC
IAAA-70578	TN-22	炭化木片	縄文後期前葉	炭集中１	Ⅴ層下	フローテーション	3926±32	2490－2290BC
IAAA-70577	TN-21	炭化木片	縄文後期前葉	F11	Ⅴ層中	フローテーション	3779±32	2300－2120BC
IAAA-70576	TN-20	炭化木片	縄文後期前葉	F2	Ⅴ層上	フローテーション	3812±31	2350－2130BC
IAAA-62001	TN-06	炭化木片	縄文後期前葉	F61	m8層上	炭1	3769±34	2300－2120BC
NU-1787	TN-30	貝殻（オオノガイ）	縄文後期前葉	貝塚	貝塚中層		4290±75	
IAAA-61997	TN-02	炭化木片	縄文後期前葉	貝塚	貝塚中層	炭53	3736±36	2210－2030BC
IAAA-70583	TN-27	炭化クルミ	縄文後期前葉	貝塚	貝塚中層		3615±32	2040－1880BC
IAAA-70582	TN-26	貝殻（ウバガイ）	縄文後期前葉	貝塚	貝塚上層		4312±32	
IAAA-70581	TN-25	貝殻（マガキ）	縄文後期前葉	貝塚	貝塚上層		4256±34	
IAAA-70572	TN-16	炭化木片	縄文晩期前半	M-48	m1層	フローテーション	3013±31	1390－1120BC
IAAA-62004	TN-09	泥炭	縄文晩期前半	N-49	Ⅳc層下	土壌66	2867±32	1130－920BC
IAAA-61996	TN-01	炭化木片	縄文晩期前半	P8	覆土	炭51	2866±35	1130－920BC
IAAA-70580	TN-24	泥炭	縄文晩期前半	Y-34	13層	土壌№35	1060±29	940－1030AD
IAAA-62003	TN-08	泥炭	Ta-aとKo-c2間	N-49	Ⅲb層	土壌58	124±30	1790－1949AD

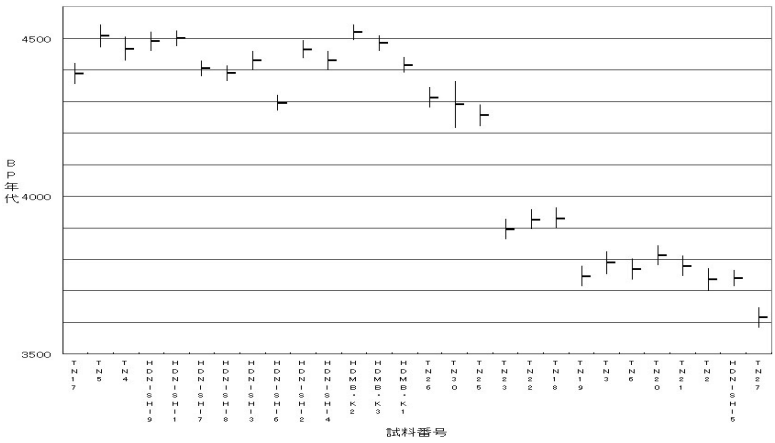


図１　天寧１遺跡貝塚・盛土遺構出土試料BP年代一覧

4　現地研修会の記録

9月11日（木）、12日（金）に森町、函館市、北斗市を会場にして現地研修会を行った。今回は研修テーマを遺跡の発掘調査ならびに「史跡整備」の現状とし、当埋蔵文化財センターが調査中の遺跡のみならず、函館市内で調査中の遺跡、函館市内、北斗市内の国指定史跡などを見学した。

調査中の遺跡および史跡の見学にあたっては、特定非営利活動法人函館市埋蔵文化財事業団、函館市教育委員会、北斗市教育委員会から大きな配慮をいただいた。さらに、遺跡の案内・説明では萩野幸男、田原良信、森靖裕の諸氏には、好意に満ちた対応をしていただいた。ここに記して感謝の念をあらわしておきます。

以下に研修会の概要を記しておく。

11日（木）　森　町　石倉１遺跡の見学
　　函館市　豊崎Ｐ遺跡の見学（南茅部地区）
　　史跡大船遺跡の見学（南茅部地区）
　　特別史跡五稜郭跡の発掘調査部分、「箱館奉行所庁舎」復元工事の見学

12日（金）　北斗市　館野６遺跡、館野２遺跡の見学
　　史跡松前藩戸切地陣屋跡の見学

函館市　豊崎Ｐ遺跡の見学

特別史跡五稜郭跡の発掘調査部分の見学

「箱館奉行所庁舎」復元工事の見学

5　協力活動及び研修

⑴　協力活動

ア　発掘現場見学

＊北斗市館野２遺跡見学（せたな町姉妹都市交流推進協議会）　６月４日
＊千歳市内の遺跡見学（大阪府立弥生文化博物館「北海道史跡と考古の旅」）　６月９日
＊森町石倉１遺跡（大阪府立弥生文化博物館「北海道史跡と考古の旅」）　６月10日
＊北斗市内の遺跡（大阪府立弥生文化博物館「北海道史跡と考古の旅」）　６月11日
＊遠軽町旧白滝３遺跡見学（遠軽町立白滝小学校）　６月11日
＊千歳市祝梅川上田遺跡（NHK文化センター新さっぽろ教室「北の遺跡を探る」）　６月26日
＊千歳市梅川４遺跡（千歳市立第二小学校）　７月３日
＊森町石倉１遺跡（森・鷲ノ木ストーンサークル研究会）　７月３日
＊北斗市館野２遺跡（北斗市教育委員会）　７月14日
＊北斗市館野２遺跡（北斗市「子どもチャレンジ講座」）　７月30日
＊森町石倉１遺跡（七飯町歴史館ジュニア探検クラブ）　７月31日
＊千歳市祝梅川上田・祝梅川小野・梅川１・梅川４遺跡（北海道考古学会）　８月３日
＊千歳市梅川４遺跡（千歳市教育委員会「歴史発見！人と自然の歴史を知る旅」）　８月６日
＊千歳市梅川４遺跡（道央圏連絡道路工事連絡協議会「地域高規格道路　道央圏連絡道路（一般国道337号）工事現場見学会」）　８月７日
＊北斗市館野２遺跡（北斗市「ちびっ子アドベンチャー」）　８月８日
＊釧路町天寧１遺跡（こどもエコクラブくしろ）　８月11日
＊森町石倉１遺跡（東日本高速道路株式会社新人社員研修）　９月９日
＊千歳市祝梅川上田遺跡（NPO法人千歳ひと・魅力まちづくりネットワーク）　９月25日
＊千歳市祝梅川上田遺跡（恵庭市教育委員会）　９月27日
＊千歳市祝梅川小野遺跡（北海道開発局札幌開発建設部用地課職員研修）　９月30日
＊下川町サンル４線遺跡（下川町文化財保護審議委員会）　10月10日
＊森町石倉１遺跡（東日本高速道路株式会社新人社員研修）　10月24日

イ　委員会・講演会

＊国立民族学博物館文化資源プロジェクト「常呂町栄浦第２遺跡出土の箱形開孔板綜絖のレプリカもしくは模造品の製作及び周辺情報の科学分析」会議（札幌市）
　《研究協力者》田口　１月17日
＊恵庭市郷土資料館遺跡発掘調査報告会（恵庭市）
　《講師》土肥　２月16日
＊奈良文化財研究所保存科学研究集会「壁画古墳の保存に関わる諸問題」（奈良県奈良市）
　《出席》田口　２月27日～29日
＊史跡標津遺跡群、天然記念物標津湿原整備委員会（標津町）
　《委員》畑　２月28日・29日
＊中央バスグループ観光バスガイド教習講義（札幌市）
　《講師》畑　３月４日

＊オホーツク地域観光振興シンポジウム（遠軽町）
《講師》畑　3月15日
＊平成19年度北海道文化財保護協会第3回常任理事会（札幌市）
《常任理事》畑　3月26日
＊科学研究費補助金基盤研究Ｃ「大型Ｘ線CTスキャナを活用した精密非破壊調査」に関する研究会
《派遣》田口　3月27日～29日
＊科学研究費補助金「弥生農耕の起源と東アジア－炭素年代測定による高精度編年体系の構築－」
《研究協力者》西田　4月1日～平成21年3月31日
＊札幌三信倉庫社員研修（札幌市）
《講師》畑　4月9日
＊平成20年度北海道文化財保護協会第2回役員会（札幌市）
《常任理事》畑　4月21日
＊文化財の保存措置にかかる保存処理の状況確認ならびに作業指導（小樽市）
《派遣》田口　4月25日
＊文化財保存修復学会第30回記念大会（福岡県太宰府市）
《出席》田口　5月16日・17日
＊日本文化財科学会第25回大会（鹿児島県鹿児島市）
《出席》田口　6月14日・15日
＊平成20年度北海道文化財保護協会第1回常任理事会（札幌市）
《常任理事》畑　6月21日
＊伊達市オコンシベの会「新・ロビー講座」（伊達市）
《講師》村田　6月21日
＊伊達市オコンシベの会「新・ロビー講座」（伊達市）
《講師》酒井　7月19日
＊北の縄文文化を発信する会「北海道洞爺湖サミットと北の縄文文化」報告会講演（札幌市）
《講師》畑　7月21日
＊アイヌ政策を考える懇談会（札幌市）
《メンバー》畑　8月4日
＊史跡入江・高砂貝塚整備検討委員会（洞爺湖町）
《委員》畑　8月4日・5日
＊北海道大学アイヌ納骨堂におけるイチャルパ（札幌市）
《参加》西田　8月8日
＊長野県長和町立星くずの里たかやま黒耀石体験ミュージアム平成20年特別展「よみがえる旧石器時代の狩人」解説および展示指導（長野県長和町）
《派遣》直江　8月21日・22日
＊日本第四紀学会2008年大会（東京）
《出席》花岡　8月22日～26日
＊伊達市オコンシベの会「新・ロビー講座」（伊達市）
《講師》福井　8月23日

＊北海道開拓記念館第64回特別展「古代北方世界に生きた人びと－交流と交易－」開会式（札幌市）
《出席》畑　9月12日
＊虻田郡豊浦町礼文華小幌海岸、小幌洞窟遺跡検出の土層（貝層）断面剥ぎ取り現地指導（豊浦町）
《派遣》田口　8月29日～31日
＊平成20年度仙台藩白老元陣屋資料館講座「虎杖浜2遺跡発掘調査報告会」（白老町）
《講師》阿部　9月13日
＊平成20年度北海道文化財保護功労者選考委員会（札幌市）
《委員》畑　9月24日
＊史跡最寄貝塚保存整備委員会（網走市）
《委員》畑　9月29日
＊札幌医科大学収蔵アイヌ人骨・遺跡出土人骨イチャルパ（札幌市）
《参加者》西田　10月1日
＊平成20年度北海道文化財保護協会第2回常任理事会（札幌市）
《常任理事》畑　10月2日
＊平成20年度北海道文化財保護協会第2回役員会（札幌市）
《常任理事》畑　10月2日
＊苫小牧駒澤大学環太平洋・アイヌ文化研究所シンポジウム「丸木舟が照らすアイヌ文化」（苫小牧市）
《講師》田口　10月19日
＊置戸町郷土史講座（置戸町）
《講師》畑　10月20日
＊史跡カリンバ遺跡整備計画策定委員会（恵庭市）
《委員》畑　10月23日
＊平成20年度北海道文化財保護協会第3回編集委員会（札幌市）
《出席》越田（賢）　11月10日
＊厚真町出土特殊遺物に関する指導（厚真町）
《派遣》田口　11月10日・11日
＊南北海道考古学情報交換会（八雲町）
《発表》皆川・福井　12月7日
＊平成20年度北海道文化財保護協会編集委員会（札幌市）
《編集委員》越田（賢）　12月15日
＊第2回アイヌ政策を考える懇談会（札幌市）
《メンバー》畑　12月18日
＊北海道考古学会遺跡調査報告会（札幌市）
《発表》広田・鈴木（宏）　12月20日
＊東北日本の旧石器文化を語る会（岩手県滝沢村）
《発表》坂本（尚）　12月20日・21日

⑵ **研修**

ア　研修・研究会参加

＊平成19年度第２回埋蔵文化財担当職員等講習会（兵庫県姫路市）
　村田・加藤・中村（輝）　１月10日～12日

＊平成19年度埋蔵文化財担当者専門研修「竪穴建物遺構調査課程」（奈良県奈良市）
　山田　２月４日～８日

＊財務会計事務担当者職員研修会（札幌市）
　中村（貴）　５月13日

＊新公益法人制度特別講習会（札幌市）
　松本（繁）　５月22日

＊全国埋蔵文化財法人連絡協議会総会（京都府京都市）
　坂本（均）・松本（繁）　６月11日・12日

＊公益法人制度改革に関する説明会（札幌市）
　松本（繁）　７月１日

＊第20回埋蔵文化財写真技術研究会（奈良県奈良市）
　菊池・吉田（裕）　７月４日～６日

＊全国埋蔵文化財法人連絡協議会コンピュータ等研究委員会（山口県山口市）
　西田・倉橋　７月17日・18日

＊平成20年度第１回埋蔵文化財担当職員等講習会（茨城県水戸市）
　中村（貴）・小笠原　９月３日～５日

＊公益法人定例講座（札幌市）
　中村（貴）　10月８日

＊平成20年度全国埋蔵文化財法人連絡協議会北海道・東北地区会議ならびに同北海道・東北地区コンピューター等研究委員会（福島県福島市）
　西田・倉橋　10月11日

＊全国埋蔵文化財法人連絡協議会研修会（神奈川県横浜市）
　葛西・礒田・小杉　10月９日・10日

＊公益法人定例講座（札幌市）
　松本（繁）・葛西　11月18日

＊市民救護士講習（江別市）
　鎌田・新家・影浦・立田　11月19日

＊全国埋蔵文化財法人連絡協議会海外研修（中国）
　坂本（均）・坂本（尚）・直江　12月５日～10日

＊公益法人定例講座（札幌市）
　松本（繁）・葛西　12月９日

＊公益法人定例講座（札幌市）
　松本（繁）・葛西　12月11日

＊教育関係公益法人研修会（札幌市）
　畑　12月12日

イ　内部研修

＊平成20年度現地研修会（北斗市）　9月11日・12日

＊平成20年度現地調査報告会（センター研修室）　11月27日

6　平成20年度刊行予定報告書

第258集『下川町　サンル４線遺跡』

天塩川サンルダム建設事業の内埋蔵文化財発掘調査報告書

第259集『むかわ町　穂別Ｄ遺跡』

北進平取線交付金Ｂ（交安）工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書

第260集『恵庭市　西島松５遺跡(6)』

柏木川基幹河川改修工事用地内埋蔵文化財発掘調査報告書

第261集『白滝遺跡群Ⅸ』

一般国道450号白滝丸瀬布道路工事用地内埋蔵文化財発掘調査報告書

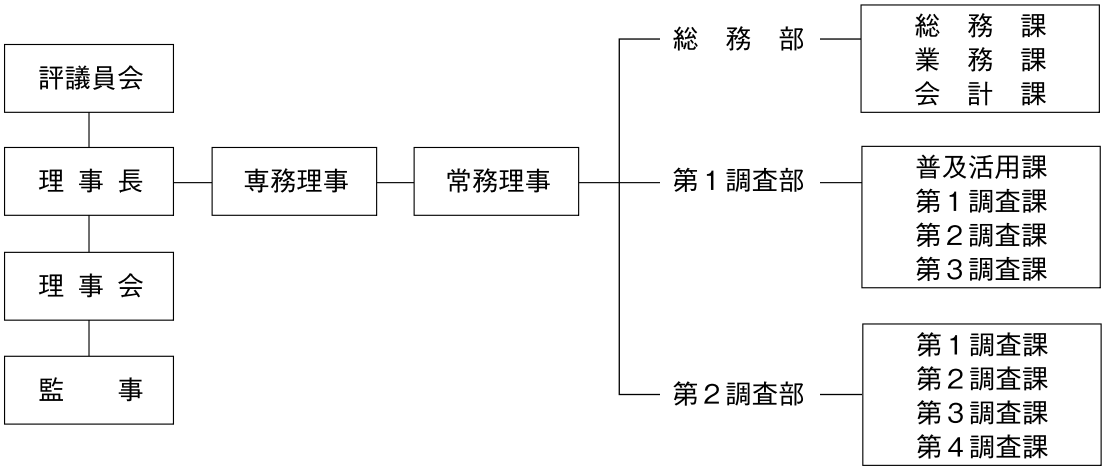
7　組織・機構

役　　員（平成20年６月１日現在）

理事長	坂本　　均	常勤
専務理事	佐藤俊和	常勤
常務理事	畑　　宏明	常勤
理事	石林　　清	非常勤
理事	小原信夫	非常勤
理事	菊池俊彦	非常勤
理事	北川芳男	非常勤
理事	谷本一之	非常勤
理事	田端　　宏	非常勤
理事	藤島省三	非常勤
理事	森重楯一	非常勤
理事	三野紀雄	非常勤
監事	佐藤一夫	非常勤
監事	村山邦彦	非常勤

評 議 員（平成20年６月16日現在）

評議員	氏家　　等	非常勤
評議員	川上　　淳	非常勤
評議員	木村方一	非常勤
評議員	白崎三千年	非常勤
評議員	白野　　覚	非常勤
評議員	昌子守彦	非常勤
評議員	鶴丸俊明	非常勤
評議員	谷　　直人	非常勤
評議員	戸塚　　隆	非常勤
評議員	西　　幸隆	非常勤
評議員	松田光睆	非常勤
評議員	横山健彦	非常勤



8　職　　員（平成20年４月１日現在）

総務部

総務部長	松本昭一
総務課長	松本　繁
主　査	葛西宏昭
主　任	今本宏信
参　与	北浦　満
参　与	石田八郎
業務課長	菅野　聡
主　査	磾田千秋
主　任	小杉　充
主　任	小笠原　学
参　与	中村輝夫
参　与	山本昌利
会計課長	吉田貴和子
主　任	中村貴志

第１調査部

第１調査部長	越田賢一郎
普及活用課長	村田　大
主　査	藤本昌子
主　査	倉橋直孝
主　査	藤井　浩
第１調査課長	田口　尚
主　査	花岡正光
主　任	吉田裕史洋
第２調査課長	三浦正人
主　査	越田雅司
主　任	愛場和人
主　任	末光正卓
主　任	広田良成
主　任	阿部明義
第３調査課長	鈴木　信
主　査	鎌田　望
主　査	菊池慈人
主　任	新家水奈
主　任	影浦　覚
主　任	芝田直人
主　任	山中文雄
主　任	酒井秀治

第２調査部

第２調査部長	西田　茂
第１調査課長	遠藤香澄
主　査	中山昭大
主　任	福井淳一
主　任	大泰司　統
主　任	立田　理
第２調査課長	佐川俊一
主　査	立川トマス
主　査	皆川洋一
主　任	冨永勝也
第３調査課長	佐藤和雄
主　査	谷島由貴
主　査	土肥研昌
主　任	袖岡淳子
主　任	佐藤　剛
主　任	柳瀬由佳
第４調査課長	熊谷仁志
主　査	笠原　興
主　任	鈴木宏行
主　任	坂本尚史
主　任	直江康雄

調　査　年　報　21

平成20年度

平成21年２月12日発行

編集・発行　財団法人 北海道埋蔵文化財センター
〒069-0832 江別市西野幌685-1
TEL 011-386-3231・FAX 011-386-3238
URL http://www.domaibun.or.jp/
E-mail mail@domaibun.or.jp

印　　刷　社会福祉法人 北海道リハビリー
〒061-1195 北広島市西の里507番地1
TEL 011-375-2116㈹・FAX 011-375-2115